

創立50周年 記念誌



福島県立南会津高等学校

創立五十周年記念誌

福島県立南会津高等学校



明神岳より撮影(平成9年)

校舍全景



←山口方面

福島県立南会津高等学校

校歌

作詞 深見三郎
作曲 古間雄二

一 山脈の肌清く

晴れゆく朝

伊南のせせらぎ

水澄むとら

展げゆく郷

新たな文化

南南 南会津

高等学校

二 幸多き大自然

尾瀬の高原

煙霧に湧き

出ずる雲

かかげる理想

花咲く文化

南南 南会津

高等学校

三 春の花若き歌

希望あふれて

錦綉の秋

しらがの冬

正しく法を

貫く文化

南南 南会津

高等学校

創立五十周年記念 平成十年九月

五十歳 天宮書



修学の指針(校訓)



校旗



校章の意味

この校章は、昭和二十三年本校創立とともに制定されたものである。
燧、駒止などわが学舎を囲む山々を四方の頂点とし、そのふもとを伊南川と只見川が流れていることを表している。
また、周囲のブナの若菜には、この大自然の中の学舎で培われるやさしさと、力強さを兼ね備えた本校生徒の限りない発展が託されているのである。

デザイン

飛田 昭 喬(ひだ てるたか)

福島師範卒 田村 高校長

郡山女子大教授を歴任

創立五十周年記念誌目次

目でみる母校の変遷

カラーグラビア

校舎の移り変わり——8

思い出の学び舎・分校——12

校舎の変遷——14

ごあいさつ

創立五十周年記念誌の発刊に際して	校長	山田和彦	16
発刊にあたり	創立五十周年記念事業実行委員長	馬場清雄	18
お祝いのことば	南郷村長	本名祐雄	19
創立五十周年を迎えて	同窓会長	辺見賢	20
創立五十周年記念事業記念誌発刊によせて	湧雲会長	山内太郎	21
創立五十周年に当たって	P T A 会長	森 豊喜	24
唯一無二の高校が五十周年を迎えること	生徒会長	森 大二郎	25
私とその高校で学んでいること			

写真で見る南会津高校五十年のあゆみ

28

寄稿 「思い出のたより」

歴代学 校長	74
恩師（教職員）	90
同窓生・P T A・野球部後援会	140
故渡部次郎先生を偲んで	140



南会津高校五十年の記録

歴代学校長

歴代同窓会長・PTA会長・湧雲会長

学校施設の概要

校歌・応援歌・時習寮歌

特色ある学習活動

部活動栄光の記録

在校生徒数・卒業状況・進路状況——174

出身中学校・保護者職業——176

統計資料

通学状況——178

出身集落別生徒数——180

県立高等学校授業料の年度別推移——182

県立高等学校入学科の年度別推移——186

歴代学校長・教頭・PTA会長・同窓会長・湧雲会長・生徒会長一覧

旧職員一覧

現職員一覧



記念事業関係

趣意書

記念事業実行委員会規約

経過報告

記念式典等の日程



編集後記

表紙題字／福島県知事 佐藤栄佐久

220

219 214 212 211

209 189 187

169 164 160 155 152 150

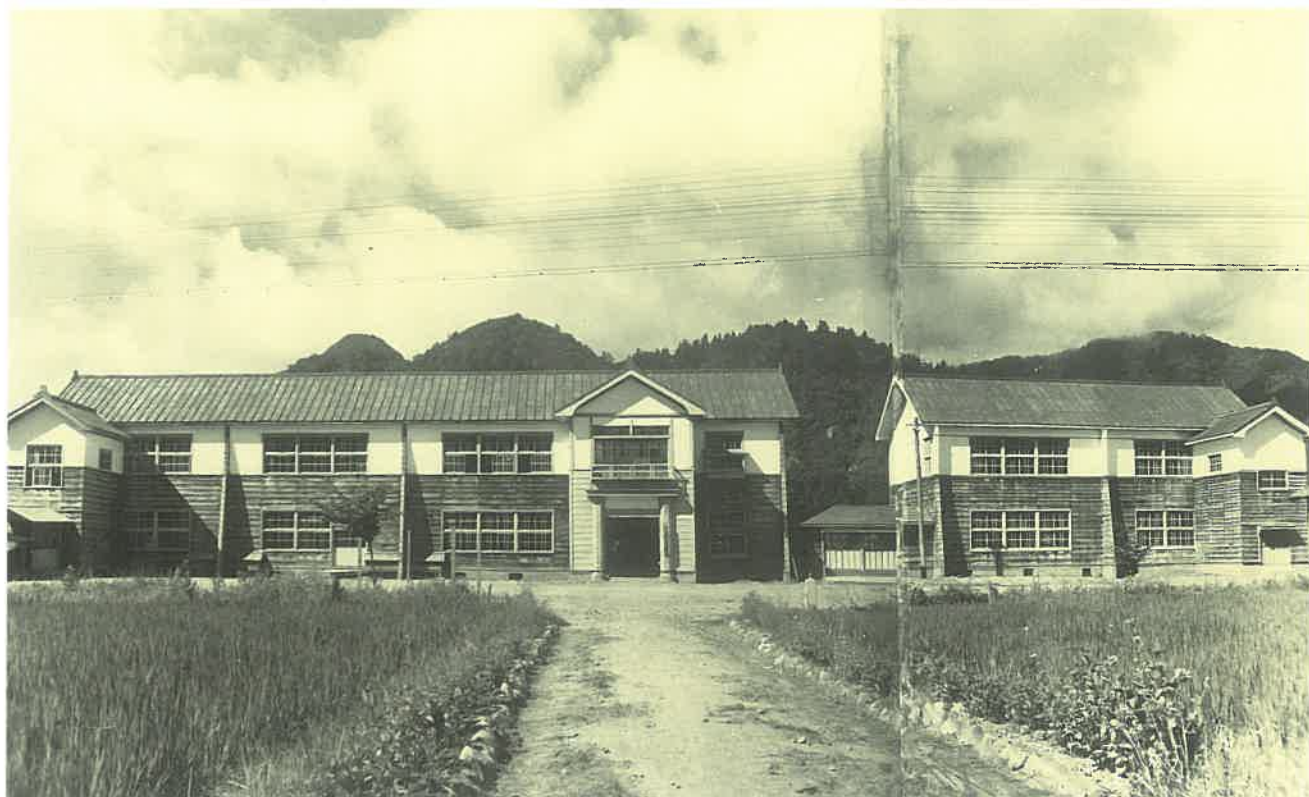
目で見る母校の変遷

校舎の移り変わり



▲南会西部高校誕生の地・旧富田中学校（昭和23年）





▲校舎右半分が離れていた頃の南会西部高校（昭和30年）



◀水害前の南会西部高校
（昭和33年）

▼台風による水害後の校舎（昭和41年）





▲南会津高校の全景（昭和45年）



▲冬の高校全景（昭和47年）

改築工事が進む校舎▶
(昭和53年)



◀新校舎となった南会津高校・新体育館は工事中(昭和55年)

明神岳からの全景▶
(現在)



思いでの学び舎・分校



▲伊南分校（改築前の伊南村立伊南中学校）



▲明和分校・つつじヶ丘分校（現在廃校）



▲朝日分校（旧朝日村立朝日小学校）



▲只見分校・只見校舎（改築前の只見高校）

校舎の変遷

只見町		館岩村	伊南村	南郷村		区分
伊北分校開設 (七月)	朝日分校開設 (七月)	館岩分校開設 (七月)	伊南分校開設 (七月)		南会西部高校開設(和泉田 地内) (七月)	南会西部高校時代 昭和二十三年
				大宮分校開設 (三月)		昭和二十四年
		館岩分校廃止 (三月)			現在地(界地 内)に移転 (十二月)	昭和二十五年
		明和分室開設 (十二月)		本校に統合 (三月)		昭和二十六年
只見分校と改 称 (十一月)		明和分校と改 称 (四月)				昭和二十七年
	統合し、つっじヶ 丘分校と改称・ 朝日校舎となる (四月)	統合し、つっじヶ 丘分校と改称・ 明和校舎となる (四月)				昭和三十二年
			伊南分校廃止 (三月)			昭和三十四年
南会津高校と 改称・只見校 舎となる (四月)					南会津高校と 改称・南郷校 舎となる (四月)	南会津高校時代 昭和三十五年
	つっじヶ丘分 校朝日校舎廃 止 (三月)					昭和三十六年
只見高校とし て独立 (四月)		只見高校つっ じヶ丘分校と なる (四月)				昭和三十九年

ご

あ

い

ち

っ

創立50周年記念誌の 発刊に際して



校長 山田和彦

一人の人間が五十歳を迎えるまで、どれほどの人との出会いがあり、どれほどの人に支えられるのでしょうか、数えきれないでしょう。

昭和二十三年七月に、本校の前身「福島県立南会西部高等学校」が南会西部地域の高等学校教育の基幹校として創立され、昭和三十五年に校名の改称により、現在の「福島県立南会津高等学校」となりましたが、平成十年七月には創立五十周年を迎えました。

歴史に密度の違いがあるとしたら、本校の歴史は濃いものでしょう。変遷を見ても、創立時期から分校の配置、並びに廃止、季節学級の設置並びに廃止、分室の設置並びに廃止、短期産業教育の設置並びに廃止、分校の独立等めまぐるしいものです。

五十年の間には、四度の水害に見舞われ、特に昭和三十三年・三十四年の水害では本校存立の危機すら報道されるものでした。しかし数々の困難な局面も、地域の方々の絶大なご協力と県当局のご高配により切り抜けたばかりでなく、かえって充実につながりました。創立以来本校を支えてくださっ

た方々はそれこそ数えきれぬものではありません。ところで、学校の存立の意義を問われるとしたら、学校が地域にどれだけ貢献しているかということになるでしょう。

本校は普通科、定時制農業科、家庭科、短期産業教育科、別科合わせて五、三七四名の卒業生を世に送り出しています。卒業生はそれぞれの社会で有為な人材として活躍されております。さらにまた、伊南川流域の持つ教育力を考えた場合、本校の果たしている役割は大きいでしょう。

もう一つ、本校は地域の人々に希望を与え得る存在であるかどうか、ということでもあります。このことについては常に学校が努力してきたところでもあります。消長はありますが部活動の成果にも見るべきものがあります。近年の卒業生の進路に関する成果は目を見張るものがあります。少人数の集団なのによく健闘していると評価されています。

春艶やかに美しく咲くソメイヨシノは植栽されるものですが、幹はたかだか五十年で痛んでしまっています。山地の雑木に交じって咲く山桜は、艶や

かきはないが、楚々とした風情で凜として咲きま
す。幹もなかなか太くなりませんが、一〇〇年も
二〇〇年も生き、材質も優れています。本校の目
指すものは、この山桜なのだと思います。今後も
地域の期待に応えるためいっそう努力して参りた
いと思います。

五十年は時の流れとしてのエポックであります。
それを意義あらしむるために本校創立五十周年記
念事業実行委員会が組織され、記念事業として、
トレーニングマシンの設置、校歌扁額の掲額、
講演会、記念誌の発刊等が進められました。

記念誌の発刊は、本校の五十年の歴史を見つめ
直し、本校のいっそうの発展のためにどうすべき
なのか、どうあるべきなのか、展望を持つ機会を
作ってくれるものと思います。

このたびの創立五十周年記念事業を推進するに
あたり、関係町村を始めとして、地域の方々、関
係の方々に多大のご協力をいただきましたことに、
厚く御礼を申し上げます、あいさついたします。

発刊にあたり



創立50周年記念事業実行委員長 馬場 清雄

このたび、南会津高等学校が創立五十周年を迎え、記念誌を発刊できますことは、実行委員長として大きな喜びとするところでございます。

平成七年十月三十一日、本事業の推進母体南会津高等学校を考える会において、実行委員会を組織し記念式典を平成十年秋に行うことを決議され、その後、平成八年一月二十九日第一回南会津高等学校創立五十周年記念事業実行委員会の席上、当時PTA会長であったがために、実行委員長の役割を仰せつかり今日に至っております。

この間、数回にわたり実行委員会や各専門委員会を開催していただき、本事業の成功に向け議論されてきたところでございます。

その結果、募金目標を二、二〇〇万円とし、記念式典、講演会、祝賀会を平成十年九月五日に行うこととし、記念事業としてトレーニングマシンの設置、創立五十周年記念誌の発行、校歌扁額が決定されました。

この記念誌の発刊は、三つの大きな事業の一つであり、過去を振り返り、幾多の困難を乗り越え、

すばらしい歩みを続ける南会津高等学校を未来に向ってさらに飛躍させるための記念誌になればと、念願するものであります。

平成十年三月までに本校を巣立った卒業生は、五、三七四名を数え、各界各層での活躍はもちろんのこと、南郷村をはじめとして当地域振興の大きな原動力となっておりますことは、今更申し上げるまでもございません。

創立五十周年と言う大きな節目を契機として、南会津高等学校の限らない発展を心より願うものであります。

結びに、本誌の発刊にあたり、編集委員会の皆様をはじめ、校長先生並びに諸先生方、PTA、同窓会、地域の皆様方のご協力に厚く御礼申し上げます。発刊のごあいさつと致します。

お祝いのことば



南郷村長 本 名 祐 雄

輝かしい五十年の歩みを綴る「福島県立南会津高等学校創立五十周年記念誌」の発刊に際しまして、地元村長として一言お祝いのことばを申し上げます。

本校は昭和二十三年に福島県立南会西部高等学校として発足以来、幾多の変遷を経て、ここに創立五十周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

この間、本校創設以来多くの苦難をよく克服され、名実共に実力ある南会津高校に育て上げられた歴代校長先生をはじめ、教職員の方々、PTA、同窓会、諸先輩並びに関係者各位に対しまして、深く敬意と謝意を表するものであります。

高等学校は後期中等教育の場として、個人の人格形成に大きな影響を及ぼすものであります。本校においては、当地域の最高学府として今日まで多くの有為な人材を育成され、五千三百余名の卒業生諸君が当地域は勿論、全国各地で活躍され、幅広い分野で大きな信頼と期待を寄せられておるところであります。更に時代の要請である情報化

社会に対応すべく、いち早く取り組まれてきたところの「高度情報通信設備（マルチメディア）活用」の先進的教育や、本年度における国公立大学入試突破三名をはじめとする進学面の目覚ましい実績。一方ではスキー部、剣道部、放送部等の各分野における全国的活躍など、小規模高校におけるその名声は広く県民の知るところであります。

創立五十周年の記念すべき年を契機に、歴史と伝統を守りつつ、ますます幸運の隆盛に努力され、地域の発展に寄与されますよう念願いたしますと共に、本校の一層のご発展を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

創立50周年を迎えて



同窓会長 辺 見 賢

母校、南会津高等学校が創立五十周年を迎え、盛大に記念式典を開催できますことは同窓会といたしまして最大の喜びとするところであります。

さて、母校は昭和二十三年七月富田村立富田中学校内に福島県立南会西部高等学校（定時制高校）として開校され、昭和二十五年十二月現在の地に校舎が新築され幾多の変遷を経て、昭和五十四年に近代的な現在の新校舎が完成し、名実共に南会西部地域の最高学府として現在に至っております。いま、半世紀におよぶ五十周年を迎えた歴史の中で、母校が創立十周年を迎えた昭和三十三年（私の入学時）九月。台風二十一号、二十二号による伊南川の大氾濫に見舞われ、校舎の一部、体育館（五間×十間）、時習寮が流出。

翌三十四年八月には台風七号により校舎が床上浸水。創立二十周年の昭和四十四年には鹿水川、深沢川の氾濫により校舎、グラウンドが土石化と、厳しい自然の洗礼を受け、あの荒涼とした母校の姿は今も忘れることができません。

創立以来、幾多の苦難と試練を克服しながら五

十年の歳月が経過しましたが、この間五、三〇〇余名の卒業生を社会に送り出しております。

卒業生の諸兄姉は、それぞれの地域社会の中で立派な社会人として、また、優れた人材を生かしながら活躍されておられます。そして母校は二十一世紀に向けた高校教育に研鑽し南会津高等学校がますます実のある学校へと一層の発展が期待されておるところであります。

これもひとえに教職員の皆様をはじめ、PTA・同窓生ならびに地域社会のご支援ご協力によるものと改めて深甚なる敬意と感謝の念を捧げるものであります。

創立五十周年記念事業を推進するにあたりまして、地元町村をはじめ、有識者の方々、PTA・同窓生・旧現職の恩師の方々、また記念誌編集委員各位のご支援ご協力を厚くお礼を申し上げます。

最後になりましたが、母校がこの創立五十周年を機に二十一世紀に要請される有能な人材育成と地域社会進展のため新生南会津高等学校として更に飛躍されることをご祈念申し上げます。

創立50周年記念 事業記念誌発刊によせて



湧雲会長 山内太郎

振り返れば本校創立五十周年節目の年。吾れも六十有餘路、卒業生も社会に五千数百人を輩出各方面にて活躍中と聴く。卒業以来交流のあるもの無いもの、母校に対する思い出は数多く胸中に秘めてる事は決して過言ではないでしょう。昭和二十七年農業科第一回卒業生山内太郎の記憶にあるもの、自分本位の思い出だけ、それで良いではないか、世の為人の為に汗を流したろうか、懺悔しても始まらない。

過去は若さだろうか、自分本位の感情におぼれ喜怒哀楽に生きて来た自分にとって、他人様に注意も意見も評価も出来ない。なぜ頭脳も行動も並みの人間であるからだ。

各自個性を大切に皆持ち合わせ、本校の高等教育を受け自れの生きざま自れの進路を創意工夫、生活の計画設定するのが人間としての任務でなからうか。以上に記したる事に私は自由に且つ六十有餘年生き今日に至っている事に感謝している人間性の尊重個性を生かす教育。これが南会津高等学校の今日の繁栄の源と、声高に自負し湧雲会長

と言う大役を維持して、老体に若さ溢れる若き生徒の情熱の愛の鞭で、後輩の前途に幸ある事を祈念し勤めさせていただいております。

さて、吾が校の歴史は苦難の連続でした。

特に私が同窓会長在職中でした。忘れる事が出来ない事件でした。それは昭和三十三年九月十八日、台風二十一号の来襲でした。又連続して九月二十六日台風二十二号の来襲、その被害たるや校舎一部、体育館、時習寮の流失、校庭は河川化、九月三十日迄で校庭流失場所の水は引かず言葉に表せないほどの被害でした。

昭和三十年自治省・県の指導で旧大宮村旧富田村が合併して新生南鄉村誕生三年目でした。

災害復旧と再建問題で大宮地区富田地区で村を真二割れ誘致活動に必死、その様な状況の中で県の方針で南会西部高等学校は二分されたのです。

南会津高等学校南郷校舎、只見校舎、それが現在の南会津高等学校であり、只見高等学校であります。

村内では、旧大宮地区旧富田地区で誘致運動に運動合戦で、いやがうえにも感情が高まり熱く対

立、只見校舎の問題どころではありませんでした。村議会は二分され大宮地区代表が議会に山口地域に誘致して欲しいと陳情すれば、富田地区では三十年の合併条件に違反行為であると怒動、行政は大宮地区文教、厚生は富田地区現在地こそ最優先すべきだと地区を上げて議会に陳情、高校再建問題で対抗意識と村民感情が高上度するばかり。学校当局としては、災害はともあれ早々に休校を解除し生徒のために授業を実施しなくてはならない。学校長をはじめ、PTA、同窓会、学校関係の団体は一日も早い復旧工事、寺子屋式の授業でもと陳情運動を開始されたのである。激しい村民感情の対立で、村当局執行部も議会もお手上げ一方、そんな村当局は問題視されず県立高校であるからと言う事で銚先を県教育委員会に変更、陳情合戦を展開されたのである。

当時の県会議長が伊南村宮沢出身の河原田盛雄氏まで陳情合戦の流波がおよび、時の南郷村長芳賀百一氏に河原田県議長より村としての対応を迫られ、こんな状況中同窓会として生徒達の授業再

開を求む声、安定した学校生活を実施出来なければ転校退学者も出るとの声、同窓会の活動方針を学校側に相談に参上すれば学校長は不在。対応に当る窓口は教頭ばかり、談合にも相談にもならず時間の経過ばかり。

弱体の同窓会ではあるが卒業生有志諸兄と協議の結果、会として独自の運動方針を確約、私と前伊南村長の岡本広一君に一任され、地元の町村抜きに県立高校だから地元選出の県会議長河原田さんに直訴し、相談の結果議長の指示を仰ぎ県教育長に陳情しようではないか、まずそれには参考まで陳情書を二通作成し、県に参上しよう、岡本君のアイデアで県庁の議長室に直接訪問、後輩の在校生の勉強が出来ず苦悩している実状と、同窓生としての立場から学校当局の事件に係わる対応又諸般の問題を訴え陳情書を提出、河原田議長陳情書を解読され、「よし君達若者の学校教育に対する情熱に感銘した、教育長室まで陳情に行く必要ない、教育長をここに呼ぶから議長室で陳情するように」との事で、秘書に電話連絡する旨指示

された。

教育長が参られたので河原田議長が教育長に、

「南郷村長芳賀百一君が大分苦労している。友人でもあるが故にここに前途ある若い連中が村長の態度に煮えきれず、俺のところまで直訴しに田舎から来た若い連中の心情をくんで、佐藤君良き方向に対処してくれたまえ」その一言で佐藤教育長への陳情も完了、名議長の計らいで飯坂みちのく荘に黒塗りの議長車で送っていただき、当時公用車など初めて夢の様なドライブ、それに議長廻しの美酒が車に積んである、いで湯の町飯坂で美酒に吾れも岡本君も酔い、みちのく荘に宿泊した青春の思い出がある。

その様な影に運動している人々がある事を、当時の者達は理解してだろうか定かではない。

旧大宮旧富田地区の誘致活動がエスカレートし、議会も事態を憂慮し白紙で河原田議長、佐藤教育長に泣き付き両者の方々に斡旋方を一任、河原田議長、佐藤教育長を中心に協議の結果現在地に決定、暫定的な復旧工事に着施、どうにか生徒には

不自由な学校生活であったが、三月には学校長不在の卒業式が出来たのである。

又当時の卒業生は優秀で今日では中心的人材に成長、各方面で指導的立場の人々多く輩出し、二十一世紀の人材育成に活躍中である。是れも自然災害と言う送物によって苦労努力忍耐と言う教訓を得た賜ではなからうか。

学校長は卒業式になぜ不在か？

地域で誘致運動に村は真二つに割れ感情丸出しの対立に嫌気さし、校長は只見校舎に避難、不在の南会高校では卒業式が出来たのだから良き時代であった。

最後に設立以来半世紀五十年に渡る歴史の中で、過去の思い出を語る事の出来る事は吾が身の栄誉であり、幸いっばいの心境でもある。

当高等学校関係各位の御健勝と南会高校の更なる発展を祈願して、御挨拶といたします。

創立50周年に 当たって



PTA会長 森 豊 喜

福島県立南会津高等学校が、この度創立五十周年を迎えられましたことは誠にめでたく、父母と教師の会を代表いたしまして心より御祝い申し上げます。

本校は昭和二十三年、学制改革の方針が示され、当南会津西部地域でも、高等学校開設の機運が高まり、地元の皆様のご支援のもと、同年七月に新制高等学校「福島県立南会津西部高等学校」として産声をあげました。

以来五千三百名を超える卒業生を送り出し、地元はもとより全国各地で活躍いただいておりますことは周知のことでございます。

また本校が今日あるのも、福島県並びに南郷村はじめ関係町村の厚情の賜でありますとともに、生徒達に大きな愛情を注ぎ続けてこられた先生方、同窓諸先輩方・PTAの皆様方への感謝を忘れる事ができません。

本校で学ぶ生徒諸君は「真摯・明朗・健康」の校訓のもと勉学に励み、自分の人生を切り拓いて下さい。

今日の教育の荒廃は、新聞等を賑わしております。幸い本校とは縁遠い事ではありますが、この良い環境を七十周年・八十周年と続かせるためには、地域・行政・学校・そして各家庭が固い絆で結ばれなければなりません。

五十周年記念行事も、先輩各位はじめ、同窓会・PTA・諸先生方・関係各位のご協力により予定された事業が全て完成し、実施できましたことは、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

創立五十周年を迎えられた福島県立南会津高等学校と関係各位の今後益々のご隆昌を祈念し祝詞とさせていただきます。

誠におめでとうございます。

唯一無二の高校が 50周年を迎えること 私とその高校で 学んでいること

生徒会長 森 大二郎



まず、この度の五十周年を迎えるにあたり、様々な形でご支援いただいた先輩方・地域の方々には御礼申し上げます。私達に寄せられる期待の大きさのあらわれだと思つくと、責任の重さに身が引きしまる思いがします。

前回行われた三十三周年記念式典の年度の生徒数は三百六十六名でした。それから十七年たった現在は百五十名と、当時の半分にも満たない数です。部活動の数でも二十個あった部が半分になっています。

にもかかわらず、生徒の活動そのものは決して劣つてはいません。各部活動の活躍、校内での委員会活動、同好会、そして進路実績。千人以上在籍する都市部の大規模校と比べても負けない自信があります。生徒一人一人がそれぞれの存在をアピールし、誰もが大勢の中の一人では済まないという勢いがあります。これは、南会津高校が、地域に根ざした少人数規模の学校だということが良く働いているからです。

現在の日本には、自己の拠り所を持たず、メディアに流れる他人の価値観や判断に頼りきった人がたくさんいます。それに比べ、私たちは、この自分自身が生まれた土地をアイデンティティとして、多様な価値観が、複雑にからみあう世界へと打つて出ることができるとのことです。

このことは、国家という考え方があいまいにな

ると言われる二十一世紀に、より強い意味を持つでしょう。国家という考え方がなくなった時、私たちが生まれ育った地域の意味は重いものになるでしょう。そこで、地域としての独自性の有無が生きる力の差となって現れるのだと思います。

しかし、地域の人口減少は更に進み、それに伴う生徒数の減少は大変深刻です。そこで私達生徒会は、学校の魅力を上げ、他の高校に無い様々な良い点を更に伸ばすにはどうしたらよいかと、いつも話し合っています。

現在、日本のどこをさがしても、南会津高校のように、地域の中で様々な個性を一つに集めて、高い実績を上げ、なおかつ地域の先輩方の応援を受けている高校は無いと思います。私は、この唯一無二の高校が更に五十年を数え、百周年を迎えるためには、現在の私たちが、それぞれの進路に進み、社会で活躍するようになり、たとえ南会津を離れても、自己の価値観の拠り所であるこの地域の独自性を守るために活動するしかないと考えています。私たちは、自分自身のためだけではなく、地域の中で生きていく自分のあり方を考え、地域のためにも勉強しなくてはならないのです。今の私たちには何の力もありません。しかし、父や母や兄弟も学んだ、この南会津高校を誇りに思いながら、一日一日を大切に過ごして行こうと思ひます。

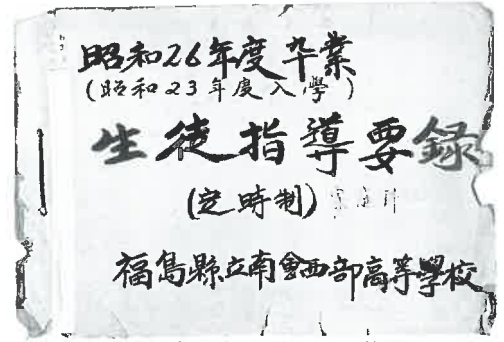
写真で見る

南会津高校五十年のあゆみ

昭和二十四年度南西高校大宮分校記念



南会西部高校大宮分校（昭24）



昭和23年度入学生の生徒指導要録



演劇部風景（昭24）

昭和23年

一九四八

- 7・31 福島県立南会西部高等学校（定時制）開設
- 富田村立富田中学校（現南郷村和泉田）に併置
- 伊南、館岩、朝日、伊北の各村に分校を併置
- 富田村立富田中学校長玉川春雄、学校長に補せられる
- 第一回入学式（入学者数四百五名）
- 11・1 大宮分校（定時制）設置認可
- 12・1 季節学級開設（片貝、明和、楢戸、只見）

昭和24年

一九四九

- 3・8 大宮分校開設
- 大宮小学校に併置、入学式
- 11・23 伊北分校が移転・独立校舎となる

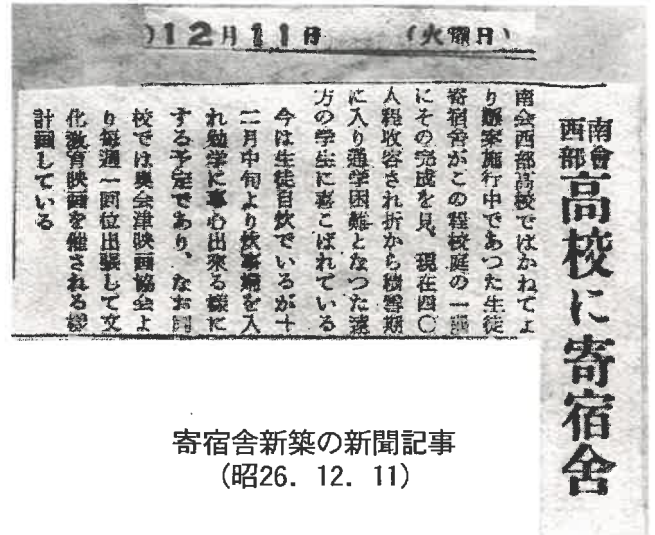
測量実習のひととき 昭25.5.13
南会西部高校大宮分校



測量実習・南会西部高校大宮分校 (昭25)



第1回修学旅行 (昭26)



寄宿舎新築の新聞記事
(昭26. 12. 11)

昭和25年 一九五〇

- 3・31 館岩分校廃止（在校生は、地理的条件と家庭の都合で全員退学）
 - 4・1 教員数三十二名、生徒数二百四十七名（分校を含む）、入学者数百七十六名
 - 11・1 明和分室（つづじヶ丘分校）校舎新築落成
 - 12・1 本校校舎落成し県に寄付採納となり、新校舎（現在の位置）に移転（戦前まで新潟県人、水蔵庄六氏の木工所があり、その他は原野同然であった）
- 定時制過程季節学級明和分室開設

昭和26年 一九五一

- 3・31 大宮分校を本校校舎に統合
- 4・1 本校に全日制課程（普通科）設置、定員百五十名
- 入学者、普通科五十一名（本校）、農業科八十名（分校を含む）、家庭科七十六名（分校）
- 明和分室を明和分校に改称（定時制課程農業科、家庭科設置）
- 12・11 寄宿舎（寮）完成



南会西部高校第1回卒業生（昭27）

昭和27年

一九五二

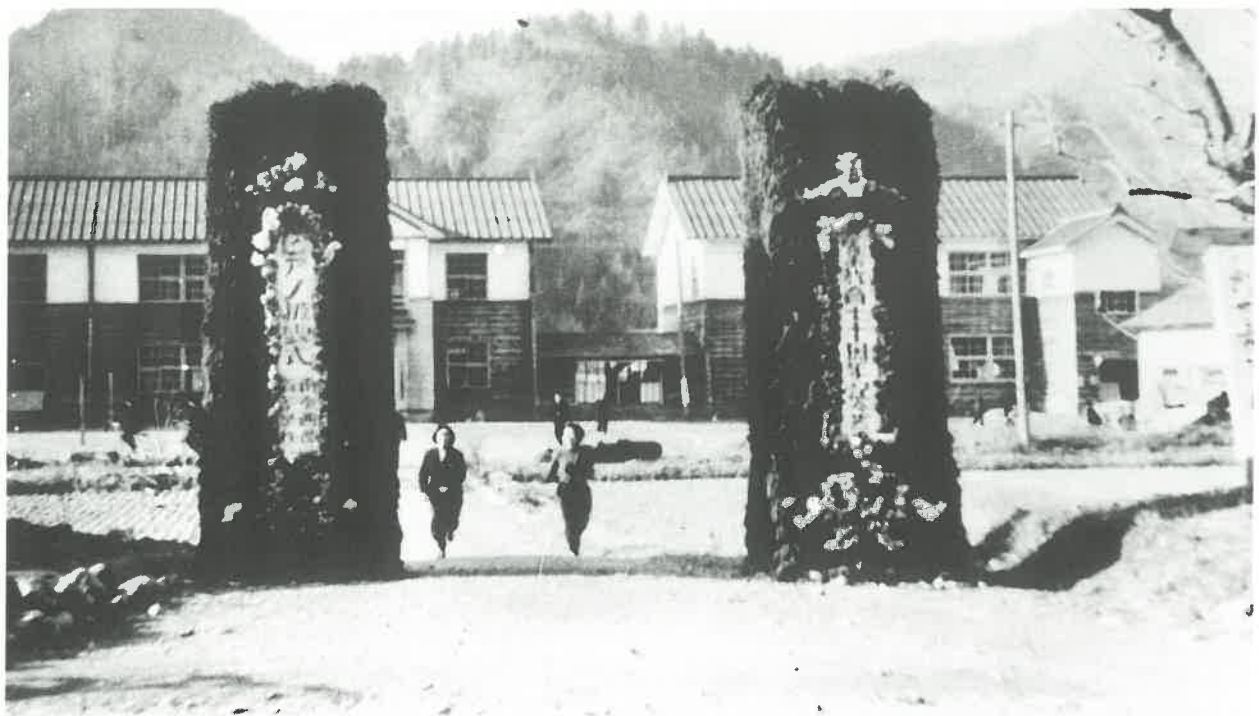
- 8・15 本校全日制課程設置に伴い、校舎増築工事認可着工
- 11・3 伊北村を只見村と改称
- 伊北分校を只見分校と改称
- 11・15 本校普通科（四室）増築工事完成
- 12・1 季節学級桧枝岐分室設置
- 片貝季節学級廃止

昭和28年

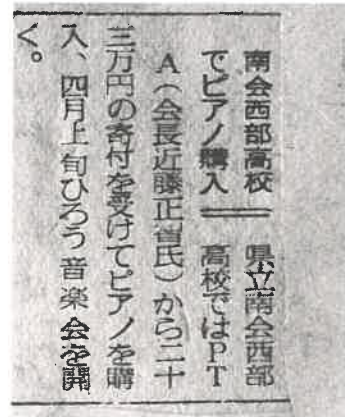
一九五三

- 3・31 学校長玉川春雄、若松市立第二中学校に補せられる
- 4・1 大沼高等学校教諭西間木正己、学校長に補せられる
- 7・15 明和分校短期農業科、家庭科開設、入学式
- 12・1 季節学級館岩分室設置

この年、テレビ放送が開始



産業教育第10回記念行事
ピアノ披露式（昭29）



ピアノ購入の新聞記事
（昭29. 3. 29）

昭和29年 一九五四

- 4・10 本校、只見、朝日分校に短期家庭科開設
- 12・4 只見分校の新校舎が移転新築落成
- 12・20 本校に水道工事完成

昭和30年 一九五五

- 3・31 明和分校短期農業科廃止
- 4・1 伊南村と大川村が合併し伊南村となる
- 7・20 大宮村と富田村が合併し南郷村となる
- 只見村と明和村が合併し只見村となる

昭和31年 一九五六

- 3・31 学校長西間木正己、耶麻高等学校長に補せられる
- 4・1 富岡高等学校農業部長後藤次郎、学校長に補せられる
- 11・15 寄宿舎（寮）新築落成
- 本校特別教室（二室）増築工事完成
- 12・1 季節学級大宮分室設置
- 12・ 校歌制定



寮全景 (昭32)



新しい寮の前で (昭32. 12)



校内バレー大会 (昭32)

南会西部高校ケ 南会
ラウンド完成 郡西輝
村ではかねてから南会西部高校ケ
ラウンドの新設工事を急いでいた
かこのほど出来上り三日の竣工式
の席上、岡ケラウンド工事に協力
した人たちに感謝状と記念品を贈
った。表彰者次のとおり。
▽土曜提供者 辺野キエフ、近
藤栄、近藤隆、辺野止平、近藤
利一、馬場三郎、野谷ヨシ子
渡部吉太郎、近藤三治郎、渡部
慶三郎、岡八重松、斎藤善高、岡
公元、岡正一、岡田同徳次、渡
部善治、岡安太郎、岡作次、岡
正平、岡栄、辺野要、近藤国彦
▽団体 大宮、藤田青年団、大
宮、高田婦人会、藤田青年団、
役員、山本健、P.T.A. 幹事協
力者 近藤利一、小橋定雄、渡
部盛彦、渡部委員 辺野文助、渡
部長 斎藤義美、近藤正樹、渡
部四郎、星安美、五十嵐節光

グラウンド完成の新聞記事 (昭32. 11. 7)



修学旅行 京都 (昭32)

昭和32年

一九五七

4・1 伊南分校募集停止

明和分校短期家庭科廃止

明和、朝日分校を統合して、つつじヶ丘分校
として定員四十名となる

11・16

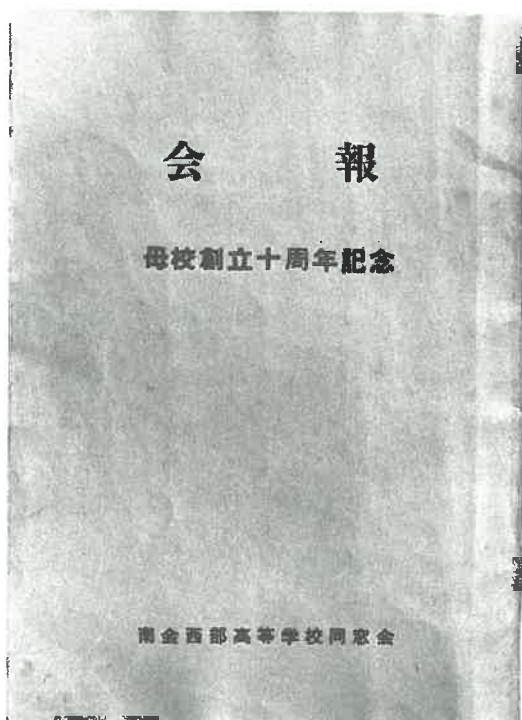
本校全日制課程普通科募集定員八十名となる
つつじヶ丘分校特別教室(四室)増築落成



マラソン大会 (昭33)



クラブ風景・珠算クラブ (昭33)

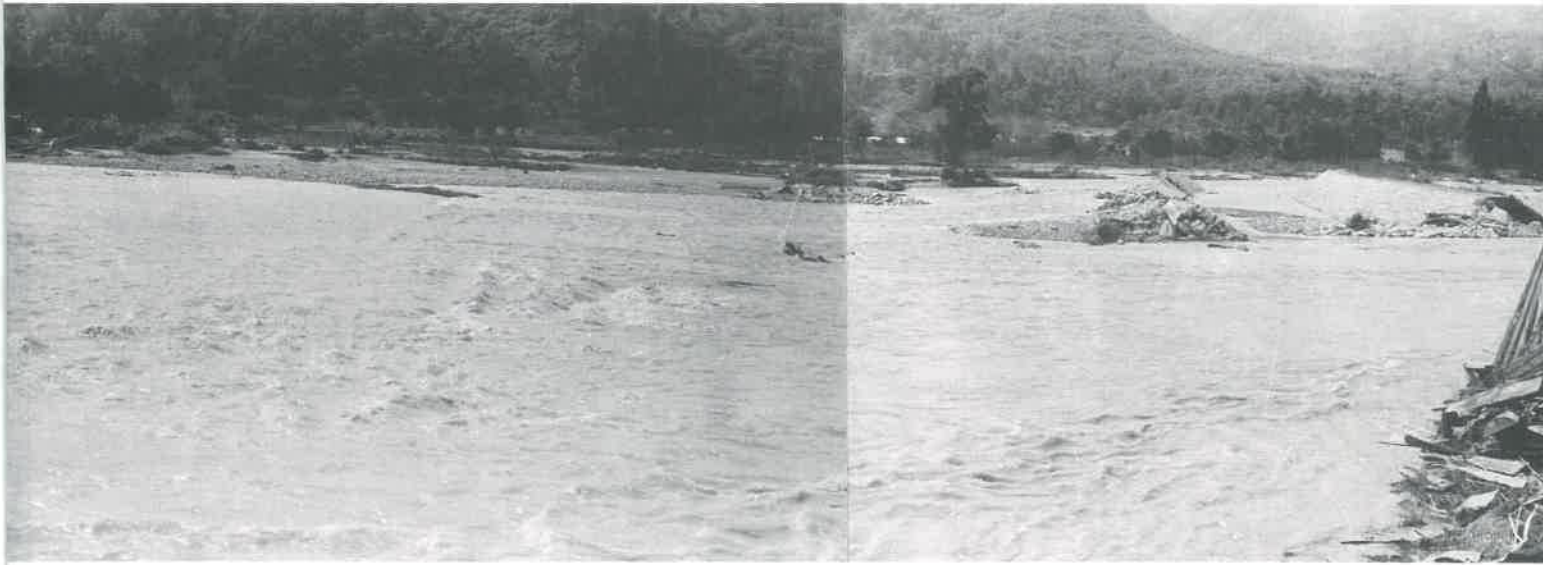


同窓会会報第一号 (昭33)

昭和33年

一九五八

- 3・31 学校長後藤次郎、湯野中学校長に補せられる
- 4・1 県教委社会教育課指導主事近藤金弥、学校長に補せられる
- 9・18 台風二十一号で校舎一部、体育館、寄宿舎(寮)流失
- 9・26 台風二十二号襲来、前回と同じく校庭は河川と化す(九月二十三日まで水が引かず、校内の出入り不可能。止むを得ず臨時休校)
- 11・22 創立十周年記念式典挙行
- 9・18 台風二十一号で校舎一部、体育館、寄宿舎(寮)流失
- 9・26 台風二十二号襲来、前回と同じく校庭は河川と化す(九月二十三日まで水が引かず、校内の出入り不可能。止むを得ず臨時休校)
- 11・22 創立十周年記念式典挙行



台風での大洪水（昭33）

<水 害>

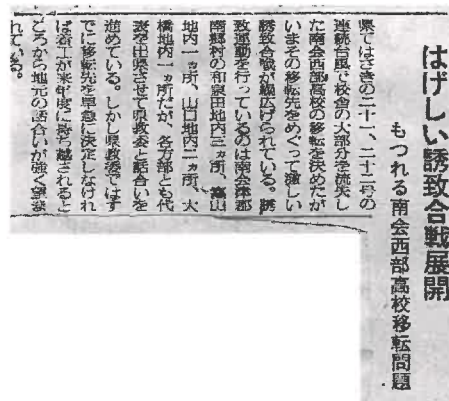
昭和33年、34年

相次ぐ台風の襲来

大被害を受けた母校



(昭34. 1. 10)



敷地問題を伝える当時の新聞記事
(昭33. 12. 22)



水害の爪あと（昭33）



調理実習の風景（昭34）



台風被害を受けた翌年の全校体育祭（昭35）

昭和34年 一九五九

- 3・31 伊南分校廃止
- 4・1 本校短期産業科、只見分校定時制普通科募集
停止
- 6・1 只見分校全日制普通科四十名募集
- 6・1 田子倉発電所発電開始
- 8・1 只見村と朝日村が合併し只見町となる
- 8・15 台風七号で校舎床上浸水
- 9・30 職員室を二階に移転、三年生普通授業、一、二年生自宅学習
- 10・12 一年生を明和校舎に移転（出張授業）
- 12・6 校舎の修理改造工事入札

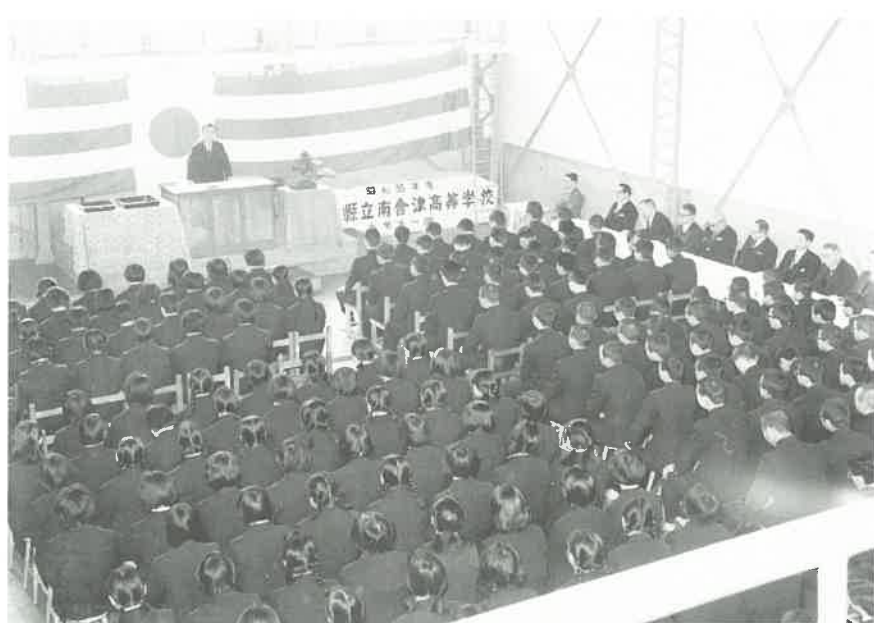
昭和35年 一九六〇

- 1・30 一年生、明和校舎より本校に移転
- 4・11 福島県立南会津高等学校と改称、南郷校舎と
只見校舎となる
- 8・28 只見校舎全日制普通科五十名募集
寄宿舎（寮）新築落成

この年、カラーテレビ放送が開始



県高校音楽学習発表会（昭37. 7. 22）
—会津若松市民会館—



昭和36年度卒業式（昭37）

昭和36年 一九六一

- 3・31 学校長近藤金弥、埴高等学校長に補せられる
- 4・1 猪苗代高等学校より目黒嘉祐、学校長に補せられる

- つつじヶ丘分校明和校舎農業科募集停止
- つつじヶ丘分校朝日校舎を廃止して、在学四年生を明和校舎に転入する
- 4・9 本校誕生の地・富田中学校が焼失

昭和37年 一九六二

- 2・10 つつじヶ丘分校畜舎落成
- 4・1 つつじヶ丘分校農業科二十名募集認可
南郷校舎定員八十名となる
- 11・2 只見校舎の体育館兼講堂が新築落成

南郷に寄宿舍と体育館

南会高校、県教委に要望

農村モデルハウスをつつじが丘に

しが丘分校の増設など三十八年度事業計画を次のように立て、県教委に要望した。

南郷校舎は普通科定員を二百二十人にする。屋内体育館（敷設面積約九千七百平方メートル）を増築し、体育と校舎間および校舎と校舎間の渡り廊下をつくる（計約九千二百平方メートル）。二階建て、二百九十七平方メートル、五百六十平方メートルで寄宿舍を増築し、四十二人を収容する。また理科室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）と生物室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築する。

日設校舎は同じく普通科定員を二百二十人にする。渡り廊下（九千四百平方メートル）と生物室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築し、理科室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築する。

つじが丘分校は普通科定員を二百二十人にする。渡り廊下（九千四百平方メートル）と生物室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築し、理科室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築する。

改築のため四百平方メートルで寄宿舍を増築し、二百六十八平方メートルで寄宿舍を増築する。

県立南会津高校（日置郡松本町）に寄宿舍と体育館を増築する。

施設増築要望の新聞記事
(昭38. 1. 30)

高校 大量増募はむずかしい

校舎制“独立”が焦点

南郷、野沢など確定的

南郷の公立校舎をたじろぎ、私立校舎も増設する。南郷の公立校舎は、昭和三十八年度事業計画を次のように立て、県教委に要望した。南郷校舎は普通科定員を二百二十人にする。屋内体育館（敷設面積約九千七百平方メートル）を増築し、体育と校舎間および校舎と校舎間の渡り廊下をつくる（計約九千二百平方メートル）。二階建て、二百九十七平方メートル、五百六十平方メートルで寄宿舍を増築し、四十二人を収容する。また理科室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）と生物室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築する。

日設校舎は同じく普通科定員を二百二十人にする。渡り廊下（九千四百平方メートル）と生物室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築し、理科室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築する。

つじが丘分校は普通科定員を二百二十人にする。渡り廊下（九千四百平方メートル）と生物室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築し、理科室（九十二平方メートル、四百六十五平方メートル）を増築する。

改築のため四百平方メートルで寄宿舍を増築し、二百六十八平方メートルで寄宿舍を増築する。

県立南会津高校（日置郡松本町）に寄宿舍と体育館を増築する。

南郷・只見両校舎独立の新聞記事
(昭39. 1. 3)

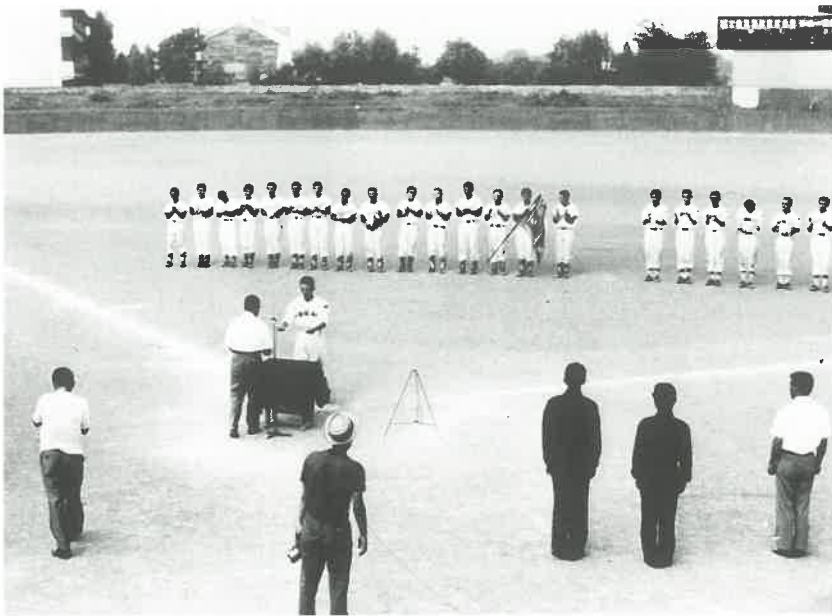
昭和38年 一九六三

- 1・15 只見校舎の寄宿舍完成
- 4・1 南郷、只見両校舎共募集百二十名となる
- 学校長目黒嘉祐、須賀川女子高等学校長に補せられる
- 安積高等学校より角田祥治、学校長に補せられる
- 生徒急増対策により、平屋建て二教室増築
- 7・5 体育館増築決定
- 12・18 旧校舎と体育館との渡り廊下工事完了（五・八七坪）

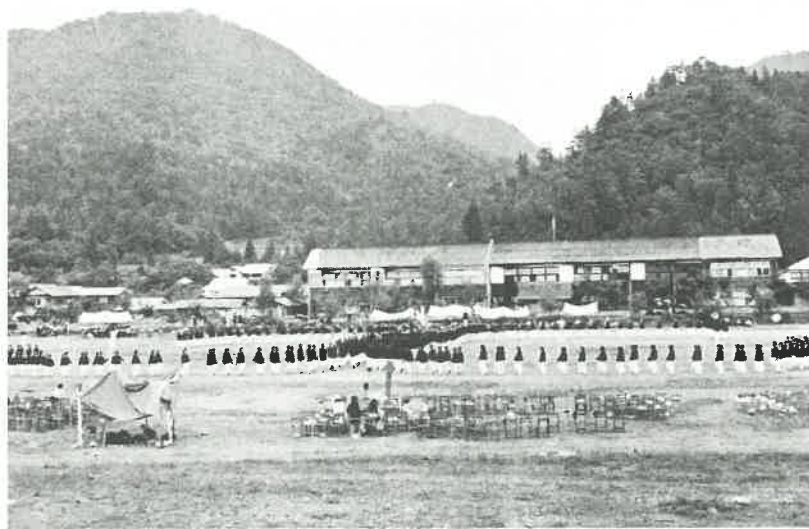
昭和39年 一九六四

- 4・1 只見校舎独立、只見高等学校と改称
- つつじヶ丘分校は只見高等学校に所属
- 9・5 体育館増築落成（一四七・二七坪）
- 10・1 南郷村より学校敷地として三、八二八坪寄付
- 受納
- 11・8 復興記念祭挙行（水害後の復興と体育館の落成）
- 11・30 寄宿舍（寮）食堂増築（十八坪）
- 12・1 季節課程松枝岐分室廃止
- 12・10 校舎理科室増築（三二坪）、寄宿舍増築（二階建）

この年、東京オリンピック開催



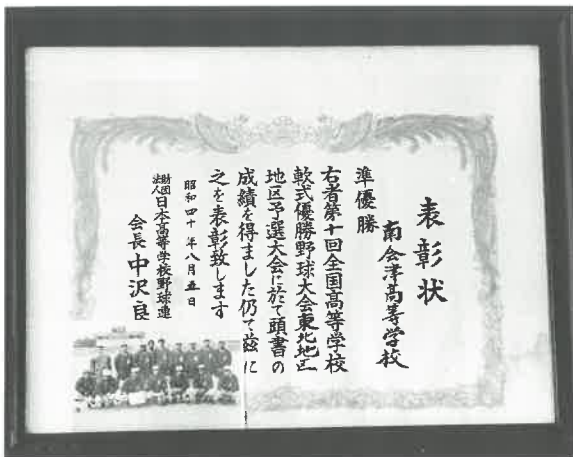
軟式野球部東北大会準優勝（昭40）



体育祭（昭41）



台風26号の被害を受けた校庭（昭和41）



東北大会準優勝の賞状（昭40）

昭和40年

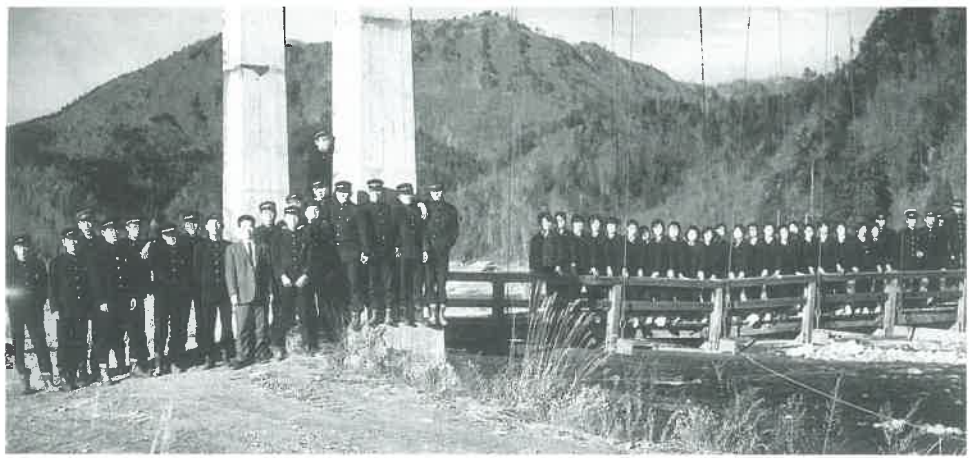
一九六五

12・11 調理室新築（二八・九坪）

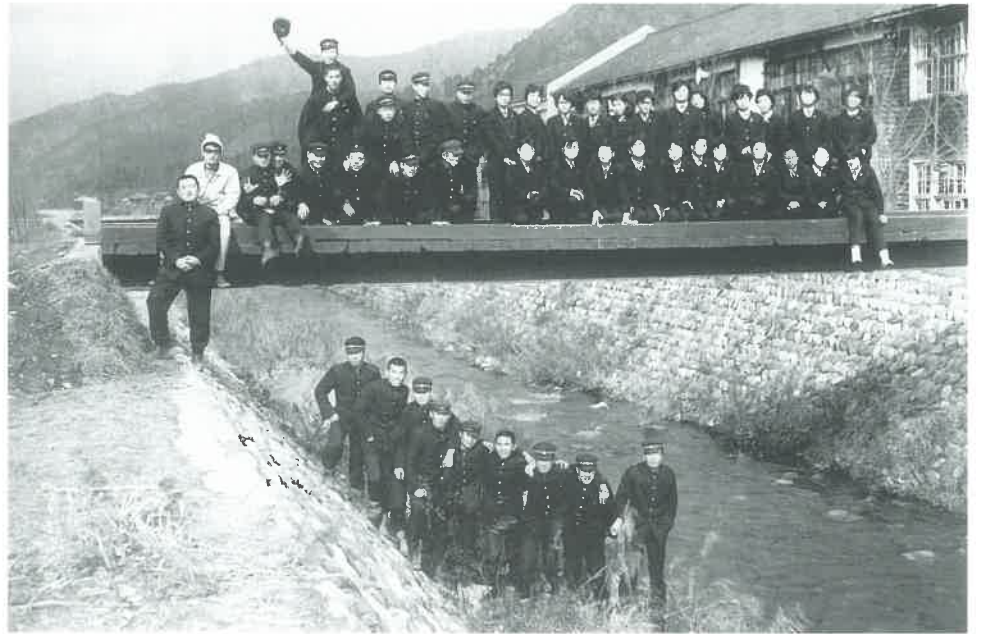
昭和41年

一九六六

3・20 寄宿舎（寮）炊事室増築（一九・八三㎡）
 9・25 台風二十六号による豪雨のため、校舎、体育館、寄宿舎（寮）床上浸水、校庭は流失し川原と化す



鹿島橋で記念撮影（昭42）



新設された南会橋で（昭42）



ハンドボール部東北大会出場（昭42）

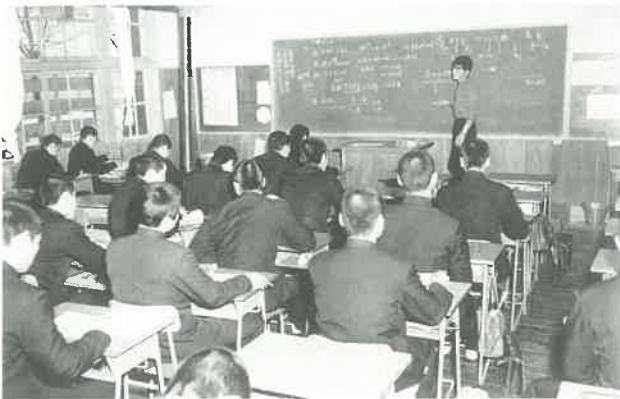
昭和42年

一九六七

- 3・25 校庭復旧
- 3・31 学校長角田祥治退職
- 4・1 安積高等学校より橋本秀夫、学校長に補せられる
- 10・25 屋外運動場へ通ずるため、鹿水川に架橋（南会橋と命名）
- 10・28 音楽室増築（九九・一七㎡）
- 12・1 館岩、大宮両季節課程の新生募集停止



創立20周年記念式典 (昭43)



化学の授業 (昭43)



創立20周年のアーチ (昭43)

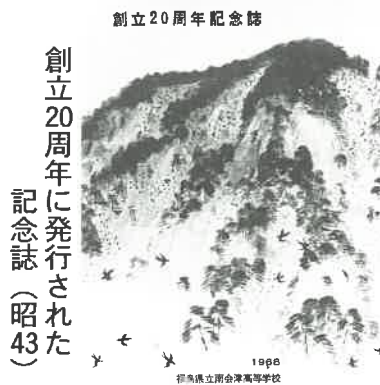


記念行事での合唱発表 (昭43)

昭和43年

一九六八

- 3・30 寄宿舎(寮)浴室増築(一九・八三㎡)
- 8・31 体育館床補修完成
- 9・14 正面玄関二階外側へ校章を備え付ける
- 9・23 創立二十周年記念式典挙行





完成した柔剣道場 (昭44)

冬季の健康にそなえ
柔剣道館を建設 南会津高

建設進む南会津高の柔剣道館

県立南会津高校(福本年鑑校)長二百六十九人は各朝間の健康は柔剣道から「柔剣道」の建設に努めている。

柔剣道館は鉄骨ブロンズ造り三百十平方メートル。工費八百四十万円で十一月はじめ完成の予定。専門の柔剣道館は会津地方で初めて。

柔剣道は五十歳が過ぎ、柔剣道とも一学年がそろって全国選手権出来る広さを持つている。

南会津高は柔剣道が盛んな地方。期間は「一筋の柔」で溢るる。

地。このため十一月から翌年三月までははやくに体育館で運動するが、このため体位が取れない。柔剣道が盛んな地方がけ、男子には柔剣道を奨励、学生たちの体づくりを行なうこととした。

柔剣道場建設の新聞記事 (昭44)

昭和44年 一九六九

- 3・31 季節学級全分室廃止
- 学校長橋本秀夫、飯坂高等学校校長に補せられる
- 4・1 本宮高等学校より橋本年雄、学校長に補せられる
- 5・15 校長公舎敷地、南郷村より寄付受納(二八七㎡)
- 8・12 集中豪雨により校舎、寄宿舎(寮)、教員住宅は床上浸水し、校庭に砂泥流入
- 柔剣道場新築工事完成
- 11・28 校長公舎新築落成
- 12・11



南高祭での演劇出演者（昭45）



雪の中で練習するソフトボール部（昭45）

昭和45年 一九七〇

- 3・28 剣道場への渡り廊下増築（四一・四四㎡）
- 3・30 燃料倉庫新築（四九・五二㎡）

この年、大阪万国博覧会開催

昭和46年 一九七一

- 3・22 非常ベル設置（校内十三か所）
- 8・29 国鉄只見線開通
- 9・13 焼却炉取付
- 12・15 県教職員住宅一棟新築（2DK四戸、3DK四戸）

昭和47年 一九七二

- 4・1 学校長橋本年雄、本宮高等学校校長に補せられる
- 会津高等学校より船田元喜、学校長に補せられる
- 10・17 自転車置場新築（七十台収容）
- 11・9 南会橋撤去



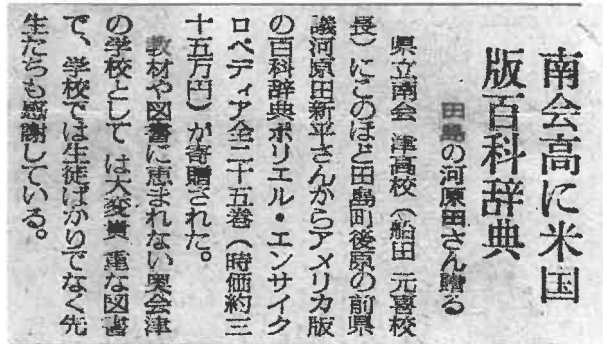
求人申込殺到の新聞記事 (昭45. 9. 19)



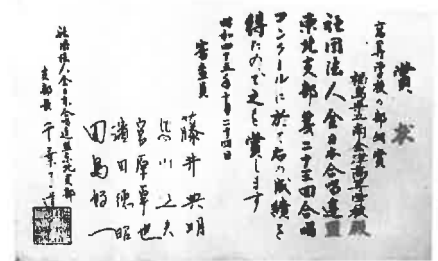
県職員住宅新築 (昭和46)



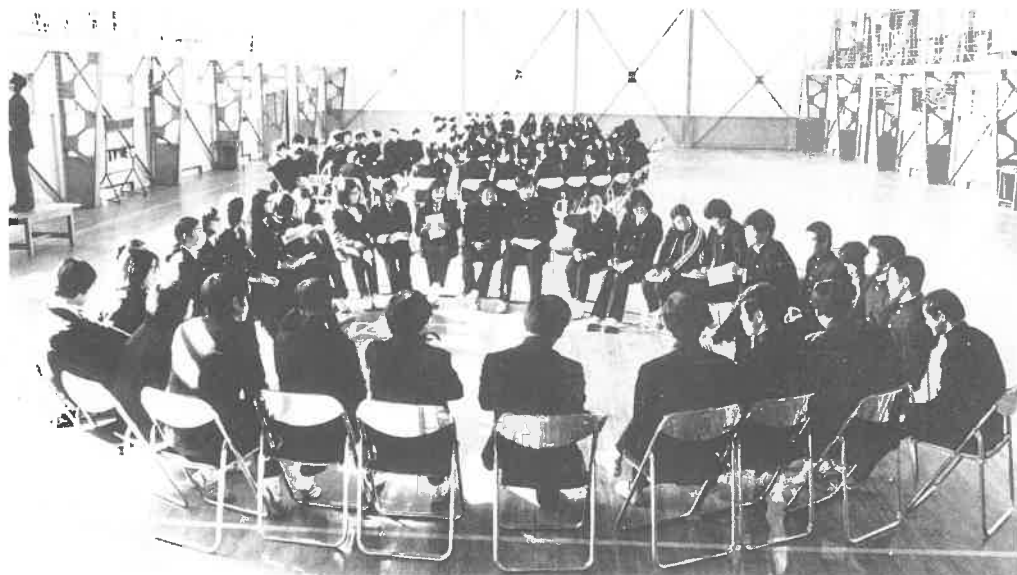
校内駅伝大会のゴール (昭46)



アメリカ版百科事典が寄贈された新聞記事 (昭47. 10. 31)



東北支部合唱コンクールで銅賞 (昭46)



南高祭での討論会 (昭47)



高体連での熱戦（昭49）



予餞会の一場面（昭50）



春の校内球技大会（昭51）



福島県立南会津高等学校同窓会

同窓会名簿を刊行（昭48）

体育祭の騎馬戦（昭48）



昭和50年

一九七五

4・1 学校長船田元喜、船引高等学校校長に補せられる
 会津女子高等学校より太田宏、学校長に補せられる

昭和49年

一九七四

3・30 寄宿舎（寮）燃料倉庫新築
 テニスコート新設（一面）



体育祭での仮装行列(昭52)



第6回南高祭
新校舎は改築工事中(昭53)

昭和52年 一九七七

- 4・1 学校長太田宏、病気のため休職
田村高等学校より佐川昇、学校長に補せられる
- 7・8 校舎改築第一期工事着工(RC造四階建、工費二〇三、九三九千円)

昭和53年 一九七八

- 1・28 体育館天井張替工事完成(六七二㎡)
寄宿舎(寮)補修工事完成
- 2・6 校舎改築第一期工事完成
- 2・9 新校舎へ全校生徒移転
- 2・18 旧校舎解体工事着工
- 3・3 旧校舎解体工事完了
- 4・23 湧雲会発足(後援会の名称を改称)
- 4・23 校舎改築第二期工事着手
- 4・28 校門拡張
- 8・3 ハンドボールコート新設
- 11・27 寄宿舎(寮)天井張替工事
- 12・13 校舎改築第二期工事完成
- 12・14 校歌碑建立(同窓会より寄贈)
- 12・15 寄宿舎(寮)ボイラー室(四・九五㎡)及び地下タンク新設
- 校舎改築第二期工事校舎周辺整備工事



新校舍完成を間近にしての南高祭 (昭53)



あひこ

夏の甲子園大会予選に出場した南会津高校野球部のメンバーが、新球場の完成を間近にして、大活躍を演出した。試合は、南会津高校野球部が、東大会地区予選を突破し、甲子園大会予選に出場した。試合は、南会津高校野球部が、東大会地区予選を突破し、甲子園大会予選に出場した。試合は、南会津高校野球部が、東大会地区予選を突破し、甲子園大会予選に出場した。

南会津高野球部

夏の甲子園大会予選に出場した南会津高校野球部のメンバーが、新球場の完成を間近にして、大活躍を演出した。試合は、南会津高校野球部が、東大会地区予選を突破し、甲子園大会予選に出場した。試合は、南会津高校野球部が、東大会地区予選を突破し、甲子園大会予選に出場した。

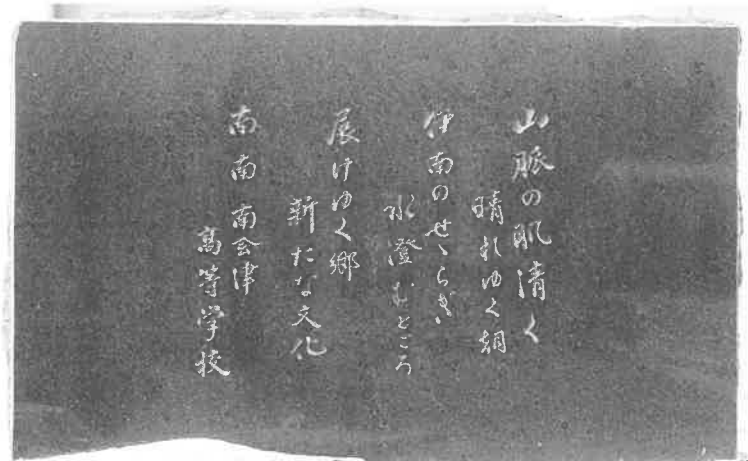
夏の甲子園大会県大会会津地区予選に初出場の新聞記事 (昭53)

立派な校歌碑を建立

南会津 創立30周年記念し

南会津郡南会津町の国立南会津高等学校(旧川原校舎)に、創立三十二年の校歌碑が、十四日、新校舎の落成式に合わせ、建立された。校歌碑は、新校舎の落成式に合わせ、建立された。校歌碑は、新校舎の落成式に合わせ、建立された。

校歌碑建立の新聞記事 (昭53. 12. 17)



寄贈された校歌碑 (昭53)

同窓会員名簿刊行（昭54）



剣道部男女インターハイ出場（昭54）

- | | | | | | | |
|-----------------|------------|-----------|-------------|--------------|-----------------------|---------------|
| 12 | 12 | 12 | 5 | 4 | 2 | 2 |
| ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 27 | 18 | 14 | 4 | 1 | 27 | 19 |
| 寄宿舎（寮）電話機増設工事完成 | 校舎南側土留工事完成 | 自転車置場移転工事 | 校舎改築第三期工事完成 | 募集定員百三十五名となる | 旧校舎（調理室、音楽室、理科室等）取壊工事 | 寄宿舎（寮）電灯線張替工事 |

昭和54年
一九七九



校舎改築落成・創立33周年記念誌（昭55）



校舎改築落成記念式典のようす（昭55）



校舎改築落成等記念式典での校歌碑の除幕式（昭55）

昭和55年 一九八〇

- 1・29 部室用途廃止（一三九・六二㎡）
- 2・24 部室解体工事
- 3・21 寄宿舎（寮）火災設備設置工事完成
- 3・25 通用路舗装工事完成
- 4・1 学校長佐川昇、棚倉高等学校長に補せられる
会津女子高等学校より星野俊一、学校長に補せられる
- 学校諸規定の一部改正
- 6・23 新体育館新築工事着工（九一〇・〇〇㎡）
- 8・9 自転車置場移転
- 9・10 前庭環境整備完了
- 10・3 テニスコート整備
- 10・16 校舎改築落成・創立三十三周年記念式典挙行

南会津(女子)が制覇



女子優勝の南会津

F T V杯県
高校バレー
第十回全国高校バレー
選抜優勝大会県予選会第九回

女子初優勝を飾った南会津は、
南会津町立南会津高等学校
三十八の高校、冬に冬の雪に
埋もれてしまっている山の学校
だが、初の高校バレーボール準

南会津 大逆転で初栄冠

厳しい環境克服、力つける
一に関係者は喜び、
バレーボールで勝負と無名
の同校だが、五十年、
五時代にインハイ県大会、
で優勝経験を持つ福崎三郎監督

F T V杯争奪県高校男女バレー
選抜優勝大会を兼ねて二十三日
午前九時から郡山市の郡山総合体
育館で開かれ、男子は県学院が
二年ぶり二回目の優勝、女子は南
会津が初優勝を飾った。
大会は県バレーボール協会、県
高体連、福島テレビが主催、郡
山市教委の後援。昨年二月福崎
市で開かれた第三十回県高校バ
レーボール新人選手権大会でベス
ト4に入った南会津チームが
出場した。
男子決勝は新人戦優勝の聖光学
院が安積商を2-0のストレート
で下し実力を示した。女子決勝は
新人戦優勝の南会津と同二位の
郡山女子大付属の対決となった
が、南会津が見事粘り負せて
2-1で逆転勝ちを収め初優勝。
この男女四チームは来月二十
日、郡山総合体育館で開催される
東北大会に出場、福崎県四チ
ムと全国大会(三月二十六日-三
十日・東京)をかけて争う。
成績は次の通り。

男子	聖光学院 2-0 相馬 馬
女子	南会津 2-1 郡山女子大付属
男子	151610 郡山女子大付属
女子	151517 郡山女子大付属
男子	181415 郡山女子大付属
女子	181415 郡山女子大付属

F T V杯県高校バレーボール大会で優勝 (昭57)

「セッター大活躍」が起爆、選手たちを引っ張った。めきめきと方をしてきた。会津地方でも有数の練習場だけに毎年冬は青嵐の寒風が吹いてしまっている中に見られるが、厳しい寒の中、練習に励んで来た。
昨年の新人戦では相馬に敗れ準優勝に終わったものの、胸を張って今大会へ。決勝では前大会で「頭張り」を飾ったと誇っている。



新体育館が落成 (昭56)



文化祭での演奏 (昭57)

昭和56年 一九八一

- 1・29 新体育館落成
- 12・15 自転車置場設置
- ソフトボール防球ネット設置
- 野球防球ネット設置

昭和57年 一九八二

- 4・1 学校長星野俊一、坂下高等学校長に補せられる
- 10・16 運動場整備完了
- 11・12 駒止トンネル開通
- 11・20 野球防球ネット施設完成
- 双葉高等学校より遠藤勝美、学校長に補せられる



寄宿舍改築落成記念式典の
パンフレット（昭58）



新しい寄宿舍が落成（昭58）



南高祭での仮装行列（昭59）

昭和58年

一九八三

- 5・10 寄宿舍（寮）改築工事着工
- 11・15 寄宿舍改築工事完成（RC造二階建）、収容人員四十名（二十室）
- 11・18 寄宿舍（寮）改築落成記念式典挙行

昭和59年

一九八四

- 3・12 寄宿舍（寮）周辺舗装工事完成
- 3・27 野外便所新築落成
- 4・1 学校長遠藤勝美、相馬女子高等学校校長に補せられる
- 湯本高等学校より鈴木茂、学校長に補せられる
- 12・14 寄宿舍（寮）北側及び校舎東側舗装工事完成
- 宿日直代行制度を廃止し、機械警備に入る



授業風景(昭60)



第9回南高祭(昭62)

昭和60年

一九八五

- 1・31 南郷村より土地(現校舎敷地)二、〇〇九㎡を寄付受納
- 2・7 南郷村より寄付のあった土地について、地目変更と合筆登記完了
- 11・12 寄宿舎前庭及び周辺等の舗装工事完成

昭和61年

一九八六

- 4・1 学校長鈴木木茂、白河女子高等学校長に補せられる
- 会津高等学校より遠藤孝、学校長に補せられる

昭和62年

一九八七

- 4・1 学校諸規定の一部改正(及び生徒・保護者・教員意識調査)

OA教育に役立てて

南会津高の同窓会

同窓会の創立40周年記念事業として、パソコン10台を寄附し、OA教育に役立ててもらう。パソコン10台を寄附し、OA教育に役立ててもらう。パソコン10台を寄附し、OA教育に役立ててもらう。



同窓会から寄贈されたパソコン。左端は五十嵐同窓会長、中央が渡部校長

パソコン10台寄付

プリンター5台含め300万円

同窓会から寄贈されたパソコン10台、プリンター5台、合計300万円。同窓会から寄贈されたパソコン10台、プリンター5台、合計300万円。

同窓会がパソコン寄付の新聞記事
(昭63・12・15)

創立40周年記念同窓会会員名簿を刊行
(昭63)



福島県立南会津高等学校同窓会



球技大会(平元)



遠征や研修楽に PTAなどの熱意実る

同窓会の熱意で、平成元年4月6日、南会津高校にマイクロバスが寄附された。同窓会の熱意で、平成元年4月6日、南会津高校にマイクロバスが寄附された。

念願の専用バス南会津高

4・1 募集定員九十名となる

平成元年

一九八九

昭和63年

一九八八

4・1 学校長遠藤孝、若松女子高等学校校長に補せられる
磐城高等学校より渡部光明、学校長に補せられる

マイクロバスが備えられた新聞記事 (平元. 4. 6)

第10回南高祭でのコンサート(平2)



入学式の風景(平3)



平成3年 一九九一

4・1 学校長渡部光明、原町高等学校長に補せられる

安積高等学校より嶋原長三郎、学校長に補せられる

9・24 旧体育館建具改修工事完成

南会津高校
献血で厚生大臣感謝状

このほど南会津高校の献血活動に対して、厚生大臣から感謝状が贈られました。

同校は昭和四十九年から保健委員会が中心となって献血活動を行ってきており、

昭和六十三年には県知事からも感謝状が贈られていま

した。平成二年度の村内での献血本数三百五十一本(二百ml換算)のうち、約四分の一に当る八十四本は同校によるものです。

嶋原校長、平野養護教諭と保健委員会の生徒たち



献血で厚生大臣から感謝状が贈られる(平3)



パソコンの授業風景 (平4)



駅伝大会 (平6)

森美奈子さん (津高) 優秀賞

国際理解主張コンクール

第四十回国際理解・国際協力のための高校生の手紙コンクール全国大会は二十日、東京で開かれ、本県代表の森美奈子さん (南会津高二年) が優秀賞 (安達峰一郎記念館賞) に選ばれた。



鈴木校長に全国大会優秀賞を報告する森さん (左)

同コンクールは日本国際連合協会、日本ユネスコ協会連盟など主催。全国各地の代表十九人が出場。国際交流や地球環境保護などをテーマに一人六分以内で意見を発表した。

森さんは日本人としてと題して発表。世界四方

に六人いるペンパルとの文通を通して人種差別問題や平和の大切さなどについて感じたこと、今年夏に米国へ海外研修した経験をもとに銃乱用の恐ろしさなどを訴えた。

鈴木圭介校長に受賞を報告し、祝福された森さんは「国際的な視野で物事を見られるよう心掛けたい。将来は得意な英語を生かせる職業に就くつもり」と抱負を語っていた。

国際理解主張コンクール全国大会で優秀賞受賞の新聞記事 (平5・11・24)

平成5年 一九九三

- 3・15 寄宿舎 (寮) 浄化槽補修工事完成
- 4・1 募集定員八十名となる

学校長鳴原長三郎、田村高等学校長に補せられる
会津農林高等学校より鈴木圭介、学校長に補せられる

堂々の朗読に奨励賞

南会津高の全国文化祭で快挙



奨励賞を授かる(左から) 鈴木校長、栗原 さん、波島教諭

八日に開催された南会津高等学校の全国文化祭で、三年の栗原久美さんと波島伊南村君が朗読賞に輝いた。

栗原さんは昨年度の読書発表コンクールの朗読賞で奨励賞を受賞し、本県代表として総合文化祭に臨んだ。

文化祭の朗読には、栗原さんは井上靖の『園から九十一人』、波島君は『一年生の校内朗読』を朗読し、二人とも賞状を授けられた。

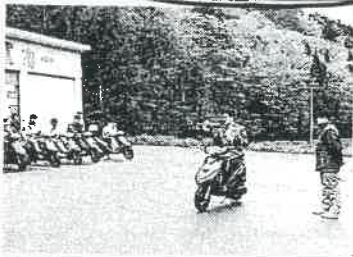
引率した波島教諭は「奨励賞の授けられたのは、二人の朗読が、観客の心を打动了からと評価された」と喜びを語った。

たど歩み続けた。園パールの入賞他の生全国文化祭の入賞は初、徳も大なる励みになりまして、鈴木圭介校長は、全くと喜んでい

全国高校文化祭放送・朗読部門で奨励賞受賞の新聞記事

(平6・8・13)

正しい運転方法を学ぶバイク通学生



バイク通学生 に運転講習会

南会津高

南郷村の南会津高(須田敬校長)はこのほど村内の南郷スキー場駐車場で、バイク通学生を対象にした安全運転講習会を開いた。今年度からバイク通学が認められた二年生十八人が参加した。県警交通機動隊

会津若松分駐隊の高木則夫
巡査部長と松本隆幸巡査長
を講師に招き、正しい運転
姿勢、時速三十キロ走行、8
の字やスラローム走行など
を学んだ。

同校は自宅から学校まで
の距離が九キロ以上で、路線
バスの便が悪い只見町や伊
南、館岩村に住む二年生以
上の生徒のバイク通学を許
可している。



第12回南高祭での仮装行列(平8)

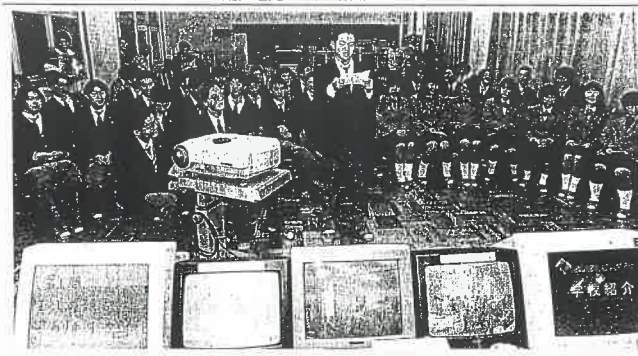
バイク運転講習会の
新聞記事(平7. 6. 2)

平成7年 一九九五

- 4・1 学校長鈴木圭介、田島高等学校校長に補せられる
- 会津女子高等学校より須田敬、学校長に補せられる
- 10・14 第五十回国民体育大会山岳競技が、南会西部地区を会場に開催

平成8年 一九九六

- 9・27 新体育館屋根塗装工事完成
- 11・15 ボイラー配管工事完成



テレビ会議で交流

南会津高

清陵情報高

部活動や進路で 活発に意見交換

合同ホームルーム

文部省のへき地学校教育度間を結び、テレビ会議システムを利用した同時授業や情報通信設備(マルチメディア)活用方法研究開発事業の実践校に指定された南会津郡南郷村の県立南会津高(須田敬徳)と、峡内協栄校の須賀川市の県立南会津高(根本健作校長)で十九日、テレビ会議システムを用いた同時進行の合同ホームルームが行われた。テレビ会議による効果的部活動や進路指導などの意見交換が盛んに行われた。

テレビ会議システムを用いた合同ホームルームで意見交換する生徒(須賀川市・清陵情報高)

清陵情報高の田辺勇教

「証明は決まっています」

「証書は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

「証明は決まっています」

全国初のテレビ会議による合同ホームルームの新聞記事(平9・2・20)

平成9年

一九九七

4・1 学校長須田敬、田島高等学校長に補せられる
教育センターより山田和彦、学校長に補せられる

平成10年

一九九八

9・5 創立五十周年記念式典挙

寄稿

— 思い出のたより —

歴代学校長

須	鈴	嶋	渡	遠	鈴	遠	角	玉
田	木	原	部	藤	木	藤	田	川
	圭	長	光			勝	祥	春
敬	介	三郎	明	孝	茂	美	治	雄



本校開設事情を

回想して

初代校長

玉川 春雄

(S23・7・1) S28・3・31)

昭和二十三年七月三十一日、県立南会西部高校が富田中学校の一室を基点として定時制独立高校として開設された。当時戦後昭和二十二年、学制が改革され所謂六三三四の画期的な改革がなされ、教育の機会均等を旗印しに県内八校の新制高校が南会津地方にも一校開設されることになった。会津地方には川口山都などこの時に本校と共に開校された。当時私は江川中学校教諭であったが時の南会津県視学の長沼幸一先生の要望で南会西部に赴任することになった。私は本郡江川村弥五島の出身で私の父がかつて富田村片貝小学校長を務めたこともあり、親子二代富田村に奉職する因縁となった。当時三

十四才の校長は県内でも珍らしい任命であった。校舎も教員も何もない僻地に新制高校を誕生させる苦勞は並大抵のことではなかった。そのため富田中学校長として着任し開設準備にあたり、西部の中心点である富田に本校を設置したのである。時に富田村長星博氏は型破りの村長であったが校舎開校については多大の協力を受けた。同時に館岩、伊南、大宮、明和、朝日、只見の各分校も各村長に協力を頂き各中学校の一室を確保して分校の発足に到達することができた。教員組織が又大きな難問であった。殆んど新採用で高校免許状を有つ人々に県教育課と連絡して何とか基礎教科の先生を採用することがで

きた。校舎なし、教材なしの六無齋状況であった。私は家内カヨも国語科教諭として採用することにし教員の充実に努めた。当時生徒は農業科家庭科の二科であったが実習地もなく教材も不足し、図書室もない状況で私の家内の実家より各種辞典を生徒に使用させたのであ厚い各種辞典もポロポロになる状況であった。住居も臨時、宿直室に入り片貝に新校舎が出来、やっと二室の木造宿舎が作られそこに昭和二十八年三月会津若松市立二中校長に転任するまでお世話になった。今と違い、降雪時



県立南会西部高等学校誕生の地
(富田村立富田中学校)

の分校巡回指導、連絡、各種会議で駒止峠を何十回徒歩で越したことが、今でもなつかしく思い出される。あれから五十年の年月が過ぎた。三十四才の校長も今や八十四才となりその後県教育委員会所長、本庁管理主事、保健体育課長、県立安積女子高校長、会津女子高校長を最後に県立福島成蹊女子高校長を最後に公私立四十六年の教職生活に終りをつけた。あの西部約五年の開校時代の生徒達は夫々立派な社会人となり全国に夫々充実した仕事をして活躍していることは有難いことだと思っている。それにしても南会津高校の開設の意義が今あの地域に又それぞれ関った各位の御努力によって当時の学校と違った南会津高校とし隆々繁栄する現在、転た感無量のものがある。共に過した各先生方、生徒の皆々様、地域の御協力下された方々に深い敬意と感謝を述べて筆を置く。



まぼろしの部落

第六代校長

角 田 祥 治

(S 38・4・1) S 42・3・31

田代山登山の帰り道、近道をして迷い込んでしまった。夕暮時、まぼろしの部落に出た。巾十メートル長さ百メートル真直な道路は西が高く東が低く車の通れない程の急坂になって居る。急坂の真中より少し南側に寄った所に真直な清流が音をたてて流れて居る。道路の北側に十軒位、南側に五軒ぐらいカヤブキ屋根の大きな農家が散在して居る。作業衣の農婦が三、四人遅ましい姿で大根などを一携げて川と家の間を往復して居る。古代の雰囲気の中に近代の混入したまぼろしを感じた。待たせた車が気になって居たんで、何も聞かずに駆け下りてしまった。それから何年何十年、まぼろしの部落として心底を離れなかった。数年前次男夫

婦が、海外か温泉かどこか案内したいと言いつ出した。そんな処は行きたくはないと思わない、まぼろしの部落だけは生きてるうちに何とかと答えた。十賊温泉の下の旅館に泊した四人(ジーバーと次男夫妻)は、北の方向、田代山に向って進んだ。私は後部座席左側に乗って、西側斜面を見続けた。ない。まぼろしの部落は遂になかった。念の為道路沿いの部落で聞いてみた。田島から越して来たばかりで、昔の事は何も…とかいう返事ばかりだった。トタン屋根の家並の中に、まぼろしの部落にあつたものが二つだけあつた。かや葺き屋根だ。高さ赤黒い色は同じだが、大きさは十分一位だ。空中高く飛んで居る形だ。住居でないことだけは

はっきりして居るが、何に使われたものかはわからない。道路沿いの畑に真塵を敷いて、ササギ豆をたいて居る八十才位の老人が居た。走り寄って聞いてみた。ここだ。便利が悪いって引越したんだ。驚きと言うか、幻滅と言うか、表現の出来ない気持ちで一番奥までもどって見た。半壊のトタン屋根があつた。半つぶれのコンクリートの溝があつた。田舎町の場末の感じだ。言い様のない空しさで今朝来た道を言葉もなく戻つた。

歓喜と述懐

私の南会は歓喜と祈りの数年だった。南会の人の心に歓喜した、素晴らしい自然に歓喜した、そしてそれを失なわれない為の祈りだった。教育は何もしなかった。生徒の要望だからと言って応援歌を作詞した。音楽の先生は校長訓話みたいだと言った。それでも生徒は歌い続けてくれた。

日曜日には家に居られなかった。山に行けば素晴らしい自然と対話できるからだった。福寿草が野生で咲いて居た。さゆりも黒ゆりも。雪の中にまんさくの黄色を見た時は身ぶるいした。高校前山の紅葉は十和田のそれよりも赤かった。駒止のミズナラは西郷さんよりも偉大に見えた。

アブラコシの濃黄緑は何度出逢ってもその悩ましさに涙を禁じ得なかった。

南会時代の先生がたが私の叙勲旅をやってくれた。次郎先生、大竹良幸先生、菅家利徳さん(他に南会出身者三名)の御出席を頂いた。会場が郡山市のホテルなんだから、そして夜なんだから旅館をとらなければ南会までは帰れない。頭が下つた。あの時代の失礼ばかりが蘇つた。足を向けて寝れないどころの騒ぎではなくなった。何時のことだったか、山口で催された消防出初式に出席したことがある。どこからか脱兎の如く現れた大竹隊員は素晴らしい速さで只一人会場の中央に突進した。ホースの操作、そしてその節度、未だかつて見た事のない厳肅なものだった。これある限り南会精神は健在だと胸を張った事を想い出した。

九十一才を越した私は、今も毎日伊南川の流れと共に流れて居る。伊南川石大小五百、大はヤブ庭の縁取りを、そして小はスズラン、チュウリップ、カンナを上手に抱え込んで、いい花を咲かせて呉れている。雨降りの日は伊南川の時と同じ艶を見せ呉れる。



昭和四十八年の 寄宿舎全面改築の思い出

第十三代校長

遠藤 勝美

(S 57・4・1) S 59・3・31

私が南会津高校に校長として着任

したのは、昭和五十七年四月一日でありました。豪雪地帯への赴任で、浜育ちの私には、一抹の不安があったことを覚えております。当時は、駒止峠を越さねばならなかったのですが、まるで新潟や群馬あたりの県外に転任したような転勤だったような感想でした。

しかし住めば都で、桃源の境とも云いたいところで、人情に厚く、景色も良く、山菜も豊富で、また伊南川の釣、温泉も多く、檜枝岐村や尾瀬沼にも近く、誠に素晴らしい別天地とさえ思えた所でした。駒止トンネルが開通したのは翌年で、見違える程便利になり、会津若松や東京浅

昭和58年11月18日(金) 11

南会津高校新聞 号外 時習寮改築落成記念特集

福島県立南会津高等学校出版委員会
印刷 只見印刷所 ☎02418-2-2032



祝 寄宿舎改築落成

目次

記念式典に寄せて
学 校 長 遠 藤 勝 美 ……2

ごあいさつ
実行委員長 島 場 太 ……3

ごあいさつ
同窓会長 五十嵐 広 ……4

時習寮今昔ものがたり
潮雲会長 渡 部 次 郎 ……5

よろこびのことば
生徒会長 津 久 井 和 人 ……6

入寮案内 ……6
寮 則 ……7
式 次 第 ……8
感謝状受賞者 ……8
学 校 沿 革 ……8

草に出るにも近く便利になり、存分に会津に親しむことが出来ました。ところで、南郷の冬は厳しく、驚く程の積雪は、浜出身の私共には、驚きの連続でありました。一晚に一メートルも降る当地です。まさに驚きの一語です。校長公舎の窓は、このため板で囲まれることになり、浜などでは到底見られない光景でした。このような状況で、勿論冬の除雪

はきれいになされておりましたが、しかし冬の遠距離通学の生徒達にとっては、誠に厳しく、このため、高校ではこれら遠隔地からの通学生徒のため寄宿舎を準備していたわけです。冬の厳しい積雪の期間だけ、これら生徒は親元から離れ、寄宿舎での共同生活を強いられていたわけです。しかし、この寄宿舎も当時は古くなり、傷みもひどく、設備も十分で

なく、何かと不便となり、折にふれ
寄宿舎の改築が要望されていたこ
ろでした。

そこでこのことを当時の事務長辺
見先生や地域代表としての渡部次郎
先生、トキ先生に相談を致し、県当
局に強力に働きかけた次第でありま
した。

当時、南会津高校は、国立大学に
も進学できる程の進学状況で良く、
就職もまずまずで、生徒指導上の問
題もなく、特に部活動においては、

剣道、ハンドボールは会津地区大会、
県大会に於て上位を占めて素晴らし
く、自他共に認める実績をもってい
る高校でありました。誠に素晴らし
いへき地の高校であったと思います。

このような高校の実態も評価され
たこともあり、その上、県財政局
との人間関係にも恵まれ、誠にスムー
ズに交渉が進み、現地調査の上、全
面改築が決定されたものでした。

設計は私共の要望を入れ、県の営

繕課で行いました。着工も早々に工
事が進められ、素晴らしく美しい絨
毯引きの寄宿舎でした。その後、十
数年も経過しましたが、その当時の
ことを思い出し、懐しく思っており
ます。大事に、有効に役立てていた
できれば幸いに存じます。

しかし、現在の利用状況はお聞き
するところ皆無とか、時代の変遷と
共に、経済や社会環境も変化し止む
を得ないことと思います。

ただ本校が五十周年の記念すべき
節目の年を迎える目出度い機会に、
この事実を是非、本校の歩みの一ペー
ジに書き止めておいて戴ければ幸い
と存じた次第であります。

おわりに、南会津高校の益々の発
展と、校長先生はじめ関係者皆さま
のご健勝を、心よりご祈念申し上げ
る次第であります。



当時の思い出

第十四代校長

鈴木 茂

(S 59・4・1) S 61・3・31

県立南会津高校の創立五十周年、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。昭和二十三年に学校創立以来、ここに半世紀を経過し現在に至っているわけですが、この間、創設期の種々の苦難を始めとして、多くの方々の苦勞を思わなわけには参りません。しかしその一方で、学校の順調なる発展は勿論、同窓生の方々のご活躍はご同慶にたえません。

昭和五十九年四月、浜通りの湯本高校から雪深い南会津高校へ赴任してより、貴重な数々の体験を積むことができましたことは、私にとりまして本当に幸せであったと思っております。あの当時では、恵まれた立

派な施設、設備の中で、若い先生方が生徒の気持をよく理解しつつ、学習指導や放課後の部活動指導に、さらには大学進学のための特別指導に夕方遅くまで熱心に取り組んでおりました。生徒もそれに応えるかのように、学業にスポーツに若い血潮をたぎらせ、時に喜び時には悔しさに涙して再起を期した姿が今でも彷彿としてきます。現在いわきの地において、南会高生が活躍する新聞記事に接する時、心のときめきとともに、当時の先生方、生徒の様子が鮮やかに甦えつつくるのです。

また、南会津での生活は懐かしい思い出となって強く心に焼きついております。特に印象に残るのは、春と

夏の山々は美しく素晴らしかったこと、駒止湿原や宮床湿原、さゆりの群生地は桃源郷の一角にあるように思われたことです。短い秋の燃えるような紅葉も見事で、何と表現してよいかわからないほどでした。



今もかれんな花を咲かせるひめさゆりの群生地 (平成9年6月下旬撮影)

冬は吹雪で難儀したこともありました。出張の帰り途、駒止トンネル付近で全く視界がきかず、道路の巾を示すポールも見えず、この辺にカーブがあるなどの直感を頼りに、どうか学校にたどり着いたこともあり

ました。また、屋根に積もった雪は氷となり地ひびきをたてて落ちてくるので、玄関の出入りには注意した

ものです。落ちた雪を妻が除いたあとに、除雪車が来てまた大きな雪の塊を置いて入り口を閉ざしてしまふこともたびたびでした。しかし、いわき生まれの私にとってスキー場があったことは幸いでした。この地で初めてスキーの醍醐味を知ったからです。

この美しくも厳しい自然の中で、また多くの人々とめぐり逢うことができました。特に、校医の渡部次郎先生・トキ先生、PTA会長の馬場太一氏、すがやさんには家族ぐるみで大変お世話になりました。トキ先生には妻が俳句の手ほどきをうけ、後に村の文化祭にも出品するようになったほどです。近所の方々の交際も次第に増え、村の行事等にも招待されいろいろと教えていただきました。雪おろしなどもしていただきました。本当に素朴で暖かい心情に触れたことは、何にも増して幸せなことでありました。現在でも感謝の気持ちやみがたいものがあります。

最後になりましたが、南会津高校の益々のご発展と、生徒諸君の活躍をお祈りいたしております。



南会高を離れて十年

第十五代校長

遠藤 孝

(S 61・4・1) S 63・3・31)

「光陰矢の如し」とか、まさに月日のたつのは早く、南会高を離れて、はや、十年過ぎてしまった。僅か二年の短い期間であったが、今にして思えば懐かしさが一杯で、思い出は多く、語るにつきぬものがある。その一端をしたため責めを果したい。何よりも、朝の澄みきった空気が、四季折々の風景、人情味豊かな地域の人々、それらは新米校長の緊張しがちな心を和ましてくれた。

着任早々、校長としての使命と責任の重さを痛感し、まず、地域から信頼される学校づくりと、郷土を愛し地域・社会に貢献できる人間の育成をめざし、微力ながら努力を傾けた所存である。若い先生方が多かつたけれど、その真摯な姿勢と純粹そのものにも見えた顔また顔、次から次と脳裏をめぐり、今尚、懐かしく思えてならない。

また、学校行事の一つとして、初めて取り入れた郷土理解のための「ふる里講話」のこと、当時、同窓会長の五十嵐廣氏のご協力を得て、一年目は当時の村長・五十嵐昭元氏、二年目は現在も会津若松市で弁護士をなされている、目黒鷹雄氏、ご兩人共にお仕事ながら誠にご多忙にもかかわらず生徒のために、ご快諾の上、大変有意義かつ、貴重なご講演をいただき、感謝の念で一杯であった。さらには「自然の探究」の一環として全校生徒あげての尾瀬探訪、

春まだ浅く、冬枯れの湿原に映えるミズバショウの群生、燧が岳を望み、沼畔での昼食と友との語らい等、雄大な自然のなかで実に清々しく、心の洗われる思いに、確かなる生の喜びを体験することができた。

一方、現在もそうであるように、小規模校なるが故、先生方の勤務は実に大儀なことであったが、そのなかでの「地域を題材にした自主研究」、その成果を十分に活かすなど、誠に頭の下がる思いであった。

今、ここに遠く思い出を語るとき、特筆しておきたいことは、スキー部誕生のことである。着任して間もない頃、幸か不幸か、生徒の方から、少数ではあったが、スキー部をつくって欲しいとの希望があり、機を同じくして、地域の関係者からも強い要望があった。早速、検討し、百万円相当の予算が必要であることがわかった。PTA・生徒会には到底それ程の予算的余裕はない。何としても、生徒や地域の要望に応えるためには、地域からのご協力を仰ぐほかないと言う結論に至った。善は急ぐに如かず、陳情のため、南郷、伊南、檜枝

岐の三ヶ村を訪れ、各村長さんに陳情書を提出し、ご説明申し上げたところ、ご理解いただき、南会高の発展のためにと、心よく内諾を得て、この上ない有難さで喜色満面、帰校したことなく、思い出誠に深いものがある。今尚、感謝の念しきりである。年度内においては、部員数の関係で同好会として発足、翌年には部員数も基準を満たし、念願のスキー部に昇格、二年目には早くも東北大会に出場するなど、今、思えば感慨一人である。

その他、部活動、南高祭、開放講座、また、実現こそ出来なかったが、水泳プールの造設のため、県当局への陳情のことなど、思うにつけ、辺見事務長、堀金教頭のご苦勞もさることながら、いつも心を砕き、ご尽力下さった当時のPTA会長馬場太一氏、初代同窓会長山内太郎氏をはじめ、PTA、同窓会各位、そして、格別のご協力、ご支援を惜しまなかった南郷村当局と地域の方々に対し、感謝の念深く、誠につきぬものがある。

さらに、忘れることのできない方々

のこと、当時、校医・湧雲会長をつとめられ、南会高を、こよなく愛し続け、ご尽力下さった渡部次郎先生、惜しむらくも、今年他界なされ、今さらながら、敬慕の情つきなく、心から感謝の念を捧げ、御霊の慰めになれば幸いである。また、大雪のたび、いつも、目も覚めぬ早朝から、校長住宅の除雪をして下さった星勝芳氏のご好意も忘れられぬ思い出である。

以上、十年前をふりかえり、心のおもむくまま、大変とりとめのないことを、したためてしまったが、今や、創立以来、営々五十年、これを節目に、先人の粒々辛苦のご労苦とご努力に思いを致し、南会高が未来に向かって限りなく発展されることを切に願って止みません。



県高校新人スキー・複合で男女総合優勝を果たした南会津高スキー部

複合で男女総合V

県高校
新人スキー
南会津高が快挙

第二十六回県高校新人スキー大会は、十日から十二日まで猪苗代町の猪苗代ミネロスキー場などで行われたが、複合競技で南会津高スキー部が男女総合優勝を達成した。

複合は男子が大回転、回転、クロスカントリースキー・クラシカル(十キ)、同リレー、純飛躍の五種目、女子は大回転、回転、クロスカントリースキー・クラシカル(五キ)の三種目で熱戦を繰り広げた。

南会津高勢は女子のクロスカントリー・クラシカル五キで馬場純子選手(二年)が優勝。猪股俊伸選手(同)が男子回転と大回転、渡部恵二選手(同)が女子回転、大東一臣選手(同)が純飛躍でそれぞれ二位に入った。

合で七位入賞を果たした渡部明仁教諭(三八)の指導のもと、夏場から基礎体力づくりや筋力トレーニングなどを地道に続けてきた。

さらにシーズンに入ってから学校近くの南郷スキー場で毎日練習を重ねた。

渡部教諭は「部員一人ひとりが全力で練習してきた成果」と選手たちの頑張りや評価。森春樹主将(二年)は「ふくしま国体で活躍できるよう一層頑張りたい」と意気込んでいる。

昭和62年に発足したスキー部が平成6年に複合で男女総合優勝を達成!

地域に支えられて



第十六代校長

渡部 光明

(S 63・4・1) (H 3・3・31)

長い駒止トンネルを出ると道の両側には、雪が切り立っていた。校門を入ると、ソフトボールのグラウンドは想像を絶する程の雪の山だった。五十年余を浜通りだけで過ごしていた私には、それは大きな感動だった。

昭和六十三年三月末に、いわき市から南郷村に引っ越しをした。その夕方、酒瓶を携えたPTA会長さんの訪問を受けた。早速、頂いた酒を酌み交わした。勿論、地元の銘酒である。湯呑み茶わんでの最初の一口は、まさに極上の一滴で、忘れ得ぬ味わいだった。それ以来、今だに、南郷の地酒を愛飲している。着任して間もなくの日曜日、

れるご親切には、涙の出る思いであった。

雪に感動し、銘酒に感激し、人情に涙して私の南郷での生活はスタートしたのである。

校医先生ご夫妻に学区内を案内していただいた——只見から伊南、桜枝岐まで。その道すがら、車内では、南会津高校の歴史について、詳しくお伺いした。私のために、貴重な休日をさいて下さった先生の人情味溢

あげることができたが、それも、保護者や地域の方々、地元企業や諸団体等の積極的なご協力をいただくことができたからこそである。特に初めて試みた、職場体験学習では、並々ならぬご協力をいただいた。

昭和六十三年から三年間、県教育委員会より、進路指導研究の指定を受けた。研究の主題を「地域社会と連携した進路指導の研究」と設定し、生徒が広い視野に立って進路学習をすすめる、地域とのかかわりを深めながら自己実現を図り、たくましく生きていける心豊かな人間に成長することを目標において、全職員で取り組んだ。三か年にわたる研究・実践活動により、それぞれ大きな成果を

又、地域からのご支援で忘れられないのは、南会津高校専用のバスを提供していただいたことである。学校の充実発展を願って結成された「南会津高校を考える会」が中心となって、マイクロバス購入の計画を立て、一町四か村当局ならびに議会、町村有志各位、各企業、同窓生、保護者、更に、南郷村の殆どの家庭より多大のご協力をいただいて、その

念願が達成された。南郷村当局の暖かいご配慮により、最新型の立派なバスを、高校専用として使用出来るようになり、車庫まで新築していただいた。心配だった運転は「ドライブバンク」結成し、奉仕の心で協力をいただくことができた。お陰さまで、二十九人乗りのバスを、部活動のみならず教育活動全般に、十分に活用させていただいた。

思えば、南会津高校は、本当の意

地元企業で職場実習

南会津高校の2年生



精製校工場で職場実習する南会津高校2年生(左端)＝田島野の住田化学工業

県内初「進路選びの参考に」

あすまで3日間

南会津郡南郷村の南会津高校(仮部)は、十六日(土)から十八日(日)まで、二年生十八名を対象に、県内初の進路指導研究の指定を受けた。研究の主題を「地域社会と連携した進路指導の研究」と設定し、生徒が広い視野に立って進路学習をすすめる、地域とのかかわりを深めながら自己実現を図り、たくましく生きていける心豊かな人間に成長することを目標において、全職員で取り組んだ。三か年にわたる研究・実践活動により、それぞれ大きな成果を

(平元・9・27)

味でのコミニユテースクールであり、地域の方々のご支援ご協力は、数えきれないほどで、あらためて厚くお礼を申し上げたい。

南郷では、季節の移ろいを三度経験した。だからこそ、南会津の自然の、真の美しさが分るようになった。白一色に塗りつぶされた冬の厳しさを味わった後にくる、こぼし咲く春の景色の素晴らしさは格別であり、行楽シーズンに訪れる観光客の印象とは異質である。かつて、校舎を流失させた残酷さを知らずに、とうとうと流れている伊南川の雄大な美しさを語ることはできない。自然は、厳しさを残酷さがあって初めて、美しさを生み出すことを実感した。旅行をして、諸々の美しさや絢爛豪華に出会ったときには、その裏に隠された厳しさに思いを馳せて、その真意を味わうようにしたいものである。このような姿勢が身についたのも、南郷で暮したお陰で、心から感謝している。

創立五十周年という大きな節目を直前にして、校医渡部次郎先生が他界されたことは、痛恨の極みである。

記念式典で先生の温顔に接し、この記念誌で先生の玉稿を拝読するのを楽しみにしていたのに・・・なすすべも無い今となっては、学校を、生徒を、そして職員をこよなく愛してくださった先生のご冥福をひたすらお祈りするのみである。合掌

島 民 報

後援会から遠征用のバッグを贈られた部員たち



頑張れ！南会津高野球部

後援会がバッグなど贈る

南会津高野球部後援会（会長・岡本広一伊南村長）はこのほど同野球部員十五人全員に遠征用バッグ、女子マネジャー三人にそろいのトレーナーを贈った。

贈呈式は同後援会の五十嵐勝司副会長、馬場正博事務局長、渡部洋三会計係が同高を訪れ行った。

同高からは野球部員十

三人と渡部光明校長、中野浩文部長、仲川康紀監督が出席、主将の三瓶卓君が「このご好意を無駄にせぬよう県大会に向け頑張ります」とお礼の言葉を述べた。

新入部員にも：同後援会では今後も新入部員に遠征用バッグを贈ることになっている。

(平3・2・26)

ユニークな競技を展開した体育祭



礼イニシ

3年に一度のお楽しみ

南会津高校で体育祭

南郷村の南会津高で二十四日、体育祭が開かれた。三年に一度の行事で全校生二百六十八人と教職員ら約五十人が参加した。

プログラムは生徒会と教職員で企画したもので、障害物競走やムカデ競走、綱引き、風船割りなど約二十種目を展開。生徒たちは青空の下、のびのびと競技を楽しんだ。

クラス対抗も兼ねており、応援合戦もにぎやかだった。



ある闘いからのスタート

第十七代校長

鴨原 長三郎

(H3・4・1～H5・3・31)

平成三年四月、本校に赴任して間もない慌ただしさの中で、校長室の窓から、柔らかな日差しの下で乱反

射する校庭の雪のきらめきや、鮮やかな帯のような伊南川の流れや、遠く近く黒と白の春まだきの山並みをぼんやりと眺めながら、冬と春の交差する光景に、忘れかけていた郷愁のようなものを感じて、心安らぐ思いだった。

入学式も終わり、対面式・部紹介など年度当初の行事も無事に済み、新入生もようやく高校生活に慣れ始めたと思われる頃、四月十八日の夜、突然校長公舎に、一保護者から電話が入った。「明日の夜、ぜひ相談したいことがあるので時間を取ってほ

しい」というのである。それは、ただならぬ雰囲気を感じさせるものだった。

まだ南郷の地理も習慣もわからず、生徒たちの実態を掌握する時間もない状況の中で、翌日、案内されるままに行つて見ると、そこには新入生の保護者数人が待ち受けていて、それぞれに憤懣やるかたない表情と口吻で、高校入学以来「金銭強要」の被害を受けたわが子の、生々しい状況を切実な思いを込めて訴えてくるのだった。

まさに青天の霹靂であった。衝撃的な内容に、しばし、呆然たる思いでその言葉を聞きながら、すぐに、ことの重大さを直感しないわけには

ゆかなかつた。表面の平穏さとは裏腹に、わずか二百二十人程度の、気心の知れているはずの生徒たちの間で、新入生に対する上級生による金銭強要行為が、集団で連日のように行われていたのである。

翌日から、ホームルームや全校集会で、この事件をとり上げ、「南会高生」としての心の在り方を全体指導する一方で、事件に直接関わった生徒からの事情聴取を繰り返すが、ほとんど進展がなく、一向に埒がいかない。どうしても核心に迫れないのだ。彼らは「先輩たちがやったことをやっているだけだ。俺たちはもつとひどいことをされた時には見て見ぬふりをしていくだけに、いままら何を言うか」と嘯く。そして学校の内外で、潜行しつつ立ち回り、口裏を合わせたり、口封じをしては反抗心をあらわにするのだった。

この金銭強要行為は、先輩から後輩に受け継がれ、「やられたことをやり返す」といった陰湿さで、公然と年中行事のごとく、かなり組織的に行われていたのだった。彼らも必死だった。やがて、新聞記者が訪れ

てくるようになる。苛立ちがつのる中で、加害者が被害者に「親にチクッタ」と称して暴力をはたらく、ヤクザまがいの卑怯さを目の当たりにして、暗澹たる思いに襲われることもしばしばだった。

この時から、罪悪感をほとんど持たない、それ故に複雑で微妙に屈折した、生徒間の根深い「因習」との、根気のいる「闘い」が始まった。それは地域に愛される学校作りのスタートでもあった。そしてその過程で、極めて辛い立場に立たざるを得なかった生徒諸君や保護者の方々がいたことを決して忘れることができない。

当時を振り返り、地域の人々の温かな人情と豊かな自然に感動した、南会津での生活を懐かしく蘇らせながら、社会人となっているのであろう彼等とその保護者の方々と、もう一度話したい衝動を、今しきりに覚えるのである。



思い出すこと

第十八代校長

鈴木圭介

(H5・4・1～H7・3・31)

地域のの人々と球場で応援した時の写真を見ると、あの時の感動と連帯感がよみがえる。
秋の南高祭のテーマは「夢だけじゃ終わらせない」だった。このテーマには野球部の活躍やふくしま国体、あるいは大学進学に立ち向かう生徒達の意気込みが込められている。たしかに、部活動や学習に励む生徒が多くなり、問題行動が姿を消す傾向

が出はじめ、翌年には、長い間続いた悪習の上下級生間のあの独特のあいさつも消えるようになった。この年は県大会出場者が多くなり、年度末には後援会の旅費が底を突いてしまった。そこで、寄付依頼のため、吹雪の中を地元町村役場を二日間にわたって、渡部次郎後援会長、馬場清雄PTA会長とともに訪問した。その折、スキーは金がかかるので、スキー部後援会を別に作る話が出た。

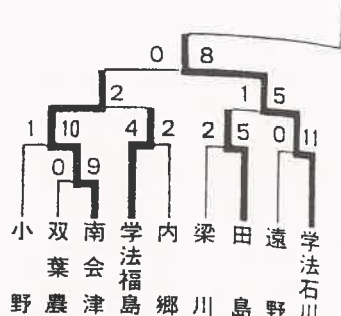
あの冷たい夏、南会津は明るく輝いた。気象庁が八月末になって梅雨

明け宣言を取り消した平成五年、私が赴任した年である。わが校の野球部が夏の甲子園県大会で双葉農、小野高、学法福島と対戦し劇的な勝利をおさめ、地域は熱く沸きあがった。ベストエイトを目指して学法石川と対戦し、最後は力つきて敗れはしたが、地域の方々や生徒に大きな感動と自信をもたらしてくれた。新聞紙上には普賢岳の火砕流や奥尻島の地震被害の暗いニュースの多い中で、血沸き肉おどる心地の日々であった。エース梁取君を中心に攻守バランスのとれた実にいいチームを作った仲川監督の手腕も見事だった。多くの

打倒学石の夢破れても…

限界まで頑張った

南会津



旋風を巻き起こした南会津の「打倒学石川の夢」は試合巧者の打線の前にはかなくも崩れた。
ここまで39響三振と打者の四割を三振に打ち取った青柳有博(三年)が疲

た。試合前日、福島市内の飯坂球場で二時間、たっぷり打撃練習を励んだ。「志賀、駒木のどちらも速球で押している」の見方から投手をマウンドの二歩前から投げさせて速球対策を練った。
しかし、フタを開けると先発志賀は変化球主体。カーブでカウントを稼ぎ、直球は見せ球、カーブで勝負を挑んできた。そこには昨年までの直球で押してくる姿はどこにもなかった。
春の練習試合で大敗した学石に最後までしぶとさを見せたかった南会津。馬場一棟主将(三年)は「青柳はじめ、みんなが限界まで頑張った」の言葉にナイフは大きくなすいた。

夏の県大会 ベスト8を駆け強豪学法石川と対戦 (平5・7・25 新聞記事)

たのもこの夏であった。
着任以来、私の口癖だった「学習指導に勝る生徒指導はない」「わかりたくない生徒はいない」「難易度別到達目標を入れた授業の展開」などの意を受けて、室井教頭、新井田

教務主任が先頭に立っての指導の成果が、落ち着いた授業態度や部活動、各種コンクールでの入賞などに成果となつて出てくるようになり、念願の国公立大（都留文大）の合格者であった。十数年振りの快挙であり、野球部につき、「やれば出来る」を進学面でも証明できた。これで、若松に出て行く大学進学希望の中学生をいくらか引き止め、生徒数の確保にもつながると思つた。普通科でも推薦入試が導入されることになつた。そこで、志願資格を進学希望者にして内定時から中学校と連携し学力向上を図つたことも、翌年以降の国立大合格につながつたのではないかと思う。マイチューター制などと名付けた個別指導はいまも引き継がれ成果を上げているようだ。うれしいことである。今後は高校改革の波に飲み込まれずに、存在感のある高校として発展する事を願うばかりである。

私にとって、いつまでも薄れてこ

ない記憶に地域に人々との交流がある。高校の体育館は毎週水曜、午後八時から地域に開放され、いつも十五〜二十数名の老若男女が集まり、バトミントンを楽しんでいた。私も妻とともに仲間入りして、地域の人達と汗を流した思い出がある。「校長先生は若い」などと煽てられ、その気になってハッスルして、もんどり打つたお尻は、今でも時々鈍痛となつて痛みだす。

もう一つは、謡曲の会（辰巳会）に、新井田先生とともに仲間に入れてもらったことである。この会では、関新会長宅で毎週月曜日、本名祐雄（現村長）さんや五十嵐勝司さんを師匠として謡の稽古をし、夏のゆかた会では伊南川のアユをたらふく食べながら花泉を飲み、新年会では紋付き袴着用、夫婦同伴で出席する懇親会を楽しんだ。会員には村の有志の方もおり、情報交換でも役立ち、教えていただいたことが多く感謝し

ている。私が在職した二年間の社会では「今までは予想もできないこと」がいくつも起きた。冷夏と猛暑、細川内閣、奥尻、松本サリン、年が明け始業式の朝に神戸地震が、年度末には地下鉄サリンとオウム犯罪の数々であった。社会は暗く嫌なニュースばかりであったが、幸いわが高校では、先生や生徒諸君が努力を積み重ね実力を蓄え、そして花開かせた明るいニュースに終始し、地域からの協力も頂き、校長として幸せを感じた二年間であった。



おらの高校をめざして

第十九代校長

須田 敬

(H7・4・1)~(H9・3・31)

南会津高校創立五十周年おめでと
うございます。

私は平成七、八年度の二年間勤務
させていただきました。その間PT
A、同窓会の方々地域の皆様には、
公私共にひとかたならずお世話にな
りました。心からお礼申し上げます。

南会津高校が本年創立五十周年を
迎えるに当たり、五十周年に係わる
事柄については、実行委員長の馬場
清雄氏、同窓会の辺見賢氏等の方々
にお任せして、私が目指した学校像
について述べたいと思います。

私が目指した学校像は「おらの高
校」即ち地元から信頼される高校づ
くりです。具体的には、生徒一人ひ
とりの進路希望の実現を目指した体

制づくりをどう推進するかです。生
徒の学力の向上を図るにはどうした
らよいか。学力 \parallel F（知力 \times 努力 \times
指導力）とすれば、本人の努力はも
ちろん教師によるところがかなり大
きい。生徒と教師の相互作用の場
ある授業で、自らの指導力を高め、
生徒に努力を促すことこそが学力向
上のポイントと考え、そのための三
本の柱を設定し、教職員に取り組ん
でもらうこととしました。（別紙参
照）一、地元から信頼される高校づ
くり。二、生徒数の確保。三、若い
教員の力量の向上の三つです。この
内、生徒指導の充実―「しつけ指導」
は次のとおりです。基本的な生活習慣

が未だ身につけていない生徒が一部
に目立ちました。「箸の持ち方は家
庭で、鉛筆の持ち方は学校で」と言
われます。実態として全く学校まか
せの親がいることも否定できません。
そこで高校三年間で、「あいさつ、
時間厳守、敬語の使い方」を社会人
として基本の中の基本を身に付けさ
せるよう、機会あるごとに生徒に語
りかけてきました。もちろん指導者
として教職員にも率先垂範を呼び掛
け生徒から自然にあいさつが返って
くるようになりました。

「基礎学力の向上」については、
進路希望に合った教育課程をつくる
こと、特に進学に必要な教科目の授
業時間を増やしました。在校生には
一部の教科に、新入生には、全面的
に改訂しました。特に数学と英語で
す。生徒の進路目標達成の第一歩は
教育課程です。教育課程が教師の姿
勢を変え、そして生徒も変わるの
です。三の内「過疎化、少子化に伴う
生徒数の減少」への対応には、校長
として最もエネルギーを費やしまし
た。校長は学校の顔です。生徒募集
の面からは、営業所長の顔でもある

のです。地域の皆さんの子供さんの
高校進学に対する意識の把握と分析、
南会西部の二つの高校の募集定員と
志願者数の実態とのギャップが極め
て大きいこと、二つの高校を存続さ
せていく条件が厳しいこと等です。
私は、機会あるごとに行政に携わる
方々、中学校の生徒、保護者、先生
方、また地域の集会等で次の三点に
ついてお話し、ご支援をお願いしま
した。（一）若松地区への流出防止。
推薦入試の積極活用、特に国公立大
学、一般入試対応として徹底した個
別指導の継続、その結果あるレベル
までの合格指導のノウハウを先生方
は身につけてくれたと思います。

（二）部活動の活性化による流出防
止。スキー部、剣道部を中心として
部活動を活発にすることです。成果
は派手ではないが着実にあがってい
ると思います。問題は他から来る生
徒の下宿探しが大変なことです。地
域の皆さんのさらなるご協力をお願
いするしかありません。（三）マル
チメディア活用事業です。本校活性
化の起爆剤として効果は大いにあっ
たと思います。清陵情報高校と光フ

イバーで結んで学校間連携による授業という画期的な事業です。研究成果が期待されます。

三の「指導力の向上」については、勉強する教師であれ！のスローガンのもと授業が勝負、そのため教材研究を深め、授業を工夫すること、問題意識をもって、自分を高めること、そして最も効果があったのは、「学力向上、進路指導、生活指導」について教師一人ひとりにレポートを求め、それを資料に校内研修会を行い、教師相互の力量の向上に努めたことです。以上、特に校長として心がけたことを述べてみました。教師は社会の代理店としての役割、親は子供の最初の教師としての役割を果たさねばならないと思います。先生の生徒、生徒の先生、親の子、子の親、そこには一体感がつくる信頼感があると思います。先生と生徒、親と子の関係では素直な信頼関係は生じないと思います。地元の高校も同じだと思います。「おらの高校」として皆様のさらなるご支援、ご協力を願って止みません。

◆ 本校の目指す学校像を実現するために、学校経営者としての重点事項及びその取り組み

重点事項	取 り 組 み
1. <u>地元から信頼される高校づくり</u> <u>生徒指導の充実</u> 進路指導の充実 <u>基礎学力の向上</u> 地域・保護者へのPR	しつけ（けじめ）指導、バイクでの安全通学、好ましい上下関係 寮生の指導等 個別指導の徹底、推薦入学者を軸としたチューター制の採用、添削指導（国、数、英）、0校時、課外指導、懸賞論文・弁論大会・各種コンクールへの応募、職場体験学習、組織的小論文指導、ハードシステムの活用 <u>指導体制の確立、進路希望に合った教育課程の改訂</u> つなぎ教材の開発、完全授業、家庭学習時間の確保、習熟度別学習（英語、数学）指導、不振者への補充授業、 <u>地元からも大学進学</u> 「湧雲」の毎週発行 各中学校教員・保護者へ大学進学等のための本校の取り組みについてPR マルチメディア施設の地域への開放
2. <u>生徒数の確保</u> <u>地域の過疎化に伴う生徒数の減少</u> 隣接高校との関係 出身中学校別入学者数と今後の推移	<u>若松地区への流出防止（地元高校でも大学進学ができる体制の確立）</u> <u>部活動の活性化による流出防止</u> <u>僻地高校マルチメディア活用事業の積極活用</u> 寮の活用 只見高校との関係→只見町立明和中学校 田島高校との関係→館岩村立館岩中学校
3. <u>若い教員の力量の向上</u> <u>指導力の向上</u> <u>指導者の確保</u> 学習指導計画等の充実 先進校の視察等 研修体制の確立	<u>勉強する教師であれ！</u> <u>授業が勝負！教材研究を深め、授業展開等に工夫を！</u> <u>課題意識の高揚と実践、学力向上、進路指導、生徒指導の課題のレポート提出と協議会での検討</u> <u>経験者の採用（新採用者を極力押さえる。）</u> <u>複数の経験豊富な中堅教員の確保と校内研修の充実（教頭、中堅教員の役割大）</u> 役立つ学習指導計画の作成、週案の作成（経験年数に応じて） 学期初め定期考査単位の指導計画と考査問題との提出 先進校の視察、報告 各種研修会への積極参加、職員会での研修資料配付、テーマ別職員協議会の開催 研修マニュアルの作成

恩師(教職員)

稻	高	安	三	伊	斎	蓬	辺
村	橋	斎	瓶	藤	藤	田	見
泰	英		昌		昌	道	修
伸	樹	守	久	洋	己	郎	一

校舎など建設

ラッシュユの思い出

元事務長

辺見修一

SSS
615326
・・・
444
・・・
111
} } }
SSS
635835
・・・
333
・・・
313131



私は、昭和二十五年四月一日付で福島県職員として採用され、最初に赴任したところが県立南会津西部高等学校（現在の南会津高等学校）でありました。当時の校舎は、木造二階建てであり調理室などは、平屋造りであった。特に寄宿舎は元木工所の跡を改造したお粗末な平屋建てでありました。当時は、課程も全日制と定時制があり修業年数も全日制課程は三年、定時制課程は四年あり、本校の外に伊南、明和、朝日、只見に

寄宿舎改築工事概要

- 設計 福島県建築設計協同組合
- 工事監理 福島県田島建設事務所建築課
- 工事施工 建築本体工事：南郷村(株) 星組 星 公正
電気設備工事：会津若松市(株)小松電気商会 小松 茂春
給排水設備工事：会津若松市 若松ガス化学工業(株) 高木 厚保
- 工期 着工 昭和58年5月10日
完成 昭和58年11月15日
- 工事費 154,300,000円

寄宿舎改築施設概要

- 所在地 福島県南会津郡南郷村大字界字向川原2086番地
- 収容人員 40名
- 舎室数 20室 (13.5㎡、ベッド2、机2、1室定員2名)
- 施設 鉄筋コンクリート 2階建 (建面積436.88㎡、延面積798.81㎡)
- その他の施設 舎監室、資料室、休憩室、食堂、洗面所、浴室、便所 (各階に男女別、計4)
- 施設費 9,000,000円



分校があり、その後只見分校が独立して只見高等学校となり、明和分校は定時制普通課になった。十四年であったと思うが伊南川が氾

濫し、近年にない最大の水害であった。この時、私は当校に勤務中であった。堤防の決壊で南側の理科室が崩壊し始め、見てる間に流失した。そ

の後の復旧については、転勤のため詳細について承知していない。そして、若松商業学校、両沼県事務所、会津短期大学、田島出納事務所、田島林業事務所、田島建設事務

所と転勤を重ね、昭和五十三年四月に再び南会津高等学校へ事務長として勤務することになった。

赴任してみると、新校舎の建築中であり三期工事の一期工事が終わり、二期工事から担当した訳であります。(鉄筋コンクリート四階建) 諸々の問題もありましたが三期工事まで無事完成した訳であります。一部暖房施設に問題がありました。竣工式と祝賀会があり、生徒は専心学業ができるようになったのであります。

校舎完成して今度は二つ目の体育館の新築を目標に陳情したのであります。幸い当時女子バレーボールは県下でも一番の成績であり、県に陳情し旧体育館での練習風景を視察していただき現状について陳情したのであります。

丁度或る学校が敷地の関係で保留してあるため、これを廻して頂くことになり、校舎完成の翌年着工し立派な体育館が出来たのであります。屋内体育の向上に小規模高校では、県下一であります。名称は、新体育館と決定したのであります。

その後、生徒数が多くなり遠距離

通学の生徒が特に多くなり、寄宿舎建設について計画して県に陳情したのであります。丁度県の担当が知人であり相談したところ、考えましようとうことでした。このことについて、忘れておったところ建築許可があり、予算措置があり、昭和五十八年着工完成したのであります。昭和五十八年四月に只見高等学校に転勤となり、工事に直接担当はしないが完成したことについて、喜んだ事が記憶にあります。

近代的設備の立派な寄宿舎であり、誇りを持っております。(鉄筋コンクリート二階建四十名定員)昭和六十一年四月再度南会津高等学校へ勤務することになり、寄宿舎についての運営について苦勞の始まりでした。それは、冬期間の生徒が多いことです。四十名定員に五十五名の申し込みがあり、閲覧室と物置を改造しベツトも増設して収容したのであります。当時の生徒数は、一学級三クラスで寄宿舎も超満員でした。その後年々生徒数の減少により現在は閉鎖されているようですが、立派な建物ですので、再開出来る事を祈りたいもの

です。紙面の都合上記憶の一端を記し、南会津高校が益々発展されるよう祈願して失礼します。

南会津西部高校の 思い出

蓬田道郎

(S30・12・1～S34・3・31)



学校を出たばかりの教職未経験の私が南会津西部高校にお世話になったのは、一九五五年、昭和三十年十二月だった。雪の梁取まで美男子の齋藤脩氏が出迎えてくれた。それから満三年と四ヶ月、個性豊かな先生方や、謙虚で賢い生徒達に囲まれて、心身ともに豊かな年月を送ったといえる。

「人事を盡して天命を待つ」「人生いたるところ青山あり」諺の数々が実感できた時期でもあった。楽しい思い出がある。数学の時間をつぶ

して西部劇「シェーン」の映画の話をした。教室が明るい雰囲気になって、若い私は映画の主人公になって平原に立った。他のクラスからも要請され、いつの日か地平線の彼方に消えてゆく自分の姿を思い重ねた。

馬鹿なことをしたという思い出がある。生徒の長髪問題である。生徒と深夜まで論争した。最後に生徒は担任の私を立て、夜中に床屋を起し翌朝丸坊主で登校した。「よくやった」と一言もいわなかったのはなぜだったのだろうか、私の冷やかな一面を見られたような気がして今でも悔まれる。

若い時代だったと思うことがある。卒業を前にクラスの過半数の生徒が、宮床の旅館でタバコと酒の宴、生徒の幹事がメモを電話ボックスに置かれたのだ。発見した私はひとりで踏み込んだ。

結果は私も飲んでしまった。宮床にはバイク事故で逝った生徒の墓がある。彼の墓を囲んで校歌を歌い解散した。あれからかなりの星霜を重ねたがクラスの何人かの生徒を亡くした。私も長男を失った。再び天国

で旧交を暖めることが出来るだろうと待っている。

会いたい人達がいる。齋藤清の版画に出てくるような、どっしりと雪に埋もれた冬の時習寮、いまにも押しつぶれそうな空間の中で、互いに寄添いながら春を待つ紅顔の生徒達。

舎監長小林栄三先生の次に入れてもらう木風呂の香りは芳しく天下一



図書室にて

生が教えておられたので、私は数学と英語を担当した。

なぜか私の英語は「ジャパニーズ・イングリッシュ」といわれているので、当時の生徒達に発音やアクセントに関して、変な刷り込みをしてしまったのではないかと気にしている。

進学校に転任してから化学の授業を英語でぶってみたが、快感を持ったのは私だけだったらしい。

創立十周年を目前にあの清流伊南川は変身した。濁流に首まで浸り脱出する近藤校長、大久保教頭。対岸で心配する村人や生徒達。数十台の自転車か床もろとも流れて行った。

そして今、南会津高校も創立五十周年を迎えられるとのこと、感慨無量なものがある。数多くの人材を輩出し、盤石と隆盛の中に新たな日々を迎えていると思う。次郎医者顔が何度となく脳裏に交錯する中で、我が南会津高校「永遠に光あれ」と祈念して筆を置きます。

品、只見や黒谷、山口や伊南、あの生徒達は今どうしているのだろうか。会えないのだろうか。

私の専門は化学であるが、野尻先

青春時代の金字塔

齋藤昌己

(S38・4・1～S40・3・31)



私の赴任した昭和三十八年からの二年間は私の人生にとってかけがえない年月でした。その前後には校舎・グラウンドが大洪水に見舞われ、それは村全体に及んだ災害であったり、伊南村の大火があったり、大変不幸な事があったのが思い出されます。そんな時代にすごした私が南会津の良き思い出だけを抜き出しては語れないと思っています。

しかし、南会津の自然の美しさ、清く澄んだ豊富な水、そして心豊かな村の人の人情の厚さは私の心まで

豊かにしてくれました。桁違いの積雪にも驚き、積雪の多さで村の人は大変不自由しているにもかかわらず、内心私は犬がよるこんで躍び廻わるのと同じように降る雪を見ながら「どんどん積もれ!!」と喜びと驚きを心に秘め、ドキドキしながら津々と積もる雪をながめていました。

只見では除雪、積雪の毎日で人が電線をまたげるほどだと聞かされ、現に南会津高校でも私の勤務していた頃も校舎の二階の窓からいとも簡単に降りられる程の積雪がありました。

今の南会津はどうでしょうか。私も含め、南会津高校で勤務した教員仲間をわけても仲がよく、誇りをもっています。

心に豊かで大きな故郷を持った気持ちでいるからだと思います。それと十kmや十五kmくらい平気で歩いたあの頃に誇りを持っているからだと思います。何不自由のない今の世の中、人間としてとても大切な我慢とか耐え抜く力は、あまり便利になった今、育ちにくいのではないかと心配がよぎります。今年の三月退職した私は

老骨ながら南会津で培った我慢強さや耐え抜く力を無駄にせず大好きな登山や全国の観音様、神社仏閣を歩

いてまわろうと決心しているこの頃です。

―久美讃歌(故人となられた愛妻のために齋藤昌己氏が書かれた本)より抜粋―

平成七年八月

久美讃歌永遠に愛をこめて

駒止峠の山越え

このことは、僕は友人、同僚、そして生徒達に何度か語ったことがあり、面白い話、笑い話として語ったし、南郷村の冬の雪の桁違いの積雪を伝えたくて語った。案の定、友人、同僚、生徒は爆笑もなかったが、実は、僕と久美にとっては人生最高の思い出として誇りにさえ思っていることだ。なにしろ十数時間、三メートル以上の雪の積もった山越えだったし、僕達の山越え以後、兎狩りの猟師以外三十年過ぎた今でも、僕達の他に山越えはないという。それに、友人達が「村でも、その噂が評判だぞ。語れ!語れ!」と言うし



「駒止峠秘話」、「駒止峠の恋」、「南郷の雪を溶かした恋」とはやしたてられ、その気になってしまった。

つい、その気になってしまったが、今では、僕と久美にとっては、友人達の言うとおり、「僕達は、人がめったに体験できないことをしたんだね」と語り合い「もう、あんなことは出来ないね」と二人が時折り、最高の思い出として語り合ってたことでもあり三十三年前のことである。



昭和30年代の駒止峠の様子

昭和四十年三月、入学試験の合格発表の後、春休みに入った日から三月十九日だったと思う。春休みとはいえ、南郷の三月は除雪された雪が道路の両側に三、四メートルは積み重ねられ、雪の回廊となっていた。麓でさえそれだから、南郷の山々はまだまだ冬であったし、現に駒止峠の中腹からは地吹雪が止まなかった。吹溜りでは四メートルはゆうに雪があり、堅い

雪の上を歩いて行けば、なんとかなるだろうくらいの気持ちで登り始めたが、それは大きな間違いだった。

南郷村から帰省するには、当時二つの方法があった。一つは、只見まで約一時間バスで行き、それから会津只見線の汽車に乗り、約二時間で会津若松に出る方法、もう一つは山口からバスで館岩の中山峠を経て約一時間半で田島に、それから会津滝ノ原線の汽車に乗り約一時間半で会津若松に出る方法、この二つであった。もちろん冬以外は、三つ目の方法が駒止峠をバスで越え、田島、会津若松に出る方法があったが、それは十一月下旬から五月初旬の冬期間は閉鎖であった。

帰省の三月十九日、中山峠をバスで田島、会津若松に出るつもりのお客様が山口のバスの発着所にきていた。僕も大竹先生、そして角田校長も郡山に急ぎの用事があり来ていた。客の中に数人同僚もいた。ところが第二の方法（帰省）の中山峠で定期バスとダンブカーの衝突事故により不通となり吹雪のため開通のめどが立

たないとのこと。第一の方法で帰省するしかなくなった。しかし不運なことに、川口あたりで雪のため列車が脱線で不通。開通のめどは不明と連絡が入り、これで南郷村からは誰れ一人会津若松はおろか田島町にさえ今日中には出れないこととなり、客はやむなく、帰りはじめた。僕達もあきらめ帰ろうとしていたが、角田校長があきらめきれずにバス発着所から動かなかった。僕は校長に「どうしたんですか。急ぐんですか」と聞くと、「明日の昼には郡山まで行かねばならない」「会議があるんだ。それに人を待たせているんだ」と諦め切れずに「開通しました」との連絡を期待しながら動かない。あたりを見わたすと客は校長と僕と大竹先生の三人だけになっていた。

僕は「うーん」と溜息をつき、すぐ「校長先生、山越えますか」「ほかに手はありませんよ」といった。始めは冗談としか聴いていなかった。校長も、「どうしますか」と促すと、郡山の自宅にこの四月に南会津高校に転動してくる予定の先生を待

たしている校長は、「斎藤君、本気か」と僕の本心をただすかのように僕をじろりと見つめてきた。

「校長先生がその気なら行きますよ」。しばらく考えていた校長が、いたずらっ子のように、にこっと笑って「よし、やってみよう」と言った。このやりとりを、そばにいた大竹先生に、聞いての通り「校長先生と僕は山を越えるから、先生は明日、どちらかが開通したら帰省しなさいね」と話した。

大竹先生は、急に駄々をこねだした。「私も行きたい」と言いだした。軽装での帰省なので、「それは無理だ」。校長も僕も「明日にしなさい」と説得に懸命になった。

「そんな、軽装では山越えは無理だ」と再三説得していると、大竹先生は開き直り、こう言った。「校長先生も斎藤先生も私と同じ軽装じゃありませんか」、「条件は同じです」、「それに、斎藤先生が行くなら私もついて行きます」、「絶対について行きますから」と

立てつづけに言った。僕は、その言葉で心の中では「つれて行こう」と思っていたが、校長は「斎藤君、久美先生はとても無理だぞ」と言う。大竹先生は、校長に、きっぱりと次の言葉を言い、校長も「よし、三人一緒に行こう」と言わざるを得なかった。「斎藤先生となら、死んでもついていきます」

そして、三人は駒止峠めざして雪道を歩き出した。山の登り口に辿りつくまで一時間半はかかった。もう疲れ、僕は少し後悔しはじめていたのに、振り返ると、すぐ背後には校長と大竹先生は、まるで、遠足にでも行くかのようにニコニコしながらついて来ている。

いよいよ、道などないから電線を目印に登り始めた。登り始めは意外と楽だった。堅い雪で順調であったが、四十分くらい過ぎた頃から地吹雪が舞い、雪も柔らかく、一歩踏み出す毎に胸までつかるあり様、十メートル登るのに五分もかかる吹溜りが数多くあり、その大変さが胸をいためた。「山越え

しますか」と校長を誘った軽率さが後悔以上のもの、果たして、山越えなんて出来るのだろうかと思安を感じながら一歩一歩登っていった。猛地吹雪のうえ気温は氷点下なのに僕は汗だく、振り返ると相変わらず、ニコニコ顔の校長と大竹先生。「ラッセルを替って！」とは言えず、まるで平泳のように雪をかき分けかき分け、黙々と登った。しかし、嬉しそうな大竹先生の笑顔には本当に助けられたし、勇気も湧いてきた。おなかが空いてきたのを感じる余裕もでき、大竹先生の持参のチョコレートや校長提供のビスケットを食べながらラッセルは続いた。九時に山口のバス発着所を出発して五時間過ぎた。あまり休憩も取らずに電線づたいに登りつめていった。休憩を取らずにいれたのは猛吹雪の中の行軍で大自然の恐怖が三人に襲ってきて、休むという心を起こさせなかったのだろう。それから十分くらい過ぎただろうか、少し広く見はらしのきくところまで登り

つめた。地吹雪は相変わらず激しかったが、時折り視界が瞬時広がりを見せた。「あ！峠ですよ校長！」と思わず叫んだ。「茶屋がある筈」とあたりを見渡した。地吹雪とガスが視界を遮りしばらく立ち往生していたら、瞬間、青空まで垣間見るほど視野が広がり「あれが峠の茶屋かな？」二百メートル先に煙が見える。地吹雪とガスが容赦なく視界を遮ったが、方角だけはわかったので、そこに急いだ。近づいて見ると、茶屋は雪の下にドツプりと埋まり、雪で作られた階段があり降りて行った。

一人の番人がいてくれた。時刻は二時三十分を指していた。こんな冬にも茶屋には番人がいてくれたとは思ってもよらなかったし、地獄に仏。大変うれしく、ありがたかった。僕達三人をいろうりに招いてくれ、熱い茶、熱いインスタントラーメンを作ってくれた。

番人本人も猟師であり、猟師仲間と交替で番人をしているとのこと。「雪は、このあたりは六メー

ターは積もるかな」と平然と言う言葉には二の句が告げなかった。そして「冬は猟師以外は誰れも来たことはないなあ」とかえって驚かれた。下りは三人とも「かんじき」を借り、下ったら針生の部落で「上から借りてきた」と返せばよいと親切にもてなしてもらい、礼を言い、くだりはじめた。「かんじき」さえあれば雪が多少柔らかくても楽にくだることができた。生まれて初めて履く「かんじき」の歩き心地は登りの時、校長と僕はゴム長靴、大竹先生はゴム短靴だったのを思えば格別であった。

お陰で針生の部落には二時間ちよつとで着いた。もうあたりは薄暗くなっていた。「かんじき」を最初の農家に「上で借りました」と言われたとおり返し、田島の町をめざして三人は歩きはじめた。

無事、山越えした安心感からか疲れがどつと出て、僕と大竹先生の足取りは重かったが、角田校長の健脚は並でなく、早く！早く！と僕達二人を急ぎ立てた。田島の

灯が見える頃、やっとバスにひろわれ無事田島の宿に夜の八時近くに到着した。

朝の九時に山口のバス発着所から歩き始め、実に十一時間の行程であった。遅い夕食を三人でとり、校長の計らいで、校長が一室、僕と大竹先生が少し離れた部屋に一室ときまった。

何も知らない大竹先生は喜多方の家に「母が心配しているから電話をします」と言ってお下りして行った。

その際に校長は僕に言った。「斎藤君、宿には若夫婦と言って君等には別室を取ったぞ」。「風呂も一緒に入れ!」。「今夜は夫婦の契りを結べ」と立てつづけの命令が下った。

「ハイ」と返事はしたものの、僕は先生の見聞を聞くわけにもいかず、どうしたものかと思いついた。そんな僕の心の迷いを見抜いたのか校長は「わかったのか?」「そうしろ!」と重ねて念を押してきた。僕は「ハイ、わかりまし

た」と返答するしかなかった。しかし、風呂は駄目だった。なにしろ当時の宿は今の様にホテル風ではなく、木賃宿だったので、大竹先生に言っただけのものに拒否された。同じ部屋で寝ることだって先生には心外であったと思う。お互いに別々に風呂から上ったものの、もじもじと同じ部屋で寝ることに抵抗を感じていたことが昨日のことのように思い出す。

こたつをはさんで敷かれた布団に横になってはみたものの、僕の心は穏やかなものではなかったし、大竹先生も同じ思いだったろう。標準語ではなかったが「疲れたから休もうね」と言って電灯を消した。僕は校長から命令されたことでもあり、行動に移らなければならない。心臓のドキドキする音が外にも聞こえるのではないかと思うくらいだった。意を決して僕は自分の枕を小脇にかかえ、大竹先生の布団に入るため立上り、二、三步歩もうとした時、察知した先生は「斎藤先生!」と思いつ

めた感じで呼び掛けてきた。僕は思わず立ち止まってしまった。

長い沈黙の時間があった。大竹先生は言葉を選ぶかのように小さな声で、静かに「今は困ります」。間をおいて「心の準備ができていません。困ります」と悲しそうな涙声で訴えてきた。

僕は、その声、その言葉を聞いて自分の布団にもどった。もし、僕に心の余裕があったなら「ごめんね」の一言云ってやりたかった、と今にして思う。あの当時、僕は先生の大竹先生の心まで思い遣る余裕など少しもなかった。しかし、後年、このことに関して思い出しになると、久美は思いとどめた僕にすごく感謝し、昌己先生がますます好きになったと言った。なにが幸いするかわからない。僕はなにも久美の心を思い遣ってやめたわけでもなかったが、でもそう言ってくれる久美の心は嬉しかった。

校長命令に逆らった僕だが「しないでよかった」と実感しているが、

僕も久美も、そういう機会をつくってくれた角田校長には大変感謝している。結婚の仲人はもちろん大好きで、尊敬してやまない角田校長夫妻にお願いしたことは言うまでもない。

駒止峠の山越えは僕達夫婦の金字塔であり、三十年間の二人の最高の思い出であり、亡くなった久美を思うとき、真っ先に思い出す。



結婚式 ウェディングドレスで

南会津高校での 思い出

伊藤 洋

(S39・4・1) S42・3・31



私が南会津高校に勤務したのは昭和三十九年より三年間のわずかの期間でしたが、たくさんの思い出が詰っております。そのいくつかを述べたいと思います。

赴任の記

昭和三十九年四月一日、新卒の私は南会津高校に向いました。友人に「南郷は医者か居ないから盲腸を取っていった方がよいぞ。虫歯も完全に治療していけよ」、又、ある人からは「冬は電線に注意……電線に首が

懸る位積もる」とか「踏み固められていない所を歩くと首まで埋まってしまふぞ」などと言われ、田島まで列車、さらに館岩経由のバスで、多分二時間余り、さらに南郷まで三分位かかったのではなかったかと記憶しております。

学校前に着いた時、石積みの校門（高さが約二m近くだったと思わる）の三分の一位がまだ雪に埋れ、校庭も四・五十cm位の雪が残っていたのには少々驚きました。

玄関には、角田校長先生、山内先生、加藤先生が暖かく出迎えて下さったことが今でも思い出されます。

三十九年の新任者は多分六名か七名だったと記憶していますが、その殆んどが新卒者だったので皆、張切っていたような気がします。

湯西川温泉旅行

多分、勤務二年目の頃ではなかったかと思われるが、第二期中間考査中のこと。

五、六の先生で「今日は天気も良いのでどこかに出かけっか？」ということになり学校のジープ（ドライ



音楽クラブのメンバー（先生と共に）

バー馬場周作先生)であてもなく出発、湯の花温泉まで行ったところ、「有料道路」の木製の標識を発見。有料道路とは言っても入口に係員も居なければ、車のすれ違いも出来ないような幅の狭い山道、行先の標識もない。「まあ、行ける所まで行ってみっか」と云うことになり、カーブのきつい狭い山道を、途中、紅葉の美しさに感動したり、鳥の鳴き声を聞いたり、人っ子一人、車一台にも会わず、走ること一時間余り。ようやく人家が見られる所に出る。「湯西川温泉方面」の標識を発見。又、山の中へ向う。後で分ったことだが、「湯西川」は平家の落人の部落で、今で言う秘湯中の秘湯であった。

さて、我々の乗っているジープであるが、かなりのオンボロで時々エンジンとはするし、さらに困ったことにライトがあまり調子が良くない(点灯しないことがある)。周りはだんだん薄暗くなってくる。暗くなる前に旅館へ着かなければ……。我々の願いが通じたのかエンジンもなく宿に到着。飛び込みであったが「山

口営林署御一行様」ということで無事投宿。温泉に浸り、山の幸、川の幸を食べ、飲み、「先生」という言葉を口にした人は五十円の罰金などの約束のもと)ペチャクチャしゃべり、楽しい一夜を過ごしました。勿論、翌日は何ごともなかったような顔で無事学校に戻りました。昔々の楽しい思い出です。

次郎先生(渡部医院)のこと

「男心に男が惚れて……」この歌は「東海林太郎か、渡部次郎か」というセリフのもとに歌われた次郎医師の十八番の歌でした。

私が次郎医師にお会いしたのは赴任して一週間も過ぎない時期、渡部医院に間借りをされていた加藤先生の紹介があつたのことだつたと思う。「渡部医院は南郷村の文化センターで、いろいろな面でお世話になると思うので、挨拶しておいた方が良くいと思うよ」と云われ、全くその通りで、南会高を去ってから、大変な面倒を見ていただきました。

(昭和三十九年当時、南郷村は文化的に見ると貧しかった様に思われました。テレビは白黒で民間放送は新潟放送、NHKもローカル放送は新潟放送で、当時、新潟県知事が話題になっていて、連日ローカル放送は新潟の話題だけ、南郷村の小、中学生は福島県知事の名前よりも新潟県知事の名前を知っていた、と云う話を聞いている。新潟地震と云う大事件などがあつたせいかも知れない。)

三十九年は東京オリンピックがあり、初のテレビカラー放送を見たのは次郎先生のお宅でだつたと思う。

又、エレクトーンを初めて弾いたのも次郎先生宅、週一回、多い時は二、三回お邪魔し酒をごちそうになり、興に乗ると、空トックリをマイク替りに歌われた次郎先生、それを笑顔で見守るトキ先生、本当に楽しい思い出をたくさん有難うございました。

音楽部会研究大会、生徒指導部会のさゆり荘での懇親会では「名月赤城山」、会津なまりの「リンゴの木の下」などの熱唱で会を盛り上げていただいたことなど、一生忘れることのない思い出です。

三十三周年記念誌で五十周年誌にも書きたいと云っておられた次郎先生、心残りのことと思えます。星のかなたより励ましのお言葉をかけて下さい。

最後に南会津高校のますますの御発展と職員、生徒の皆様の幸せをお祈り申し上げます。



予餞会(昭和40年)

出合いは合縁奇縁

三 瓶 昌 久

(S41・4・1) (S44・3・31)



私が南会津高校にお世話になれた切っ掛けは、前任者の加藤岳郎先生が転勤することになり、その後任として先生が私を角田祥治校長に推薦してくれたからです。加藤先生は今でも、人としてまた体育人として仰ぎ、常に私の目標とする大学の先輩です。当時、先生はハンドボール部の名監督として辣腕をふるい、南会高を県内屈指の強剛チームに育て上げておりました。この実績ある部を先生の転勤で衰退させるわけにはいかない、との角田校長の強い教育

方針があったようです。その頃私は、教員一年生として石川郡の中学校に勤めておりました。学生時代に経験したハンドボール競技を機会があれば、ぜひ指導してみたいという希望をもっておりましたので、加藤先生からの転勤のおはなしには身の程もわきまえず二つ返事でお願いをしたところでした。しかし、この異動は易易とは運びませんでした。県教育委員会では当然のことながら「勤務一年で異動は認めない」と強固な態度だったそうです。このため角田校長は何度となく県教委に足を運ばれ、学校の経営方針や部活動奨励の意義など、子細に説明し説得に当たったと後日、加藤先生から伺いました。「出合いは合縁奇縁」といいます。角田校長や加藤先生が私を推してくださったことが、正に、私の人生のターニングポイントとなりました。

ところで南会津での三年間の生活は、私の一生を支えるほどのすばらしい経験をさせてくれました。授業、部活動はもとより、百名を越える寮生との冬期間の生活、先輩や同輩とのすがやでの小宴や大宴、片貝の辺見肇さん宅での家庭的な下宿生活、近隣の方々との日々の付き合い、次郎医者宅での宴や遊芸……これらの貴い経験は今の自身の人生観、教師観に確実に生きづいております。反面、生徒への指導ではこれと言った理論も計画もなく、ただ我武者羅に動き燃え、いわゆる若さだけが取り得でした。中でもハンドボール部の指導では、部員達に非科学的なトレーニングをしょっちゅう課し、今振り返ると懺悔の至りです。しかし賢い彼達はこれらの練習を我慢しながら上手付き合ってくれました。又、私の指導力のなさを先輩の先生方が見兼ねてこれを補ってくれました。柔軟な発想で度量の広い愛称、体育の康さん、豊かで深い学殖をもつ英語の隆一先生、卓抜した理論と実践家の生物の周先生、寛容で穏やかな音楽の洋先生等が自然に部員の進路、生活指導に目を向けてくれました。

更に、部員の家庭にまで出向き保護者に部活動の取り組みについて理解と協力を求めてくださったのが、去る一月十九日、永遠の旅路に出立された敬愛して止まない次郎医者です。次郎医者には言葉には尽くせないほど支えていただきました。生涯忘れ得ぬ思い出の中のひとつに、昭和四十二年の秋、新人チームが初めて県制覇を果たした時、我事のように喜こび、赤さびた優勝盃に溢れんばかりの美酒を注ぎ、生徒と一緒に祝ってくれたことです。今はただ思いの丈をこめて「日本一の名校医、こよなくスポーツを愛した次郎医者」のご冥福をお祈り申し上げるばかりです。

ハンドボールに関しても一話。この競技をもって大学に進んだ四十三回卒の佐藤雄次君。彼は非凡なスポーツセンスと抜群の運動能力で三、四年時には日本の学生界を代表するスペシャリストになります。卒業と同時に本県の体育教師としてグラウンドに立ち、赴任先の長沼高や郡女高を次々と全国レベルに仕立て上げます。庄巻は、「ふくしま国体」の少年女子監督として自ら練り上げた綿密な戦法と巧みな選手起用で天晴れ、日本の頂点に立ちます。この偉業は本県スポーツ史に永く語りつがれることでしょう。



さて、南会高を去って四半世紀たつ

た平成三年、私は田村高校に勤務することになります。この年、田村高は、本県で初めての体育科が設置され県内各地から陸上競技など競技力の高い生徒が入学します。この生徒の中に南会高在職中に三年生に在籍していた四十二回卒の馬場莊一君の子息がおりました。二十五年ぶりの偶然の再会に共に驚き弾む会話の中に「南郷の郷」が心地よく、蘇ってきます。この入学が縁となって体育科スキー実習は南郷スキー場でお世話になります。この時も村御当局や民宿の方々に多大な心温まる援助をいただきました。余談ながら莊一君の子息は「花の京都駅伝」でチームの主将として又四区を力走し、見事第四位入賞を果たし一躍、田村の名を全国に広めます。

時は流れ現在、県教育委員会に勤めています。県庁内にも輝く南会高OBがおります。知事部局情報管理課には四十六回卒の大江考信係長、教育庁には高校教育課に四十一回卒の関博之主幹、そして私の職場でありますスポーツ健康課には四十七回

卒の橘廣中係長。それぞれ課の要として県政進展に活躍しています。

いよいよ南会高創立五十周年

南会高がその長く輝しい歴史を礎に永遠に光芒を放ちつづけることを心から願ってお祝いのことばといたします。

在職中の思い出

安 齋 守

(S 58・4・1～S 62・3・31)



赴任地が南会津高校であったことの幸せを感謝しております。

南会津高校をして南郷村、それは私にとって第二の故郷といっても過言ではありません。私は昭和五十八年四月、新採用教員としてこの地に赴任し、以後四年間お世話になりました。そして、この四年間こそが、その後の私の教員として又社会人としての人生を十倍楽しくまた厳しくさせてくれた貴重な日々となりました。今ある自分は、この時に知りあった教職員の方々、村の皆様方の温かい人情に支えられ、教えられた賜物と思っております。そして、最初の

一月亡くなったことを聞き、お世話になった日々が思い出となってしまいました。

南郷村の皆さんの真心に心を打たれました。

知り合いに南郷村での体験を話すと、「おまえは、本当の会津の三泣きを味わってきた幸せ者だ」とよく言われます。「会津の三泣き」など私は全く知らなかったのですが、私が南郷村を第二の故郷と思っっている理由は、実はここにあったのかも知れません。赴任当時、何も分からず誰も知らず、唯一の楽しみと言えばカーステレオのポリウムを最大にして車を走らせ、ストレスを発散させていました。自分のミスで駒止峠で交通事故を起こしてしまい、三浦政憲様にご迷惑掛けてしまったこと、今でも申し訳なく思っております。このときの、どうしようもない寂しさと、これからどうやってゆくのだろうという恐怖心で泣き出しそうになったことを覚えております。

そんな私に、当時の校医でもあった次郎医師は、優しくユーモアをもって接してくれました。「安齋カーブには注意しろ」、今でも忘れられない言葉です。(その次郎医師が今年

そんなとき「人事」は「ひとごと」と思っていた私に、突然、異動の知らせが伝えられました。月日はあつという間に四年がたっておりまして。希望もしていない人事に少々戸惑いもありましたが、実家の父が病気で倒れ看病のこともあり異動を決意しました。いざ別れるとなるとお世話になった村の皆さんたち、教職員の方々、そして卒業したクラスのみんな、そして野球部員たち、みんなの顔が心に浮かびまた泣けてきました。南会津高校での思い出と南郷村での生活は、私にとって最高の財産となりました。そして、今にして思うと、「会津の三泣き」を味わった自分は、最高の幸せ者と思っております。

創立五十周年を迎えられた南会津高校は、南郷村と共に益々栄えることを心から願ひ、且つ、私が在職中お世話になった方々のご健康とご幸福をお祈り申し上げます。

南会津の思い出

高橋 英樹

(S 61・4・1～H 3・3・31)



南会津という言葉を聞く度に、美味な鮎を育む伊南川、手を伸ばせば届きそうな無数の星が煌めく夜空、見事に色をつけた真っ赤に燃える山々、地面からもうもうと吹き上げる雪などを思い出します。五年間に、南会津の自然の中で、溪流釣り、山菜取り、スキー、秘湯巡り、奥会津探索等々体験しました。

学校は精力的な先生方に囲まれて、刺激が多かったように思います。校務分掌も一人三、四役は当たり前、その上部活動指導、課外授業と忙し

いながらも楽しい毎日でした。また、退勤後や休日の時の先生方との交流の数々が懐かしいです。

校務で印象にあるのは、県教育委員会指定研究です。主体的に自己実現を図る生徒を育てるために、県内初の職場体験学習を実施しました。また、オリジナルの進路ノートを作成したり、キャリアアタイムでは、自己の能力や適性を理解し、体験を通して奉仕の精神や社会常識を身につけるプログラムを数多く取り入れました。この研究発表へ向けて教職員と生徒が本気になって取り組んで大きな成果を収めました。

次に、五年目の夏、「時習寮」で進学合宿をしました。同じ目的を持つ仲間同士が寝食を共にしながら勉強ができて大きな収穫になったようです。当初、深夜に及ぶ勉強に困惑気味だった生徒達が、全員やり遂げました。私も、彼らのやる気に押されながら全力で一週間を過ごしました。合宿終了後、疲れはありましたが、爽快な気分になりました。

南会津で多くの人たちに出会い、お世話になってきましたが、特に

世話になったのは、校医の次郎先生、トキ先生ご夫妻です。病気の治療ばかりでなく、新米教員が寂しい思いをしていないかどうかを心配していただきました。声をかけられると遠慮なく訪問して、楽しい時間を何度も過ごしました。お二人の温かい人柄、笑顔は生涯忘れられません。

平成六年の秋、新潟回りでふらっ

と南郷に来た時、家内に次郎先生の所に行ってみるかと思案しました。南郷に入って旧渡部医院の前を少し通り過ぎた時、ちょうど次郎先生が縁側に立ってこちらを見ていたのは偶然とはいえ驚きました。まるで、私達を待っていたかのように。先生は快く招き入れてくださいました。三十分ほど歓談して南郷トマト



職場体験学習の様子

を頂いて帰路につきました。あれが私にとって先生の最期の元気な姿でした。子供を連れて先生の所へ来る約束を果たせず残念です。先生のご冥福をお祈りします。

一年目の春、「駒止トンネル」を不安な気持ちで通って南郷に来ました。しかし、五年目の春、「会津の三泣き」の持つ意味をかみしめながら同じトンネルをくぐり抜けた時、ぐっと熱い気持ちがこみ上げてきたのが今でも忘れません。

今の自分があるのは、若くエネルギー溢れる先生方、純粹で素直な生徒達、そして温かく支援して下さった保護者の方々、地域の人がいたからこそだと思います。深く感謝します。

湧雲

'89、9、22

NO. 18

福島県立
南会津高等学校

9月26日(火)~28日(木)

職場実習を実施します。



初めての試みとして、2年生全員による職場実習を実施することになりました。西日本ではかなりの高校が数年前から実施し、成果をあげているようです。沖縄のある高校では、一週間実施しているとのこと。本県ではおそらく初めての試みだと思われませんが、次のようなねらいから始めることにいたしました。

① 近年、かつてのように子供が両親とともに働いたり、家庭で手伝いをする、ということが極めて少なくなり、働くことを、体験を通して理解する機会も少なくなってきました。そのことが、将来職業に就いた際、思わぬ壁にぶつかったり、挫折したりする原因となっています。そこで、「働く」ということの意味を、体験的に生徒に理解させたい、と考えました。



② 高校生が地域社会から遊離する傾向が顕著になり、そのことがさまざまな問題に波及しています。特に、社会生活に必要な基本的なことの理解が不十分です。そこで、地域社会の一員として地域のさまざまな人と関わりを持ち、いろいろなことを教えていただき、正しく、たくましく育てていただく機会にしたい、と考えました。



③ 「高校時代ぐらい自由に楽しくすごしたい」という風潮があるようで、目的を持たず、ただまんべんと学校生活を送っている者もいるようです。高校時代にやっておくべき事を知り、今後の高校生活を充実したものにさせたい、と考えました。

今年度は右記の事業所でお世話になります。よろしくお願いいたします。

国体の思い出

稲村 泰 伸

(H5・4・1～H8・3・31)



平成七年十月・・・皆さんは覚えていらっしゃるか？福島国体があったことを。南郷村では山岳競技の登攀（とはん）競技と、踏査競技が行われた。

私が南会津高校に着任したのは、平成五年四月であった。会津若松から一時間半かけて下郷、田島を通り、駒止トンネルを抜けると雪の壁が急に高くなる。ここで本当にやっていけないのだろうか？不安がつる。しかし、実際は他の先生・生徒・村の人たちはとても親切で、すぐに不安

は安心に変わった。

そんなことをしているうちに二年間が過ぎて、三年目、いよいよ福島国体の年である。山口屋旅館を利用して合宿もやった。大会まで約百二十日の合宿。南郷スキー場の駐車場に作られたクライミングボードに朝五時から登った。地上約三十メートルでかなり高い建築物であった。また、伊南村の三岩岳は、縦走といって十五キロほどの重量を背負ってひたすら登山道を走って登ったりした。とにかく朝四時半ごろ起きて、夕方六時すぎまで山の中にいたような気がする。その間、学校ではいろいろな先生にご迷惑をおかけしたと思う。授業の課題を準備する暇もなく、また、体育の先生には、炬火リレーなどもお願いして、そのおかげで合宿に参加することができたのだ。

大会本番では、試登員（デモンストレーション）をすることになり、スキー場のクライミングボードを登った。南会津高校の生徒が観客席に来てくれたのは登り終えた後だった。生徒には競技の手伝いをしてもらったり本当にお世話になった。何とか



自分の晴れ姿を見て欲しかった気がするが、今となってはしようがない。結果は、成年男子、女子、少年男子、女子と四種別すべて優勝することができた。残念ながら、皆に応援されながら選手になれず、補欠として、国体に参加する形となり、大変くやしい思いをした。自分にとって一生忘れられない出来事だった。

あと五十年後にまた国体が福島で開催されるかもしれない。そのときは南会津で山岳競技が実施されるの



平8.10.8 国体での高校前の炬火リレー区間ランナーたち

だろう。そのとき南会津高校は創立百周年になるはずだ。ぜひ元気な姿で南会津の地を訪れてみたいと思う。がんばれ南会津高校！

同窓生・PTA 野球部後援会

五十嵐 公隆 (S 46卒)	菅家 新 (S 45卒)	五十嵐 森光 (S 44卒)	星 光伸 (S 43卒)	酒井 よし (S 42卒)	渡部 克矩 (S 41卒)	目黒 広一 (S 39卒)	林 光子 (S 38卒)	菅家 洋一 (S 37卒)	平野 哲哉 (S 35卒)	井上 忠夫 (S 34卒)	吉川 昭子 (S 33卒)	山内 徳次 (S 32卒)	馬場 長男 (S 31卒)	馬場 康昌 (S 30卒)	渡部 淳 (S 29卒)	馬場 健一 (S 29卒)	八巻 牧夫 (S 28卒)	大桃 博 (S 27卒)	五十嵐 貞夫 (S 27卒)
五十嵐 勝司 (S 34卒)	月田 和行	近藤 康 (H 9卒)	梁取 美智 (H 7卒)	馬場 一禎 (H 6卒)	五十嵐 智美 (H 5卒)	五十嵐 和也 (H 4卒)	梁取 博 (H 元卒)	馬場 夏江 (S 63卒)	五十嵐 哲 (S 62卒)	増田 功 (S 59卒)	星 哲也 (S 56卒)	酒井 秀明 (S 55卒)	小椋 裕 (S 54卒)	星 哲昭 (S 53卒)	斎藤 良 (S 52卒)	月田 宏 (S 51卒)	三瓶 民哉 (S 50卒)	馬場 泰 (S 49卒)	内藤 孝 (S 47卒)

伊南分校に学んで

農業科一回卒 (S27)

五十嵐 貞 夫



終戦後世情もようやく落ち着きを見せ始めた昭和二十三年の田植上りの頃だった。南会津の西部に高等学校が出来、誰でも入学が出来るそうだとの話が流れ、それが夏に実現した。本校が和泉田中学校内に、そして常設分校として伊南、明和、朝日、伊北のそれぞれの村立の校舎内に併置された。

伊南分校に当初入学を許可された者は六十余名を数え皆向学心に燃えて居る様に見えた。だが、いざ開校して授業が始まると四十人足らずの生徒でやがて三十五人と退学して行き冬が訪れる頃には二十人程になっ

た。

その頃の教諭陣伊南分校には専任の先生が一人、中学校長と村内有識者があたり他は本校よりの出張授業と云う今では考えられない変則授業であった。

昭和二十四年度の新生も十人足らずと、少数であったが校舎は中学校の仮教室より独立校舎へと（今は使用していない隔離病棟を改造した建物）、そして専任の先生も増員され学校らしきかたち作られてくる。その頃の生徒は着物にモンペ国民服、はては印袴天と云った種々雑多の服装で登校して行った。

そこで結成されたばかりの生徒会で服装のことを議題にとりあげ、帽章やボタンから、襟章と話が進み、校章のデザインをと云う事になり男子生徒は、尾白山、伊南川、銀杏を基本に今の校章の原型に近いものを考案し、女子はセーラーカラーとかライン等と、男女で楽しく話合った事も思い出される。その頃出来たベルトのバックルを今でも大切に使用して居る。

昭和二十五年度に入ると秋の頃よ

り分校の統廃校の話が囁かれ始め大宮分校の本校への統合が決り生徒も本校と伊南分校へと分かれた。入学する生徒が少ないと廃校になる。生徒の胸中にも危機感が湧き、二十六年度の新生募集に生徒達が村内は勿論の事隣村の館岩、大宮村まで歩いた。館岩村へ行った時獲りたての熊汁を馳走になった事も遠い思い出となって甦ってくる。この時期の生徒は今思うと向学心ばかりでなく建学の志も強く抱いて居った様だ。亦その頃より全校生との委員会が年に

一回〜二回程開かれる事があった。

夏期の会議は自転車を利用する事が出来たので、日帰出来たが、降雪期には道路の除雪がなされず馬の背の様な悪路の為、伊南や伊北、朝日からは午前中の会議は出来ず午後になり必ず一泊しなければならなかった。その時の伊南の宿は宮川屋であった。その宿に高校の若い男の先生が下宿されて居り、その頃珍しいスチールギターを生まれて初めて見て聞いたあの音色と青春の一夜を思い出す。

農業科、畜産科、家庭科、定時制、西部高等学校も、南会津高等学校となり、今では立派な近代建築の校舎が建ち、インターネットをとり入れ県南の高校と同時授業も出来る県下でも数少ない特色ある学校に育って来た。亦現世では宇宙遊泳が、月世界旅行が果てしない夢の様な話題が数多く聞かれる時、まさに隔世の感が有り今浦島である。

最後にこの様な追憶に浸る機会を与えられた事に感謝し乍ら筆を置きます。



思い出 (校章の出来るまで)

農業科一回卒 (S27)

大 桃 博



この度南会津高校発足五十年を迎えるに当り記念誌を発刊されることの出来まことは誠に喜びに堪えない次第であり関係者のご努力に感謝する次第です。

今日までの五十年間のうち在校生活四年間ではありますが、この四年間の中に蓄積された思い出は感動あり、共感あり、反省ありで年月の経過と共に次第に淡いものになって参りました。しかし一つ一つ静かに思い出として見ると不思議に思い出が甦って参ります。

特に私は予科練の復員軍人として戦後のひと時を徘徊し中学校も出な

いで高校に入ることのためらいもありました。それに戦後家業として木工業を始めたばかりでしたから定時制高校開校の話もよそ事のように聞いておりましたが、時に友人である岡本広一君が中学校を卒えたばかりで熱心にすすめてくれようやく願書を出したものでした。

しかし家族の者は仕事が忙しいのに学校に行くなんてとんでもないと大反対されました。それでは学校に行く分働き出したら良からうと夜中から朝迄に一日分の仕事をこなしてから通学いたしました。無理は長く続かず一週間にして倒れてしまっ

校章を作ろう ”山のあなたの空遠く“



前列右より菅家君、五十嵐君
後列右より伊南分校主任山次政男先生
手を上げているのが岡本広一君、その左小生

たのです。親もそれ程行きたいなら、と認めてくれるようになりました。しかし学生服もなく仕事着の上に印禅天、風呂敷包を小脇にかかえて伊南分校に通学いたしました。そして人目を忍ぶようにして裏道を突走ったものでした。時には暇人学校と云われたり通学には一苦労したことが思い出されます。早く学生服を着て堂々と世間から認めてもらいたい一心で分校生同志で話し合いボタンの図案を考えることになりました。先ず山を中心に伊南川に躍る若舳を想起し伊南川をあしらい、高原の白樺の葉を組み、中心に「高」をあしらったところ見事な図案が出来上がりました。早速本校に持参して事の次第

を話したところ、これを伊南分校だけのものにするのは勿体ない図案だ、「本校でも考えてみよう」ということで時の校長玉川春雄先生に取り上げていただきました。その後専門家に見ていただくなどして出来上がったのが今の校章であります。私達にもそれを知らされると皆んなで喜びました次第です。このことは生涯の誇りです。今生徒達の姿を見ると夢に見た高校生を思い出すことが出来ます。高校生としての服装が一応揃ったことで集まってくる諸君も胸張って高校生らしくなりました。そして昭和二十六年全校生の修学旅行がありました。行き先は江ノ島でしたが実に楽しい旅行となりました。

私達は学校での勉強もさることながら、この学校を今よりも一層充実させ発展させようとする気運がみなぎっておりました。そして後輩達に「おらが学校」として胸張れる学校にしたいとの高まりがありました。

今五十年を迎え子や孫が南会津高等学校生として心おきなく学業に専念出来ることは誠に幸せです。どうか青春を謳歌し教育の殿堂として更に発展を願う次第であります。

母校草創の頃の想い出 大宮分校から本校へ

農業科二回卒（S28）

八巻 牧 夫



私は、昭和二十四年四月、南会西
部高校大宮分校に、定時制農業科二
回生として入学した。分校では、前

年度入学の一回生と、私達二回生は、
同じ教室で同じ授業を受けた。教室
は大宮小学校の一室で、最初の一年
間をここで過ごした。当時分校専任
の先生は、盛岡農専農業土木科出身
の角田秀三先生と、少し遅れて赴任
された竹内庸先生の若いお二人であっ
た。竹内先生は東北大学工学部の学
生であったが、健康を害され休学中
とのことであった。

当時の授業では、先ず角田先生の
「幾何」が懐かしく想い出される。

条件・結論・証明と猛スピードで板
書されながら、文字通り口角泡を飛
ばして熱心に説明されるのだが、申
し訳ないことに私達の態勢が不十分
で、内容の難解さと相俟って半分に
上は睡魔との闘いであった記憶があ
る。一方竹内先生は、専門は理系で
あるが、印象に残っているのは、世
界史の授業である。ノートやメモな
ど一切なしで、細かい史実や年号な
ども含めて、やや詠嘆調の美文で口
述されるのを、私達は必死にノート
するのである。先生の記憶力と博識
ぶりに驚きながら、世界史に興味を
もったことを憶えている。

高校の授業に馴れた五月中旬頃で
あったろうか、役場からの依頼で、
授業の一貫として山林測量をするこ
とになった。角田先生のご指導の下、
十日間位、毎日コンパス・ポール・
間縄をもって山を歩き回るのだが、
季節も良く、つらい教室の授業に比
べて、非常に楽しかった記憶がある。
しかもこの時の測量に対して、村か
ら謝礼が出たのである。相談の結果
このお金を利用して夏休みに旅行し
ようということになった。旅行と言っ

ても、館岩小学校の教室を借りて宿
泊するのである。勿論自炊である。

日中は近くの川原で遊んだり、土地
の青年達と野球をしたり、夕方にな
ると歩いて湯の花温泉に風呂入りに
行き、夜は校庭に火を燃やして、フ
ィヤー・ストームである。近くの畑
から無断で頂戴して来た玉蜀黍をか
じりながら歌ったり、踊ったり。今
では到底許されないことであるが、
大らかな時代と土地柄のお陰で、大
変楽しい想い出を残すことができた。

分校での最初の一年が過ぎ、懐か
しい両先生も分校を去り、二年目と
なった頃、私達は、古い建物ながら
独立校舎に移り、新入生が入学して
来た。

その頃、分校専任の先生として、
若い国語の五十嵐先生が赴任して来
られた。その後暫くたったのことで
あるが、五十嵐先生がある日、突然
に、明日試験をするから勉強してお
くようにと言って出張されるとい
うことがあった。突然の試験なので文
句を言いながらも暫くは自習してい
ると、誰かが試験問題が職員室にあ
るのではないかと言い出した。皆で

職員室に行つて、先生の机の回りを
探したが見付からず、諦めた頃、試
験問題を重ねたため、薄くインクの
写っているザラ紙が見付かった。多
分明日の試験問題が写っているらし
いと見当はついたが、残念ながらイ
ンクが薄い上に、文字が反対なので
とても判読できない。皆で騒いでい
るとき、私に閃いた。「鏡に写せば
いい」。結果は正に正解で、翌日の
試験は恐らく全員が満点であったと
思うが、五十嵐先生の反応がどうで
あったかは、全然記憶がない。

やがて、分校での二年目が過ぎよ
うとしている頃、大宮分校が廃止さ
れ、本校に統合されるという情報が
入って来た。早速生徒全員で手分け
し、一軒一軒回つて署名運動をした
が、結局、昭和二十六年三月を以て、
大宮分校は廃止となり、四月からは
本校に通学することになった。

当時の本校校舎は、出来たばかり
ではあったが、中央玄関から南側半
分しかなく、普通教室が四、それに
職員室、校長室、事務室と別棟の小
さな体育館があるだけだったと思う。
本校においても、私達一、二回生

は同じ教室での合同授業であったが、

一回生は最終学年となり登校日も減り、二回生だけの単独授業が多くなった。この年の四月に全日制普通科が新設され、生徒数も増え、漸く学校らしい体裁が整って来たように思う。

私達一、二回生の教室は、二階の一番奥にあり、廊下には年中火鉢が置いてあった。一回生には多彩な人が多く、授業が終わると火鉢に集まり一服をつけ、中には腰の胴乱からキセルを取り出す人もいたようだ。

本校での授業が始まって間もなくの頃、玉川カヨ先生の国語の授業で「蜻蛉日記」を「とんぼ日記」と読んで、先生に大笑いされたことや「佐藤春夫詩集」、「バイロン詩集」を読んでいただいたことなどが、今でも強く印象に残っている。なお、玉川カヨ先生は一昨年平成八年にご逝去なされたことをお知らせし、ご冥福をお祈りしたい。

この頃から、生徒会活動も軌道に乗り始め、本校・分校全体の生徒会組織もでき、生徒会主催で、本校・各分校対抗の野球や卓球大会或いは、演芸発表会なども開催されるように

なった。

一回生が卒業し、私達が最終学年になった頃であろうか、生徒会の活動資金を得るために、生徒会主催で映画会を開催したことがあった。藤村志保のデビュー作品であった「破壊」を上映することになった。テレビは勿論なく、映画も減多に見られない時代であるから、大盛況で体育館は超満員となり、お陰で生徒会の財政が大いに潤ったことを憶えている。

生徒会が入場料をとって、映画会をするなど、今では考えられないことであるが、これも古き良き時代であればこそできたことであった。

このようなことがあって、間もなく私達は、母校からの巣立ちを迎えた訳であるが、今、当時を振り返ると、いろんな想い出が次々と浮かんで来る。母校を去って早や、五十年近い歳月が過ぎようとしているが、母校の想い出は、青春の想い出と重なり今なお鮮烈である。

母校の限らない発展を祈りたい。

回想記

農業科三回卒 (S29)

馬場 健一



多感な高校時代の思い出は語り尽くせない。大田原先生のリズムミカルな英語を聞きながら舞いおりの雪を眺める授業風景、雨にかすむ山々、晴れあがった秋空に舞う赤とんぼ、一寸ロマンチックな気分になれたひとときが懐かしい。

スポーツがやはり一番楽しかった。各分校との親善野球試合もあった。二年生になったとき星永二先生が就任され柔道部が、新設された。心が踊った。希望者一同が集る。先ず新しい柔道着を付け受身の稽古から入

る。先生のようにあざやかにくるりと回転しない。それでも放課後や、銀世界になった早朝W君等と乱取りをする。彼は体が小さいので星先生の内股に二回転して落ちることもあった。担任の篠崎先生には見事な背負投げをくったのを覚えている。私はすかさず出足払いを決める。星先生は私につり込み腰を重点的に教えて下さったが、にわかに受験勉強を始めたために中途半端に終わってしまった。

当時勉強に必要な参考書が手に入らずに大いに困った。幸いなことに数学の関根先生の下宿先にM君と押しかけ何かと御指導をいただいた。当時先生は新婚のほやほやでしたが気持ちよく迎えて下さった。私には数学の基礎がなく難し過ぎた。先生曰く「数学のない学校を受験しろ」流石慧眼でいらした。冴えわたった夜に月を眺め未来に夢を馳せて雪道を通ったことがつい昨日のように思

い出される。人は年を取るにつれて折りにふれ思い出すのは、当時の若い心と、すがすがしいそよ風、温かい人情、四季折々に姿を変える山や川であります。

昨年三月の「ふるさと南郷会」の発足により一段と身近になり交流も深まりました。ふるさとを持つ誇りとその暖かさに感謝の気持ちで毎日過ごしております。平成十年五月二十三日に魚眠荘で第二回目のふるさと南郷会の総会を開催致しました。本名村長、馬場議長、山内議員、観光課の方々のご参加を得て盛大に終了致しました。ご出席の皆様からは大変に喜ばれました。今後皆様の方々の積極的な御指導をお願い申し上げます。

終わりになりましたが此度の南会津高校五十周年記念心より御祝福申し上げます、併せて皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

競争無縁、

楽しく過ごす

「知らずとなせ」を支えに

普通科一回卒(S29)

渡部 淳



食わず嫌いは物理と化学。食わず

と言っても高校の授業分は食べました。全く不消化。食べても食べても

苦手は数学。算数の範囲を超えると全くだめ。英語、国語、どちらも文

法は全くだめ。歴史、年代暗記と言わず、時代区分もだめ。好き、得意

は手当たりしだいの読書。笑っちゃいます。全科目、得意技なし。苦手

だらけ。そのくせ学校というものは結構好きでした。小・中・高と十二

年間、大学・大学院と十二年間、計二十四年間の学校生活。そして病院

勤めを通して、学校教育と向きあってきました。

大学は新潟大学教育学部国語科に入りました。一番苦手が少ない分野

だと思って。ところが国文法の期末試験、全く書けないのです。当時、

新潟日報で川柳の選者もされていた阿達夜潮先生の講義でした。先生

が講義の中で「うぬっ猿め、猿めと杣はひだるがり」という川柳を解説

されたことがあって、「先生の解釈は間違っていますか。私はこう解

釈します」と白紙答案のウラに書いて、必修の単位をいただいたことが

あります。優しい先生でした。第二外国語にはフランス語をとり

ました。これも期末試験、「仏語に訳せ」。手を挙げて質問しました。

「仏語(ブツゴ) 〓 仏教語とは何ですか?」。もちろん単位は取れなかつ

たし、先生の名前も覚えていません。苦手科目が多すぎるからか、あき

れたもので苦手意識そのものはあま

りありませんでした。一つは性格だからだと思えます。物事、おおまか

に本質さえ分かっていたら、細かいことはその都度、辞書や参考文献を

見ればいい。分からないときは、分かっている人間に聞けばいい。大事

なことは「知るをもって知るとなし、知らざるをもって知らずとなせ。」

そうなんだ孔子様もそう言ってるんだ。これは当時から今に至るまでと

ても役立つている教えです。科目でいえば後に教育心理学科に

移って、一番苦労をしたのが統計処理、数的処理でした。幸い何人もの

友人、先輩に手伝ってもらいました。もともとグループで大きなテーマに

取り組んでいて、その一部を自分の名前前で発表するわけですから、これ

も感謝こそすれ、苦手、引け目とかいう感じは持ちませんでした。

苦手意識をもたずにするのもう一つは、当時まで私が受けた学校教育

のおかげだったと思います。小学校

四年生で敗戦、村の中学校、そして五つくらい村が集まって、その谷

に初めてつくった全日制高校、第一期生。一学年、一クラス、四十人の

小さな高校。受験競争、進学競争など全く関係なし。まだろくに先生も

集まらなかつたり、高三の秋でも、稲刈り手伝いを皆がしていたり、三

年間を楽しく過ごしました。もちろん妙に基礎学力などと難しいことを

言えば足りないだらけでしょうが、「知らずとなせ」と開き直ってみれば、あんなに良い学校はなかったと

思っています。今、子どもたちがぶつかっている

競争、競争の壁、そこからくるゆがみのさまざまとぶつかっている毎日

の中で、つくづくそう思っています。

エンジニアを 目指してみませんか

普通科二回卒 (S30)

馬場 康 昌



「書けと言われて その気になっ
て…」過去の同窓会誌(名簿)を捲っ
てみると、既に多くの人が、高校創
立当初の状況、楽しい高校生活の思
い出を綴っている。私が同じ切り口
で書いても、新規性、進歩性のある
楽しい文章はとて書けそうにない。
そこで今回は、高校生の進路(志
望大学、職業)選択の際に幾分なり
と参考になりそうなことを書いてみ
たいと思う。

私は高校生の頃「将来何になりた
いの」と聞かれて、「何」のなんた
るかが、ちっとも分かっていなかっ
た。お医者さん、看護婦、先生、バ

スの運転手等のように日常生活に身
近な職業については、凡その見当は
つくが、公務員、サラリーマン、エ
ンジニアとくると分かったような、
分からないような感じしか持てなかっ
た。エンジニアとはラジオや車を修
理する人かと思っていたかもしれない。
い。

最近の高校生は新聞、テレビ、イ
ンターネット等のメディアを利用し
て、各種の職業について我々の時代
よりはましな情報を得ているであろ
うが、技術の分野については、これ
らのメディアも技術開発の成果しか
報道していないように思える。技術
系職種の実際について具体的に述べ
た本も数少ない。

そこでエンジニアの仕事とはどん
なものか具体例をあげて説明する。
職業理解の一助となれば幸いである。
昭和三十六年四月、大学の工学部
電気工学科を卒業して、富士通(株)に
入社。会社ではリレー(継電器)の
開発を担当(主任担当者の補助者)
することとなった。以下に述べるこ
とはリレーメーカー各社の共通の課
題であった。

リレーというのは一種のスイッチ
で、電気の流れる道を切り換えるも
のだが、手動スイッチとは異なり、
電気信号を受けて自動的に動作し、
電流路を切り換える。リレーは電話

の自動交換機に主として使われるが、
その他の各種の電気機器の制御用と
して使われる。家電製品で手動スイッ
チを入れると内部でカチャカチャ音
がするものがあるが、これはリレー
の動作音である。さてリレーは図の
如く電磁石3、接極子4、接点ばね
5、接点6、7、8、これらを固定
収納するプラスチックの筐体等から
構成されている。ここでコイルに電
流が流れると鉄心2が電磁石となり、
接極子4を吸引する。すると接点7、
8が開離し接点6、8が接触して電
流路が切り換わる。コイルに電流が
流れなくなると、電磁石の吸引力が
零となり、スプリング(図示せず)
の力で接極子4が元の位置に復帰し、
接点7、8が再び接触する。(この
図は説明のために簡略化した図で、
実物とは異なる)。

このような比較的単純な構造のリ
レーにも超え難い沢山の問題がある。

中でも接点現象は実に面白いが、解
明の困難な問題で、その当時の各社
の共通の悩みの種であった。以下に
接点問題の中の一例を簡単に説明す
る。

スイッチの開閉を行うと火花が飛
ぶのを見た人もいると思う。この火
花で接点が溶けて例えばM接点から
B接点に接点材質が転移する現象が
ある。何万回も動作すると、一方の
接点はマッターホルンのような形に
なり、他方の接点は三原山の噴火口
のようになる。こうなると接点間の
接触抵抗も高くなるが、マッターホ
ルンが邪魔をして、動作不能となる。
この現象を防ぐために高融点のタン
グステンを用いると転移に強くなる
が通常の室内雰囲気では接点表面に自
然に絶縁膜が形成され、導通不良と
なることがある。一難去ってまた一
難は本当によくあることです。一つ
の問題を解決するために、新しいア
イデアを導入すると、それがまた別
の問題を引き起こす。それをつぶし
ていくのが技術者の仕事になる。

接点の研究は、各社で現在も続け
られている古くて新しい問題である。

接点問題の解決の他に、小形化、軽量化、高感度化、高信頼性、ローコスト化を図り、より高性能の新製品を他社よりも早く実用化するのが、エンジニアの仕事である。

伝送で六年間リレーと格闘した後、半導体部門に移り、GHz帯（10億Hz）で動作するパワートランジスタの開発を担当した。このトランジスタはマイクロウェーブシステムに組み込まれ、国内の電話回線のグレードアップや途上国の通信網の整備に貢献した。（注）家庭電機は50Hz（ヘルツ）で動作。

新聞でよくみかけるDRAM（記憶装置）はもとより、その他の半導体装置もミクロンの世界であり、限られた紙面で、図面なしで説明するのは困難なので詳細は省略する。

解決すべき命題は、高周波化、ハイパワー化、高集積化、高信頼度化、低消費電力化、低雑音化、ローコスト化、放熱技術、パッケージング技術等々盛り沢山ある。

半導体で八年間研究開発に従事した後、特許部に転進。膨大な研究開発費と時間をかけて開発しても他社

特許に抵触したら、億単位の実施料を支払うか、販売停止に追い込まれることになる。このような事態を事前に防止するために各社とも特許スタッフの充実に力を入れている。特許部門にいと、常時広い分野の最先端の技術情報に接していただけるメリットがある。

特許で十数年過ぎた後定年退職し、現在の富士通テクノリサーチ㈱に転社した。この会社は元管理職で、先端技術が飯より好き？専門家集団で構成されている。テクノリサーチ（技術調査）は、私が三十余年の会社生活の間に蓄積した技術的知識や体験をフルに生かせる仕事なので、本当に幸せだと思っている。あと数年頑張るつもり。

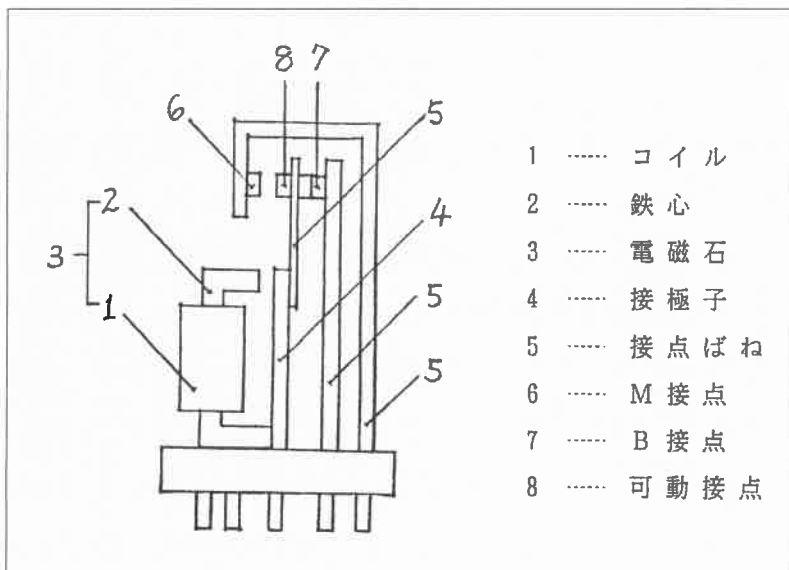
このように技術の道を選んでも、一生研究開発の第一線にいられるとは限らない。凡そ十五年位で管理職になり、その際に営業に変わったたり、関係会社に転社になったりする。どの会社も似たりよったりです。

最近では理科系志望が少ないとも聞くが、私の拙文により、技術系職業へ進みたい人がでてくれれば幸いであ

る。

以上は電子部品の分野のほんの一例にすぎないので、建築、自動車、土木、化学、機械等々の分野（理科系に限らない）に進まれた諸先輩から沢山の事例を収集して、高校生の皆さんに提供するシステムが出来れば大変グーだと思う。一先輩として後輩の高校生のためにしてあげられ

ることは、役に立つと思われる情報を提供することくらいだと思うのだが……。湧雲会等で既に実施しているのでしょうか？
尚末筆ながら、我等が高校の創立から今日までの間、その発展のために尽力された先生方、PTA、後援会の方々並びに関係者の方々に衷心より深く感謝致します。



苦勞した 「カンニング」

普通科三回卒 (S31)

馬場 長 男



母校卒業後四十二年も経ち、記憶も臆ろになりましたが、この期間中一途東京で過ごし現在、当時の事を思い出すことは、テストが大変だったこと、冬の通学の苦勞などが頭に浮かびます。

教師は大田原先生（スキーの級持ち、英語担当）、小林（栄）先生（英語、担任）、柴田先生（国語）等がおりました。

大田原先生は老年でもあったので、英訳を差された時、いつも参考書を丸読みして、その場をしのいでいた

ので周囲の生徒も、すぐにお互い気づき、くすくす笑い出すという授業風景もあった。

これに対し小林先生は、若いし、東大卒という頭の良い教師であり、名前はすぐ覚えるし、何かしようとしたら、大変苦勞することが多かった。例えば小林先生のテストの時、次のようなことがあった。

いつの時でもあることであるが、後の方に位置した生徒の机の上に鉛筆でビッシリカンニングし、それを消さずに帰ってしまった。その現場を何人も見てしまったので、その後カンニングが横行し、色々な方法のカンニングが実施され、エンマ帳に記入されるということもあった。

今考えてみれば、当時は農家に大変人手を用いたので、学校下校後、家の手伝いをさせられ、勉強する時間が少なく、仕方なくやってしまったということもあった。また、一定の点数を取っていないと追試という

「ミットモ」ない結果になるのであった。

しかし、カンニングして点数の上がることはまずなかった。カンニングするような所は読んだり、書いたりするので、ほぼ覚えており確認するのみであった。馬鹿げたこと苦勞してやったことを反省しています。

我が子供も今年大学を卒業します。カンニングのことを話したら、見つかれば退学だ。従って「絶対にやらない」といつていたので、私の負けとなった。

東京での四十二年間色々ありましたが、やはり高校での基礎的な教育が世渡りに役立っており、お礼申し上げたい。

今後とも我が母校が一層発展しますよう遠き彼方よりお祈り致します。

おもいで

普通科四回卒 (S32)

山内 徳次



昨年の暮、編集委員の五十嵐さんから、「五十周年の記念誌を発行するので、回想記を書いてほしい。」

旨の依頼があった。同級生の誰かは書かなければならないと考え、引き受けてしまった。かなり昔のことなので記憶も断片的であるが、いくつか書いてみたい。

我々普通科第六回卒業生は、昭和二十九年四月に入学、昭和三十二年三月卒業である。卒業の時の名簿をみると、四十三名である。入学した時は、四十五・六名だったように思

う。家事都合で何人か退学したように記憶している。終戦後十年は過ぎたといえ、まだまだ貧しい時代であったのではなからうか。

高校の三年間は、あつという間であったと同時に、学校生活はのんびりしていたようにも思う。外からの情報も少なく、先生方は、方言まる出しの会話を改めるよう注意されたり、大学受験についての話をされたり気を揉んでおられたようであった。ふるさとを離れて言葉使いに苦勞してみて、あの時なあ…と反省させられたことを思い出す。

高校生活の三年間は、短期間ではあるが、いろいろなことはあった。授業のこと、部活動のこと、通学のこと、学校の各種行事のこと、生徒会のこと等である。その中で一番に思い出すのは修学旅行である。北陸本線を夜行でかけ、京都・大阪・奈良・伊勢・それに東京と見学してもどるといふかなり長期間であった

と記憶している。都会のにぎやかさや歴史的な建造物のスケールの大きさには、びっくりさせられたものであった。三年程前に、修学旅行以来久しぶりに京都・奈良の古寺めぐりをした。当時のような新たな感動はなかったものの、過ぎ去った高校時代をなつかしく思い出すことができ楽しかった。それにしても、まだ経済的にゆとりのない時代にこのような大きな行事を企画された当時の先生方に、今改めて感謝申し上げたい。

次に思い出すのは、スキーのことである。たぶん体育の授業だと思いが、太田原芳治先生や小林栄三先生に実技指導を受けたことを思い出す。場所は鹿島神社裏の明神ヶ岳の斜面であった。内容は開脚で回転する技術(プルークボーゲン)であった。エッジのない昔のスキーであったので横すべりをして苦勞したことを記憶している。また校内のスキー大会は確か小野島のスキー場(草刈り場)

で行われた。出場をしどつている我々に「滑れる人は出る。」という小林先生の一声で参加したことを思い出す。以来、現在までスキーとの関わりが続き、今は会津スキークラブの一員として、十四回卒業生の平野君達と一緒にスキーを楽しんでいる。ありがたいことである。

母校も今年で五十年「五十にして天命を知る。」である。五十歳の重みを大切にしながら過疎の波にも屈せず、益々発展していくことを切に望みたいものである。

夢心地の教室、 色褪せぬ同級生

普通科五回卒 (S33)

吉川 昭子



「オペレーネリ貴方のお家はどこ、
私のお家はスイツランドよー」校舎
裏の伊南川の土手に腰を下ろしての
入り乱れた大合唱、先生のワンポイ
ント指導に耳を傾けることもなく合
唱は続きました、音楽の授業風景で
す。へ専任の音楽の先生は不在だっ
たとおもいます」

伊南川に面した二階の窓際の教室
は大好きでした、春先には消え残っ
た雪が畑の黒土にまみれて見え、そ
の間からマツ黄色な落の藁が素敵な
コントラストで目を覆ってくれます。
そんな風景が堪能出来る窓側の席、
いつの間にか睡魔が襲い夢心地にな

る事度々でした。そんな時に限って
国語の読み番が回って来ます。「こ
こがんだー」と隣から小突かれ何と
か夢心地から醒めたものです。

暮れ泥む雪国の夕空は身が引き締
まる様な厳しさを感ぜさせます。そ
んな夕空を背にクリスマスパーティ、
家庭科の先生の指導を受けた料理を
机上にセッティングし、「大人の気
分で歌でも歌うべー」と「恋の曼珠
沙華」なる歌を歌った記憶が残って
います。

そんな私達に最後まで付き合っ
てくださいました先生に感謝したもの
です。当時は対外的行事は少なかつ
た様に思いますが、我がバレー部が
若松で開催される県大会に出場する
事になりました。ところが何せレッ
キとした田舎者ですから、その雰囲
気にすっかり飲み込まれ、入場行進
では手と足が同時に上がるとい行
進を最後まで堂々としてしまいまし
た、どうにも止まらない状態に陥り
ましたが臆する事もなく正々堂々の
入場でした。一回戦で敗れ帰りの駒
止峠のバスの中「先生、耳聞こえな
くなりました」鼻摘んで大きなあ

くびをしてみろー」と先生の声、こ
んな生徒を指導された先生の胸中や
如何にと今思うと赤面の至りです。

在学中に校歌ができた事も忘れら
れません、作詞が先に出来上がりき
ちんと掲示されておりましたが、作
曲に時間がかかりました。校歌がで
きた事の嬉しさも手伝いその間に自
作の曲ができました。「山並みの肌
清くー」この詞を民謡の「真室川音
頭」に乗せると実にピッタリ合うの
です。やがて曲が出来上がってきた
時正調校歌に馴染むのに時間がかかっ
たことを覚えています。

冬の部活動は主にスキー、当時は
整備されたスキー場等なくスキーを
担いで近くの山へ、直滑降で格好よ
く滑り下りる勇姿、その勇姿に見惚
れる暇もなく太いブナの木にドッカ
とまたがってしまわれた先生、渡部
医院にお世話になること何ヶ月お気
の毒でした。その姿に接し少しスキー
から遠のいたことも事実です。
受験の時も、入学の時も馬の背と
言われた雪道を荷物を背負い歩きま
した、冬場は他に手段のない生活環
境とはいえ、辛い事でした。そんな

三年間、でも自然の厳しさの中で心
温かさをしっかり育んでくれた南会
西部高校、個性溢れた諸先生方に囲
まれ悔いなき生活を送れた幸せに感
謝の心を込めて乾杯！そんな環境で
共感し合えた第五回卒業生が、心に
残る思い出を一杯詰め込んで、平成
九年七月東京浅草「魚眠荘」へ集ま
りました。

六十才に後一步の五回生ですが、
時は過ぎ行くとも我が同級生色褪せ
ること無しの一時を満喫した事を付
け加えさせて頂きます。



Cコース 中野先生と共に

地域の最高学府

普通科六回卒業（S34）

井上忠夫



私は、人間形成に最も重要な十代後半の三年間を母校で学ばせていただいたことに深く感謝している。母校は私たちが在学した時期に創立十周年記念を迎えたが、今年が創立五十周年と聞いて、改めて時間の経過の速さに驚いている。

本誌発行にあたり、以下母校の思い出を拾ってみたい。

校名は「南会西部高等学校」、一・二年生のときは後藤校長、三年は近藤校長、担任は三年間通して蓮田先生であった。伊南、明和、朝日、只見にそれぞれ分校があった。分校は定時制で四年間、本校だけが全日制、

三年間で卒業できた。

先生方からは地域の最高学府に学ぶ誇りを持つよう指導を受け、他郷に就職した友達の親からは「いいなあ、高校生は。」と友達と比べ羨望の目で見られるなど複雑な心境であった。

その頃、私たちは伊南川流域のこの限られた谷間が世界のすべてのように考えていたが、昭和三十三年の秋、南会西部の地でもテレビ放送が

受信され、世界観が一変した。

三年生の四月いっぱい英語の授業がなかった。それまで、英語は小林先生が担当で、小林先生の英語指導は厳しいことで定評があり、生徒は誰もが英語だけは本気になって勉強したものでした。その小林先生が会津工業高校へ転任され、後任の英語の先生が新採用の先生で、雪の上を駒止峠の茶屋まで徒歩で来られて、「こんな山奥の高校に就職するなら

先生にならなくてもいい。」と言っ

て帰られたと聞いている。私たちには単純に英語の授業がなくて良かったとする喜びと進学・就職準備の大事なときに英語の授業が受けられないとする危惧の念が入り交じっていた。とにかく、母校には地域の期待がかかっており新興の意気に燃えていた。

殆どの生徒が自転車で通学していたが、冬期間は通学できないため、下宿生活や寮生活をする生徒が多かった。私も一・二年生のとき生まれて初めての寮生活を体験した。

一年生の入寮式のとき、後藤校長が寮名を白樺寮から時習寮に改名されたのであった。その時、私は初めて論語の学而篇、第一「学ンデ時ニコレヲ習ウ：朋アリ遠方ヨリ来タル：」を耳にしたのであった。

若い男子教師が舎監を交代で務められ、夜遅くまで私たち寮生と話し込まれるなど授業では見られない面を見せられたことや多くの先輩から教えられたこと、友達と楽しく過ごしたことなど、その後の私の心の財産となっている。



放課後のひととき

昭和三十三年九月、二度も台風が襲来し大被害を受けたことも忘れられない思い出である。教室から明神嶽を白滝となって流れ落ちる豪雨や濁流した伊南川の増水を眺めていると、「急いで全員逃げろ」の放送があり、明神嶽下の土手を目指して逃げ出したのが、土手の下には既に水が回っていた。それで、校舎前の道路に集まって学校を見つめていた。

最後に近藤校長が道路に避難すると同時に、濁流が押し寄せ、体育館や寮がバリッバリッと音を立てて流され、校舎だけが水の中にポツンと残されたのであった。

台風通過後、石だらけの川原となった前校庭に集合した私たちに、近藤校長が「何としても、三年生の授業時数だけは確保したい。」と悲痛な願いを語られたのが昨日のこのように思われる。



台風襲来後行われた選挙演説

ふたたび 過ぎてしまえば みな美しい思い出

普通科七回卒 (S35)

平野 哲哉



母校の創立五十周年、本当におめでとございます。

一九七九年一月に「母校改築並びに創立三十周年記念」の会員名簿発刊の折りに、原稿を依頼されました。その題を「過ぎてしまえばみな美しい思い出」としました。今回も、やはり「過ぎてしまえば、どんな辛い出来事であっても、今思い出してみると、感受性の強い高校生時代のできごと全てが、懐かしくて、美しく胸がきゅんと締めつけられる」のです。

私たち第九回卒業生は、昭和三十五年三月に母校を巣立ちました。昭

和三十三年（二年生の時）に二回、三十四年（三年生の時）に一回台風（伊勢湾台風等）による大洪水に見舞われました。

校庭は石川原、体育館は流失、寄宿舎も校舎の一部も流失し、校舎の一階は石や砂利や泥で見ても無残な状態でした。

したがって、卒業式も入学式も体育館では挙行されませんでした。第六回卒業生への送辞でも、自分たちの卒業式の答辞でも、大洪水の復旧作業を皆で協力し合ったことを中心に述べた記憶があります。

校舎の一部が流失したので、教室が不足して一年生は明和分校へ通学しました。運動会も明和分校の校庭で、全校生が集まって行ったのを覚えていきます。

二年生と三年生の夏から秋にかけての大洪水だったため、復旧作業やその他の諸条件で教科の学習に、かなりの障害があったように思います。しかし、若い情熱あふれる先生方のご努力のおかげで、学力の向上はもちろん不平・不満を抱くようなこともなく、楽しい高校生活を送ったと



「全校生徒会総会（昭和34年度）」

思います。

本校の他に伊南・明和・朝日・只見の各分校があり、生徒会の役員が集まって「全校生徒会総会」を実施したことも大きな意義がありました。

「井のなかの蛙」にならないように、いろいろな条件の中で高校生活をしている人達との交流は、新しい友情を育み、狭い人生経験を広くしてくれる良い機会であったと思います。

男女共学が、若い青春の血をたぎらせ、学習に、スポーツに、生徒会活動に活気をもたらしたことも美しい思い出でありました。

現在とは条件が違いますが、国立大学へも数名は合格し、地方公務員や就職関係もかなり希望がかなっていったように思います。現在それぞれの分野でそれぞれに活躍していることは何と心強いことだろうと誇りに思っております。特に、地元の南会西部に残り、それぞれの町や村を背負っておられる同級生の皆様には、ありがたく感謝の気持ちでいっぱい입니다。母校に幸あれ！同級生の皆様に幸あれ！

道をさがした頃

農業科九回卒 (S37)

菅 家 洋 一



正月の寒い雪の日であったと思う。夜の八時頃に、生徒に案内されて生徒募集の先生が見えられた。中学を卒業したらどうしようかと思いつながらまだ三ヶ月あると思うが何も決まっていはいませんでした。自分としては就職するのが当たり前と思っています。当時の我家の経済は私を高校へ行かせるゆとりがなかったからです。村ではそれが普通でした。それが解っていましたから、内心若松辺りに就職して夜間高校へ通わしてくれる所はないかと考えていました。そこへ、夏は週三日、冬は週五日学校へ行き、他の日は働いて、生活費

を稼ぐ事が出来る故、大倉の高校に入ってみないか、との趣旨での募集でした。当時体が小さくて、大人の中に入って仕事出来るか心配していた家族の思いと、趣旨が一致して、思いもかけず昼間高校へ行ける事になりました。さて雪が消え始めた四月、雪解道を自転車で入学。「良く来たな」と出迎えてくれた四年生の先輩諸氏は無精髭の、いかつい男達で、まるで百四八cmの私にはついていたように誰もが巨人に見えました。夏季は月水金と週三日、冬季は全日制と同じ登校日の生活が始まりました。登校日の他は、大人達に混じり、田畑の仕事や、日雇仕事、今様に言えばアルバイトですが、急に大人の仲間入りで同じ扱いを受けるようになり色々大変でした。夏になり余名沢の演習林の下草の刈払いは忘れられませんが、今も帰省した時は、一度は林を見に行く事になっています。夏の間は営林署の刈払いにも行って居ましたので、連日大鎌を奮って、刈払いの毎日でした。秋は収穫祭、冬は寄宿舎生活でしたが、これがまた大変でした。四年生と一年生の差が

ありすぎて話も出来ませんでした。今思えば生意気だったのでしょう。何度か呼びつけられ殴られました。それでも一向に改善されませんでした。

卒業式前には「東雲」九集が発行され、先輩達の悩みや苦しみを少し近づいた気がした時、先輩は卒



S35. 9. 10 定時制高校会津地方野球大会にて

業して行きました。三十五年に定時制高校会津地方野球大会、三十六年に同じく卓球大会に参加させて戴いた他は、四年間ほとんど同じ事のくり返しでした。朝日分校が合併になった事も大きな事件でした。雪の日の登校に一日掛かりで十時間以上歩き

通しの時もありました。皆年頃でしたから好きな人が出来たり、けんかしたり、今となっては何も彼も楽しい思い出です。勉強の事は余り憶えていませんが、後に専門学校に四年通う事になり、人の基礎とは何なのか、つくづく考えさせられました。

体力、気力、頑張りや目的意識も含めて、今の自分を育ててくれたのは、つじヶ丘分校ではなかったか。あそこには、教育の原点があったのではないかと今考えています。卒業して十六年後分校は閉鎖され、更に二十年が過ぎようとしています。名簿編集の便りで久しぶりに、校歌の詞を見て三十六年もたっているのに、自然に山脈の〜と歌が出ました。これからも地域の教育の頂点にあるものとしてますますの充実と、同窓会会員が一丸緊密に連絡をとり助け合う事が出来れば、大きな力になると思います。事務局の奮闘に期待したいと思います。

思い出雑感

普通科一〇回卒 (S38)

林 光子



私が南会津高校へ入学したのは、伊勢湾台風があった翌年の昭和三十五年の四月でした。ですからまだ台風の被害があらちこちらで見られ、校庭は、川原のように石ころが多く、せつかくあこがれのテニス部に入ったものの、石拾いばかりでたちまちいやになってしまいとうとうやめてしまいました。

その頃は、只見校舎、南郷校舎と呼ばれ、校長先生は、両方の校舎を掛け持ちで勤務されておられました。先生方は、新卒の若い先生が多く、

近くの民家に下宿されて通勤は、歩きか自転車でした。土曜日には、ほとんどが帰郷される様子で、その嬉しきで、大変な御機嫌であった事を覚えていきます。

私にとって高校時代の忘れる事のできない思い出は、高一、高二の冬のお世話になった寮の生活です。一階は、女子で二階は男子でした。各部屋四〜五人でしたでしょうか。四、五十人は、入っていたかと思いますが、先輩や後輩のいる寮生活は、にぎやかでとっても楽しかった事が思い出されます。遠くは、桜枝岐から只見の人まで入っていました。お風呂当番や炊事当番がありました。まきのお風呂で、お風呂がわくと一番先に、舎監の先生へ入ってもらいように連絡に行っていました。

夕方から始まって早朝の炊事当番は、もっとも大変な仕事でした。大きなかまどでたくごはんは、責任がありとっても緊張したことを覚えて

います。近くのおばさんが二人来て手伝ってくれていましたが、経験の浅い高校生にとって大人数の食事の用意は、なかなか大変なものでした。炊事当番になると、夕方学校の前のお店へ買い出しに行く事から始まります。お店の品数が決まっているので、献立をたてるのに大変で、よく〇〇みそと称するものを作っていたことを覚えています。何を食べても食べ盛りでおいしく食べていた事を覚えていきます。

寮には、寮歌と分散歌まであってすごいなあと思ったり、いい歌だと思いつながら歌っていたのを思い出します。寮ですごしたふた冬は、忘れる事のできないすばらしい思い出となりました。

今では、高校時代も遠い思い出となりましたが、お世話になった先生方のお一人お一人が、なつかしく思い出されます。又一クラスしかなかった同級生の皆さんは、お元気でしょ

うか。卒業したまま一度も逢っていない人が多く、ぜひ皆さんとお逢いしたいと思っております。

最後に南会津高校のますますの発展と在校生の活躍を祈念しペンを置きます。

オキクアオイ コイカケサ

普通科一一回卒 (S39)

目黒 広一



同級生が集まると、決まって「オキクアオイコイカケサ」が話に出る。この暗号のような言葉を唱えたとたん、私たちは、高校を卒業してから三十四年の長い歳月を一気に飛ばして、南会津高校二年生の時代にタイムスリップするのである。

普段は、思い出すこともないし、誰に話すこともないが、私たちにとっては、かけがえのない、懐かしい青春の思い出が詰まった「オキクアオイコイカケサ」なのである。

この言葉は、本来はもっと長く続

くのだが私には、ここまでしか記憶に残っていない。

しかし、仲間の中には、未だにこの三倍もある暗号を最後まで覚えている者がいるから不思議である。髪の毛が薄くなったり、白くなったり、おなかが出たりという五十過ぎの男達に三十四年前のある一晚の記憶が、今でも残っていることに驚いてしまう。

(一) 科のテストの前日の夕方、私は、書店で参考書をめくっていて、重大なことに気づいたのであった。これまで、何回かあった(一)科のテスト問題が、私の見ていた参考書と同じ問題だったのである。

その参考書を買って求め、急いで下宿に戻って前のテストを確かめてみると、間違いなく参考書のまとめの問題が出題されているのであった。そこで、私はそのことを自分だけのことにしておけば問題はなかったのだが、私は手柄を立てた気分になり、

時習寮の仲間にもそのことをそっと話したのであった。

三十四年過ぎた今も「オキクアオイ」を最後まで覚えているのは、その夜寝ているところを起こされて、良い点数を取りたいばかりに問題集を見て、その答えだけを棒暗記した仲間である。

翌日、テストが配られると、問題は予想通りの中であった。六名ほどが、三分ほどで棒暗記した答えを書いて教室を出た時の、先生の驚きと周りの同級生の戸惑いの様子が今でも思い浮かんでくる。それ以後、(一)科のテストが問題集と同じになることはなかったし、そんな勉強をして得をした者は、一人もいなかった。そこで高得点をとって成績が上がった者もいなかった。

しかし、「オキクアオイコイカケサ」のお陰で、メンバー全員がほぼ満点近い点数を取った時のことは、思慮の浅い坊主頭のその当時の私た

ちにとっては、滅多にない快挙であった。

そして、「オキクアオイコイカケサ」のお陰で私たちは生涯のかけがえのない友人を得ることができた。会うたびにその話で盛り上がっているのである。

今になって思うと、問題集と同じテストを作った教師も、私達と同じように、若い時代の過ちであったに違いない。

私達にとっては、懐かしい思い出でも、私達を導いて下さったその恩師の名前がここで判明して、いらぬ迷惑をおかけしては申し訳ないので、教科名は伏せさせて頂くことにする。南会津高校時代の懐かしくもちょっぴりほろ苦い思い出である。

三十年夢の「とし」

普通科一三回卒（S41）

渡部 克矩



母校の南会津高等学校が創立五十年を迎えるとの事、皆様とともに心からお祝いを申し上げます。

また、記念誌を発行されるということで、一文を寄稿する機会を得ましたことに感謝を申し上げますとともに、高校生活三年間で特に記憶に残る思い出を中心に述べてみたいと思います。

さて、私の高校生活は、クラブ活動が中心でした。英語クラブに所属し、秋の文化祭に英語劇を上演したことは楽しい思い出として鮮明に記

憶している。二年生では、ウィクトル・ユゴの「レ・ミゼラブル」を、三年生ではシェークスピアの「ベニスの商人」を演じた。アルバムを開くと懐かしい当時のみんなの姿が出てくる。ときどき、高校生の息子に写真を見せては、親子の対話を楽しんだりしております。

また、和泉田地区のメンバーに矢沢美也君、酒井新君などを加えたグループで放課後、よく裏山や伊南川で夜遅くまで語り、また、夏休みにはキャンプをして将来の夢を語りあったことも、忘れ得ぬ思い出となっている。

ある日、たまたま私が代表でピールを買いに行った際に、運悪く生活指導の先生に会ってしまった。自転車に乗り背中に背負ったピールビンがカチャカチャ鳴って、高校生活もこれで終わりかと、冷や汗をかいたことも懐かしい。

さらに、ここに書き留めておきた

いのは、今、三十年前に北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）に渡った日本人妻の里帰りの問題がマスコミを賑わしているが、確か二年生の秋に、李陽子さんが家族とともに北朝鮮に渡った。北朝鮮の経済的困窮、食料難を聞くにつけ、幸せに暮らしていくくれることを願わずにはいられない。

卒業してから三十年余の歳月が経とうとしている今、振り返れば、運命的に今の仕事について私ですが、悔いはないつもりです。思い出に残る仕事は、阪神大震災の際の不眠不休の対応と日本に同和問題という人権問題があることを知り、その啓発活動に携わったことでしょうか。

二十一世紀を間もなく迎えるに当たり、人類の未来は決して楽観できる状況ではないようにみえます。地球規模の環境の破壊による異常気象や、それにより世界的に食料不足が起きる懸念があります。

今、世界で地球環境を護るために様々な取り組みがなされているが、それは、エネルギーの消費を減らし、多消費型社会、使い捨て社会と決別することであり、電気や自動車をなるべく使わないことであり、便利で快適な生活に慣れた現代人には至難の技であろう。人間の知恵が、人間のエゴに勝利することを願い、また、自分自身の毎日の生活の中で少しでもエネルギーを使わない努力を試みたいと願うものです。

最後に、同級生の何人かは既に他界されていますが、心からご冥福をお祈りしますとともに、この創立五十周年記念事業の実施に際して尽力された方々にお礼を申し上げ、南会津高等学校が今後益々優れた人材を輩出されることを祈念するものです。

つれづれなるままに

普通科一四回卒 (S42)

酒井 よし



小学一年生頃の私は、高校生の叔母に作って貰ったフレアースカートが、バレリーナのチュチュのように開くのが嬉しくて、思い立ったら所かまわずくるっくるっくるっとしていました。またある時は、叔母手作りのデコレーションケーキが床の間に供えてあり、穴があく程見つめていたり、そうっと触ってみたりしていました。高校生になったら私も叔母のように、何でもできるようになるんだと信じ、あこがれていました。

それから十年近い年月が流れ、小さい頃の思い込みは大きな間違いだっ

たと、いつしか気付きながらも、何かを期待して入学しました。それからの三年間を、より高校生らしく過ごしたいと考え「私の運動神経は何処？」と探しに出かけたくなる程の私に、数あるクラブの中からソフトボールクラブを選びました。毎日のクラブ活動の中で、先輩と後輩の立



ソフトボールクラブの美女たち

場の違い等を身をもって学びながら、表も裏も分からない程日焼けし、冬の間は体育館でサーキットトレーニングに参加して悲鳴をあげていました。成果の程はさておき心の中では、ひそかに「これが青春だ！」なんて思いながら。あの辛さや楽しさ、そして、充実感を分かち合った仲間たちは、今なお掛け替えのない友たちです。

当時は、生活そのものが豊かな自然に溶け込んでいたこともあって、四季折々の情景とともに様々なことが思い出されます。大曽根山や、駒止湿原への遠足では、疲れ果てている時に、白くてかれんな花のどうだんつつじや、水芭蕉に出会ってとても感動し、元氣付けられたものでした。また、尾瀬研修旅行で見た黄色いじゅうたんを敷き詰めたような、日光きすげのみごとさは今でも目に浮かびます。季節が移り、木々に降り積もった綿のような新雪が、陽に照らされてキラキラ輝く様や、月夜に浮かぶ深閑とした銀世界は、とても懐かしく、ふるさとそのものです。そんな美しさとは裏腹に、雪を踏む

とキュッキュッと鳴る寒い朝に、あるいは、吹雪の中をまゆ毛やまつげを凍らせて登校してくる級友の顔。朝早く家を出て寒さに打ち勝ってきたその顔、その姿は、十分足らずの道を駆けて登校していた私には、神々しく頭が下がりました。厳しい環境の中で育まれた強い身体と精神は、社会人としても我慢強くたくましく、そして心優しく素敵に年を重ねてい

らっしゃることと 생각합니다。思いがけず、創立五十周年記念の記念誌発行ということでお声を掛けて頂き、遠くへ追いやっていた記憶を、手繰る機会を得ましたことを、とても嬉しく思います。この度の、大仕事を担って下さる皆様の、底知れぬおほねおりへの感謝の気持ちと合わせまして、心より、お礼申し上げます。ありがとうございます。

あれから三十年

普通科一五回卒（S43）

星 光 伸



母校、創立五十周年を迎えられたこと心よりお祝い申し上げます。

私は昭和四十三年の卒業生であり、今年はずいぶん三十年目にあたります。改めまして歳月の流れの早さに驚いているこの頃です。

平成五年四月でした。仕事の関係上、実に二十数年ぶりに母校を訪れる機会がありました。近代的で立派な4階建校舎に驚くと同時に私達時代のあのセピア色した古めかしい校舎を思い出して、とてもなつかしい気持ちでいっぱいになったものでした。今、当時の記憶を辿ってみると、春の界山、大曾根山での山菜取り、

京都奈良方面への修学旅行など数多くの事が思い出されるが、特に印象に残っていることは、友人との多くのふれあいである。吹雪の中三キロの道のりを歩いての登下校時、あるいは体育館裏庭で弁当を食べながらの語り。たまには友人宅へ泊り歩いているの夜を徹しての語り。将来のこと、悩み事など真剣に話し合ったものでした。また当時はバイク通学が認められていたこともあり、よくバイクで遠出をした。ゴールデンウィークの尾瀬一泊旅行、新緑の白樺牧場へのハイキング、夏の浅草岳登山、紅葉の奥只見や駒止湿原、そういえば、駒止では道に迷って遭難しそうになったことがある。夕刻暗くなっ

てしまい、最後に沢下りを決行し、時には腰まで水につかりながら何とか針生近くの県道にたどり着き、友と手を取り合って涙したこともあった。このように、私の場合、高校時代は友人との行動、語り合いがすごく印象深い思い出となっております。卒業後は銀行員となり地元南郷を振り出しに県内各地を転々としており、今十回目の転勤で福島市飯坂におります。南郷には二度で通算八年勤務できたことは、とても恵まれたと思う。その時は母校同窓生の皆様方に公私とも大変お世話になり、楽しく充実した時を過ごすことができたこと、誌面をお借りしまして、厚く感謝申し上げます。職業がら各地で多くの人との出逢いがある私は、姓からか「会津出身？」と聞かれることが多く、良く故郷のことなど話をする機会があります。積極的に、豊かな南会津の自然や美味しい郷土料理、スキー場などの観光資源、あるいは母校の事など話をするようにしております。ささやかではありませんが、自分にできる故郷として母校のPRだと思っております。これからも一社会人として自分の職業を通して精一杯頑張ることが、故郷や母校の為にもなることと理解しており、自分なりに努力していきたいと考えております。

郷里では毎年、東京方面では一年おきに同級会を開催していると聞く。今、有志の方が平成十一年に、五十歳の区切りとして合同で盛大にやろうと企画しているようです。第十七回卒業生の皆さん。ぜひ参加しましょう。



伊南川べりで「若い仲間達」

創立五十周年に寄せて

普通科一六回卒（S44）

五十嵐 森 光



母校創立五十周年を迎え心よりお喜び申し上げます。

私たち昭和四十四年度卒業生にとって、今年で四十八才になり、南会津高校は我々が過ごしてきた人生とほぼ同じ時代を歩んできたことになりました。私たちが、高校三年の時（昭和四十三年）に、人では言えれば成人式にあたる創立二十周年の記念行事が行われた記憶があります。翌年三月卒業と同時にそれぞれ将来に大きな夢を抱きつつ母校を巣立ったのが二十八年前でした。地元でがんばっている人、故郷を離れてがんばっている人、遠く海外でがんばっているひ



創立二十周年 体育祭

と、みんなそれぞれにその地その場所
所で生活していても、時々故郷を
想い友達を思いだしては毎日毎日の
仕事や家事に追われていることでは
う。

現在、私は会津若松に住んでおり
ますが、よく会うのが市内で土建業
をしている小沼豊で、毎月無尽をし
ており十数年続いている。それで二
人で時々計画して、花見や芋煮会を
やろうやろうと話をし、その時声を
かけるのが、藤森明澄、河原田利幸、
馬場美恵子、山口登美子、五十嵐あ
け美などの面々ですがなかなか全員
集まることはありません。また何年
か前は東山温泉で南郷や伊南の地元
の有志と数回同級会をしました。
その時恩師の栗城信雄先生をお呼び
して旧交をあたためました。私は栗
城先生のお宅には今も時々おじゃま
しております。恩師といえは担任だっ
た秋葉竜子先生に会って見たいと思
います。郡山にいらっしやるのか？

ご存じの方いらっしやいましたら教
えて下さい。

会津若松市内で南会津高校の先輩、
後輩に会う機会も多く、私の会社に
も南会津高校卒業生が六名おり、ま
た会津若松市や近在の南郷村出身者
の集まりで南郷会が市内で開催され
よく出席し、仕事やプライベートな
面でもより深い付き合いを心掛けて
います。南郷会は大先輩の方々が多
く、我々の年代や若い年代が少ない
ので、前回のとき幹事の方に創立四
十周年時の南会津高校同窓会名簿を
貸して、多数の同窓生に案内を出し
てもらったりしました。その会に出
席すると歳は離れていても、親とか
兄弟の名前を言えばよく知っている
とか、家はどこだとか親近感を深め
るのに時間はかかりません。故郷の
話や昔話に花が咲き楽しい一時を過
ごします。この会に出席される全て
の人達が、南郷を愛し、憂いながら
も、思い出多い故郷や故郷を守って

いる人達に感謝していると私は思い
ます。

カナダの広大な大自然の山河や、
スイスアルプスのすばらしい景色を
見て感動はしても、私にとって故郷
南郷の、やすらぎをあたえてくれる
山や川の自然が一番である。定年を
迎えたら、このすばらしい故郷に戻っ
て自然の中で、老後は晴耕雨読（今
は晴れたらゴルフ、雨の日は囲碁）
のような生活ができればと想像し楽
しみにしている今日この頃です。
最後に母校の更なる発展と同窓生
皆様のご多幸、ご活躍を心よりご祈
念申し上げます。

男子頭髪自由化 運動の記憶

普通科一七回卒 (S45)

菅 家 新



一九六七年四月入学、一九七〇年三月一日卒業式。三クラスのそれぞれの担任は後藤言行先生、金沢厚四先生、山内博允先生でした。山内先生の影響で「岩波新書」が出回り、部活では、三瓶昌久先生率いるハンドボール部が活躍し、国体の選抜選手も出ていた。

そんな私たちの高校生活は、全国に吹き荒れた学園紛争の時期でもあった。真面目な運動勢力を追いやって、暴力破壊活動に走った日大紛争から東大紛争。その結果が東大入試中止。

それらの動きは、県内の高校にも飛び火して送辞・答辞事件などで世間を賑わした。本校でも共同作業で送辞を書くよう顧問から指示を受けた年だった。(その後、卒業式は簡略化された。)ベトナム戦争反対運動も高まりを見せ、騒然とした世情だった。矛盾に満ちた世の中へのメッセージソングとしてのフォークソングが興隆し、高石ともや、岡林信康、などなどの歌声が、テレビからではなくラジオから流れてきた時代だった。ヒッピー族といわれる人たちが出現してきた時代でもあった。それらの世情が色濃くラジオの深夜番組に反映され、私たちを引きつけた。

そんな世相の中で、短髪だった男子頭髪の「自由化」を生徒会の問題として私たちが取り上げたのが六八年の秋だった。「なぜ短髪なのか」「短髪であることの意味は」などなど学習し、議論した。制服自由化の話もあったが、頭髪に限定したのだった。生徒会の委員会での議論、LH Rでの議論、授業では先生への質問と称する質疑詰め。最初は無関心だった女子も、男子の説得で自分たちの問題として受け止めるようになり、学校は「運動」一色になった。道路の電柱にも張り紙がなされ、生徒会との協議・連帯のないままの行動に抗議をしたが、校外の当事者は顔を出さなかった。運動の紆余曲折を経ながらも、六九年の九月、突然全校集会が召集され、学校長から「男子頭髪自由の許可」が出された。その日の夕方、私は二人の友とお互いに刈り合って、生まれて初めて「五厘の坊主」になった。その運動の総括の気持ちとしてピタリしていたからだ。自分への愛着と反抗、周囲への抗議と解放、虚脱感、などなどの絡み合った感情の表現だったように思える。その後、次期生徒会役員が中心になり、頭髪の自由規制の申し合わせ事項を決めた。

学校内外の世論に翻弄されながらも、そんな運動にかかわった生活は、森田公一とトップギャランの「青春時代」そのものだった。それらの一連の雰囲気や学年に反映して、既成への批判からか、私たちの学年には「卒業アルバム」がない。当時は活気に満ちていて、みんながみんな前向きな生活をしていた時代だった。喜びは喜びとして、悲しみは悲しみとして受け止められる生活を送られたことは最良であった。何度も何度も躓きながら、そのつど温かく成長を促してもらった本校での環境が、理想的な「学校」であると思うと同時に、私の人生の出発点が、本校での高校生活であったことを幸せに思っている。

思い出

普通科一八回卒（S46）
五十嵐 公隆



南会津高等学校創立五十周年おめでとうございます。

早いもので私がこの学校に入学してより二十九年の歳月が流れてきました。当時の校舎はもちろん木造で威厳のある落ち着いた雰囲気、校舎でありました。そんな校舎が今も前を通るたびに懐かしくおもいます。高校時代の思い出となると、私にとっては一番に野球クラブで暗くなるまで一生懸命練習したこと。当時流行った3段〜5段切り替えのできるスポーツタイプの自転車に乗って通学したこと。また原動付自転車の免許が取れる年齢になると50CCのバイクに

乗って通学できることがたのしみだったこと。一年生のときクラブの練習が終わるとすぐ、当時爆発的人気のあったスポ根野球アニメ、巨人の星を見るために、友達と競争しながらジャリ道を野球の練習以上に一生懸命走って帰ったこと。お昼時間に校舎の裏の河原で弁当を食べ、食後の一服のうまかったこと。ペンを取っていると勉強以外の思い出がとめどなくうかんでくる。

ずいぶん昔の話である。高校で過ごした三年間は私たち卒業生にとってはけっして忘れることのできない楽しい思い出です。高校生活で得られた幸せの一つは、生涯を通じての友達ができることです。高校は学問を教える場所であるけれども、一方良い友達をつくって、美しい友情がそだっていくところでもあります。そして、その友達と同じ学年だけではなく、先輩、後輩、サークル活動を通じて、先輩、後輩、そしてときにはそれが先生方ということもあります。実際私は今でも当時の先生そして同級生とお互い連絡を取り合いながら交流を続けております。



そのようなことが人生においていかに貴重なものであるか在校生の方々にも高校を卒業した後、年とともに理解されてくるとおもいます。最後にこの様に伝統のある母校を、

先生方、関係者の方々、在校生の皆様、そして私たち同窓生が丸となって南会津高等学校の発展に、全力を尽くして守って行かなければならぬと思います。

高校時代の思い出

普通科一九回卒（S47）

内藤 孝



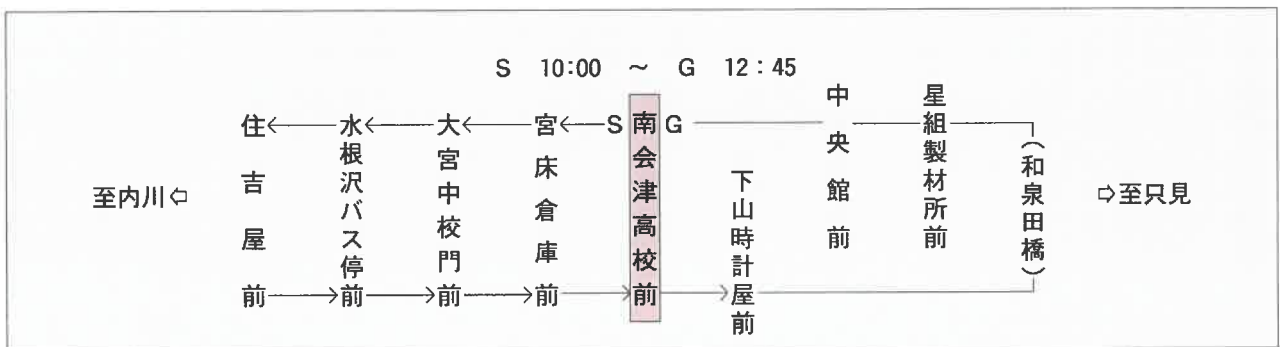
夢と希望を胸に抱き、故郷を後にしてから幾年月が過ぎ去ったのだろうか。たゆとう伊南川の流れにも似て、お互い決して平穩無事な人生ではなかったはずだ。遠い記憶の糸を解きほぐしたとき、突然、眩しいほどの学び舎の三年間が甦ってくる。むさくてセンチな男たちと、明るく優しい女たち、みんな弾ける若さと匂い立つ個性豊かな面々、一人ひとりの顔を思い浮かべたとき、思わず顔がほころんでくる懐かしい連中である。まぎれもなくそこには、君達

クラブや同好会に情熱を注いだ日々、三無主義などと言われた時代、こと体育祭、南高祭、球技大会、駅伝等等などになるとクラスみんなが一致団結して頑張ったり、楽しい修学旅行、初めての新幹線、京都奈良はあいにくの雨、秋晴れの瀬戸内をわたって四国へ早朝の琴平参りなどなど、語れば尽きぬ三年間が頭の中を駆け巡る。若さゆえ傷つき悩み、お互いの心をさらけ出し将来の夢を、そして好きな人の事を語り合った夜、友がいなければ、仲間が居なければ、どんなに空しい三年間であったらう。南会高と聞くとやけに懐かしく甘くせつない気分になってしまうのは俺だけではあるまい。同級生達よ人生は始まったばかりなのだ、お互いの人生を今はまだ語らず。あの日のあの頃の仲間がいるじゃないか、夢の続きを語り合おう。同級生達よたまには一杯飲みたいものだ。ありがと。同級生達よ、いつの日かまた会おう。古里の山河は暖かく迎えてくれるだろう。

当時、無軌道な俺達を熱心に支え、励ましてくださった先生方に深く感謝致します。最後に、南会津高等学校校創立五十周年、心からお祝い申し上げます。



校内駅伝のスタート “頑張っていこう”



駅伝コース

まんが、マンガ 漫画の高校時代

普通科二二回卒 (S49)

馬場 泰



私が南会津高校に入学したのは、

昭和四十六年四月である。現在の校舎ではなく、古い木造校舎であった。高校時代の思い出はいろいろある。合唱部やクラスでの思い出、歴史が大好きになった日本史の先生のユニークな授業、漢文の先生が東京の道路を歩いていたハムスターをつかまえて持ち帰りプレゼントしてくれたこと、京都・奈良への修学旅行等数え上げたら切りがない。その中でも今につながっているのは、「絵を描くこと」である。

私は、小学校時代から漫画を読むのも描くのも大好きで、授業中ノ

トや教科書に落書きをしては、先生によく注意されていた。当時、私はノートに記録するのも漫画で記録したら能率的でわかりやすいのにと本気で思っていたくらいである。そんな私が本格的に漫画を描き始めたのは高校の入学試験が終わった夜からである。試験が終わった解放感から外島商店で買ったスケッチブックにGペンで本格的に描き始めた。高校の入学式も終わり絵を描きたかったので、美術部などがなかったが、

残念ならなかった。授業でも芸術系の選択教科が音楽しかないというのも残念であった。

そんな折り、絵画同好会という自主サークルがあることを知った。何人かの女子の先輩が運営していたと記憶している。自主サークルであったが、一応部室のようなものがあつた。それは、昇降口付近の階段下の真っ暗な斜め天井の部屋で、白熱灯が一個ついていたと思う。電気をつけなければ何も見えないような部屋

であったが、妙に落ち着いて居心地がよかったのを覚えている。中には確か小さな机が一つ、椅子が二・三脚あるぐらいの非常に狭い部屋だったと思う。古い石膏像が一個あって、何回かデッサンしたような覚えもある。雨の日の昼休みには穴蔵のような部屋に入って、もくもくとイラストを描いたり、先輩と漫画の話をしたりしたような気もするが遠い記憶になってしまった。

私は、当時から手塚治虫や石森章



高校当時模写した漫画

太郎、藤子不二雄、永井豪等の漫画家が好きで、鉄腕アトムやジャングル大帝レオ、魔人ガロン、サイボーグ009、幽霊船、シルバークロスなどのキャラクターを飽きもせずにも模写していた。手塚治虫が出版した「マンガのかきかた」を何度も読み返し、ストーリー設定やキャラクターデザイン、動きの表現などを学んだ。

小学校、中学校そして高校時代から描き始めた漫画から発展して大学時代は美術を専攻し、洋画・日本画・工芸・彫塑等高校時代にはできなかったさまざまな造形活動の魅力を体験することができた。

現在は趣味で洋画（油絵やアクリル絵画）、絵手紙、木のおもちゃづくりなどの造形活動を楽しんでいる。また、中央の公募展では二紀会に所属し、毎年上野の美術館に作品を発表し、全国の絵を描く仲間と作品を通じた交流を楽しんでいる。もし途中で描くことをやめていたら、このような楽しさを味わうことはできなかったかもしれない。

私は結果的に漫画家にはなれなかったが、教員になってから、さまざま

な面で絵を描くことが役だっている。ちよっとしたカットなら何も見なくても描けるし、授業中に漫画を黒板に描くと子どもたちは俄然集中して学習に取り組む。さらに、二年前には、いじめ問題について考える漫画「ドングリマン」を二十三ページ描くことができた。これからも子どもたちに考えさせたい内容を漫画で表

現できればと考えている。高校時代にマンガを描くことに夢中になったことは決して無駄になっていないし、逆に現在の自分の土台になっているような気がする。これからも漫画を、絵画を、いや造形活動そのものを生涯にわたって楽しんでいきたいと考えている。



平成九年二紀展に出品した作品
『女神1998・EVAHの時代A』

忘れ得ぬ高校時代

普通科二二回卒 (S50)

三 瓶 民 哉



創立五十周年、誠におめでとうございませう。記念誌を発行するにあたり「高校時代の思い出やエピソード、にっしや書いてける」と悪友の目黒良樹君に頼まれて軽い気持ちで引き受けたのは良いのですが、頭の中に次々と浮かんで来るセピア色した当時の思い出を活字に置き換える作業は大変であり、高校の三年間は、濃縮された固形スープみたい、楽しかった事、悲しかった事、嬉しかった事、悩んだ事、失恋した事などがいっぱいあって千二百字の文字では納まりそうもありません。木造校舎から、新校舎に変わっても、体育館

や剣道場は、あの当時のままです。

学校帰りに毎日寄っていた外島商店

やすがや商店もあの頃の姿でいます。

ハンドボールのコートやゴールポスト

トを見ていると、毎日厳しい練習で、

傷だらけになりながら必死になって

やり抜いた六人の仲間達が浮かんで

来ます。慶次、清嗣、昭夫、美智夫、

幸一、あの頃の日焼けした真黒の顔

がとても懐かしく甦って来ます。い

つもテスト期間になると、慌ててやっ

た一夜漬け勉強、ヤマ感で当ると大

喜びをしたのもあの頃です。一年の

古文の時でした。赤点十人中、六人

がハンドボール部で、大変皆んなに

笑われた覚えが有ります。あの時の

古文の先生は、西館先生で「ハンド

ボール部には赤点を出さないから安

心して練習して下さい」といった密

約があったのですが、結果は見事に

裏切られてしまったわけです。でも

多勢で取った赤点も今では良い思い出

になります。

雪が降る十一月下旬になると時習

寮が始まります。当時の舎監だった、

工藤、渡部佐吉、両先生は大変寮生

の面倒見も良くて人気がありました。



体育祭 1974.10.11

当時一年生では、私と平野哲男君二人だけでしたがやさしい先輩達のおかげで楽しくて、思い出深い寮生活でした。先生不在の時などは舎監室から先生愛飲のサントリーレッドの中身だけを少しいただいて先輩達と廻し飲みをした思い出も有ります。

二年生のクリスマススイブの夜のことでした。酒の飲み過ぎで寮の四角い廊下がゆがんで見えた時に女子が泥酔し、大声で「ヨシキーいたがー」と部屋に入って来て倒れてしまったので、良樹君と二人でゆがんで見える廊下を彼女の部屋まで運んで行った思い出もありました。

三年生の子饗会の時も忘れられない思い出があります。平野先生が「なごり雪」を卒業生の為に歌って下さっている時、私達寮生は寮内でのタバコや酒が見つかって個別に呼び出されて富田先生や、担任の樽川、松枝、両先生とハンドボール顧問の薄先生にこっそりと油を絞られていたのです。翌日母親達が学校に呼ばられてバスで来る車内の出来事です。熊倉から良樹君の母さん、大倉では私と芳昭君の母さんと次々にバスに

乗る仲間が増えるにしたがって「にっしゃもか」「なあんだ、にっしゃもか」しまいには「良樹も民哉もいれば塩の岐の清嗣もまざっていっぺから、えつ子（清嗣君の母さん）も乗っぺぞ」と話している所にバスに乗って来たものですから車内は大爆笑だったそうです。そんな勢いで学校に乗り込んで行ったものですから船田校長にも言いたい方だいの様子でした。そのおかげかどうか解りませんが、私達寮生は、十日間の学枚謹慎を受けました。他の同級生よりも十日も長く学校にいられたわけです。今となってはこれも懐かしい思い出の一コマです。もっと同級生や先輩達、先生方との思い出を一つ一つ書きたいのですが紙面の都合上書けないのが残念です。

若くして他界してしまった、渡部茂君、近藤昭男君、佐藤弘子さん、あなた達の事も決して忘れません。あの青春時代、共に笑い歌い、共に汗を流し涙を拭いた仲間です。あなた達との思い出を大切に、あなた達の分まで一生懸命頑張って行きたいと思えます。

五十年の風雪に耐え、数多くの新入生や卒業生を見送って来た県立南会津高校の石積みの校門、時代がどんなに変わってもこの校門は変わらないだろう。太古の昔から絶える事なく流れ続いて来た伊南の流れの様に未来に向かって、良き伝統と新しい流れに乗って増々発展される事を心からお祈り申し上げます。私も伝統有る南会魂を忘れる事なく、地域社会発展の為に頑張って行きたいと思えます。

追伸

卒業して二十三年が過ぎ、薄らいでいた思い出がこの文集により鮮やかに甦って来ました。息子も丁度、高校生。当時の自分と息子の顔が同じに見えて思わず笑ってしまいました。出来ればもう一度あの時代に戻って皆んと一晩中、寝ねえで騒いで見てえなあと思う現の私の気持ちです。

昭和五十年 南会ヒト事典『Y』項

普通科二三回卒 (S51)

月田 宏

Y夫 (99%実話です)

*T町N地区で発見。昭和六十年代に絶滅したと思われていたが、それまで人間のふりをして生き延びたものと考えられる。

*特徴 とにかく目立つことに情熱を燃やす。それがこうじて晩年は生徒会長に間違っている。突然、哲学めいた言葉を発することでも有名。

『人間なんて』(吉田拓郎)が愛唱歌。

*行動 とにかく不可解。神出鬼没。マニアックなことはやたら研究熱心。その成果はためきずにはいられない。後に寮での事件で停学になる。その後、行方不明となり数年後、東京は新宿『歌舞伎町』で作業ズボンに下駄、腰にはよれよれのタオルという姿をし、スクランブル交差点内で深夜、踊っていたという目撃情報を最

後に恐らく絶滅したのではないかというのが定説になっている。

Y一 (100%実話です)

*I村O地区で発見。国内でも中山間ノネオン街ノ準高冷地には比較的目撃情報が多い。捕獲されたのは初めてで研究者の間では垂涎的。しかし、お金を払ってまで、というような話は聞いたことがない。

*特徴 まるで神経をどこかに落としてきたかと思える程、明るい。しかし、気が短い。なにをしでかすか、まるで予測不可能。茶目っ気も人一倍で、人気は中の上か?

*行動 冬の朝、教室のストーブに生ニンニクをのせるなどは、この生物にとっては朝飯前、まれにアルミのブック型弁当に良く焼いた『ママシ』をくねらせ、わざとらしく「おっ、今日のおかずはママシちゃんだっ。」などと言い、女子生徒の目の前にいきなり突き出してはひっぱたかれるのが趣味。後年『ばんじょう』に変身し、現場でカラスに弁当を食われたはらいせに、その中の一羽を仲間が騒ぐ前で生きたまま『ゆで』てしかも、食ってしまうというおぞまし

い話はずとに有名。足を骨折したまま魚つきに行き、車を運転し・・・あつ、ページがない!



遠足のひとコマ

南高祭とやきとり

普通科二四回卒 (S52)

齋藤 良



「このやきとりはうまいねえ」「本職にしたら」「おじちゃん、もっとちょうだい」今年も町内の秋祭りです。サークルの仲間と「やきとり屋」をやっていると、嬉しい声を沢山いただきます。それが嬉しくて毎年、一カ月前からタレを仕込み、祭りの日を楽しみにしている。

私が高校三年のときに「南高祭」が行われた。私はハンドボール部の主将をしており、部の出し物を何にしようかと頭を悩ましていた。すると、顧問の菅野先生より「やきとり」をやろうと話が出てやることとなった。私達は高校生であり、今と違っ

て「やきとり」がどんな味で、どのようにして作るか全くわからないまま、菅野先生（当時二十代、独身、やきとりの味にはかなり自信があったらしい）の指導のもと、狭い教員住宅の台所で作業は始まった。材料は南郷、只見、田島の肉屋か

らブタモツ（すみません、鳥肉ではありませんでした）を買いあさり、熱湯で茹で上げ、肉を小さく切り串に一つ一つ刺した。タレは菅野先生が担当し、醤油、みりん、酒、砂糖を煮込み、上手にでき上がった。ハンドボールを教えることより、これ

の方が上手いと誰もが言っていた。仕事が終わってから毎日のように「すがや」で学んだだけのことはあったようだ。

南高祭当日は、大量に作ったやきとりも午前中で売れ切れ、大評判に終わることができた。しかし、その後前売券を持って何人も来たのは何故だったのだろうか？（つまみ喰いかな）

南郷のすばらしい秋空の下での南高祭は、一生の思い出に残るとても楽しい一日だった。その思い出が、今新しい町の秋祭りでも、毎年ソフトボールのサークルの仲間とビールを片手に「やきとり」（今は本物です）を焼いて楽しんでる。

本当においしい「やきとり」を食べたい方は十月十日に、宝沢町内に食べに来て下さい。お待ちしております。



ハンドボール部

高校時代の思い出

普通科二五回卒 (S 53)

星 哲 昭



〔新旧交代〕

おんぼろ校舎がみるみる取り壊されていく。床下や屋根裏にたまった埃が三十年の思いをいだき中に舞う。一番身近に四季の移り変わわりを感じさせてくれたあのポプラの木々はもうそこにはない。古い学舎は自身三十年の歴史と、我々三年間の思い出を包み込みその幕を下ろしたのである。瓦礫の山の向こうには埃に霞んでコンクリートの真新しい校舎が、無気質な表情で顔をのぞかせる。本来なら、一日でも新校舎で学びたかったという気持ちになるのが当然であろうが、不思議とそういう気持ちは

沸いてこなかったのである。逆に、つぎはぎだらけで、穴だらけ、時には我々の筆記用具を飲み込んだ床。

風雪の日には歪んだ窓の隙間から、煙突の隙間から粉雪が舞う。冬はやっぱりストーブのそばがいい、夏はやっぱりポプラの木が日差しを遮る窓際がいい。そんな四季を演出してくれた学舎に思いがつのる。そして数日後、いよいよ卒業式。最初で最後の新校舎三年二組。皆、緊張した面持で教室に入って来るが、卒業という儀式を目前にした緊張感ばかりではないようだ。いつもと勝手の違う教室の中で自分の居場所を模索しているかのようである。卒業式が無事終了し、その後三年二組の教室ではお別れ会が催された。パーティーでは、皆、別れを惜しむというより、誰もが心の底からその場を楽しんでいるように思われた。まるで残された短い時間の中で、決して学ぶことのない校舎に一つでも多くの思い出を刻むかのように…。

〔エッまさか…今は止き友とともにも〕

まだ、冷たさの残る春風の中を、先月取得したばかりの免許証を内ポ

ケットに新学期の始まる学校へと、赤いCB50を駆けらせる。宮川屋、神社を通り過ぎ最後の直線をグリーンと加速する。もう少して校門。バイク通学初日の緊張感が安堵感へと変わったその瞬間、校門手前左前方に白いヘルメットをかぶった警官が私を手招きする。いったい何が起きたのか…。バイクを空地へといれ、用意されてあった椅子に座る。ピピーピピーとテーブルの上の機械からレシートのようなものが。そこには16という数字が印字されていた。「16キロオーバーですね」と冷ややかな口調で警官が呟く。なんてこった。今日は俺のバイク通学初日ではないか、ましてや学校の目の前でスピード違反で御用になるなんて…恥ずか

しいやら悔しいやら。そのうち用意されてあった三つの椅子は満席となり、少しばかりの安堵感が沸いてくる。手続きを終え席を立とうとし後を振り返ったら、同じクラスの、今は他界してしまった徳美が立っていた。徳美は俺と入れかわりに椅子に座る。ピピーピピーと紙が出てくる。「26キロオーバー。ちよっと手続きに時間がかかるナ」とその警官が苦笑いにする。徳美のもとと大きな目もつと大きくなっていったのを今でもよく覚えている。徳美、天国で元気にやっているか、お前の生きた年月と同じ年月が経とうとしている。速いものだ。ところで、あの時とられた指紋は、まだ残されているのだろうか…。



高校時代を 振り返って

普通科二六回卒 (S54)

小 椋 裕



昭和五十一年から昭和五十四年春までの三年間在学中、旧校舎から新校舎への引っ越しや、53インターハイが本県で開催など各種一大イベントがありました。

一年時、伊南村からの十三kmの道のりを友人三人と自転車を通い、学
校前のすがやと山口の儀六屋が休憩
場所でした。一年時担任の菅野正行
先生（現、スポーツ健康課主任指導
主事）は、器械体操専門で保健体育
の授業で見た前方宙返りは感動をお
ぼえました。

ところで、私にとっての高校時代
は、陸上競技とともに過ごしたといっ

ても過言ではありません。

一年生の途中で、陸上競技に興味のあるひとつ年上の先輩方と一緒に、陸上競技同好会を設立しました。顧問の千葉信夫先生（現、郡山高校教師）は、陸上競技専門であり、毎日の練習メニューを紙に書いて部長に手渡す方式と、練習内容そのものは、後々の私の教師という指導者としての大きな心の糧となっています。

練習場所は、グラウンドの端の百メートル直走路4〜5本と、川の土手でした。活動当初は、石拾いが中心でした。練習内容は、「走の基本」と称する動き作りを中心に、今で言う



昭和52年、練習場所の堤防（土手）
後方に旧校舎と新校舎

インターバルトレーニングは、直走路の往復走でした。その他、さゆり荘の坂上りや橋の上でのダッシュ。じろう医者前の山のふもとの段々田んぼを使つてのクロスカントリーダッシュなど、今思うと、自然をフルに利用した充実した内容でした。

スパイクを着用するのは、大会時
の本番勝負のみでしたが、先輩方を
はじめ会員は、それなりに地区大会
等で結果を残すことができました。
会津大会で、マイルリレー（千六百
m）で他校から一周差をつけられた
り、八百m競争でオーブンコースに
なってもゴールするまで同じコース
を走り続けてしまった選手がいたり
と、未熟な面もありましたが、今で
は懐かしい思い出です。また、若松
商業高校や会津工業高校に負けたく
ないと言う、ライバル意識だけは強



昭和52年春、陸上同好会の男子のみでの合宿
矢吹町にて、千葉信夫先生と

く、若商の選手が、「試合は練習に比べて楽だ」との弁が、いつも心にあり、練習意欲をかきたてました。

練習や大会での思い出の他に、芋煮会をやったり、合宿をやったりと、和気あいあいの中にも貴重な体験を数多く経験することができました。

二年時の生徒会総会で、同好会から部への昇格を試みましたが、予算面のことなどもあり、多数決の結果わずかな差で、あえなく却下されてしまいました。三年時の総会で再度挑戦し、活動が認められ、念願がかなった時には、二年越しの試みだっただけに感激も大きいものでした。当時の生徒会長河原田信弘君が同じ陸上同好会員の仲間だったことも陸上部設立にとって大きな要因だったのかもしれない。

その後、全国大会出場者も誕生しましたが今現在、部が消滅したことは残念に思います。高校時代の思い出は、冬の寮生活のことや南高祭の事など、まだまだたくさん思い出があります。今後の南会津高校のますますの発展を祈念して、思いを閉じたいと思います。

たぐさんの思い出をいただいた先生方、先輩、友人に感謝。



昭和52年秋、有志で出場した只見町駅伝

高校時代の思い出

普通科二七回卒 (S55)

酒井秀明



私にとって高校時代の思い出は、何と云っても三年間、よく剣道をやったと言うことである。

そして運よく、高三のとき、男女共、県大会団体戦に於いて、アベック優勝できたと言うことである。女子は期待通りの活躍であったが、まさか男子までがと、奇跡であった。代表で表彰台上らせてもらったときは、感無量であった。

思えば三年間、夏は蒸し風呂のように暑く、冬は、凍るような道場で、土日も休まず、よく剣道をやったと思う。入校以来、先輩、後輩、同期に恵まれたことはもちろんであった

が、何と云っても佐藤善久先生という恩師に恵まれたおかげであったと思う。

当時は、とにかく善久先生が恐かった。試合や練習でミスをすれば掛りが、風邪であろうが練習は休めなかった。全ては、部活動中心であった。おかげで、斎藤ジツチの歴史の時間は、教科書を立ててよく寝かしてもらった。我が剣道部は、特に女子の活躍はすばらしく、県大会、東北大会と好成績を残していた。当然その分女子の練習も厳しかった。男子にとって、女子が遠征に出かけたときは、鬼の居ぬ間の何とかで、まさに天国であった。今思えばあの練習によく女子も耐えられたと今更ながらに思う。拍手を送りたい。

卒業して十八年になるが、今ふり返れば試合に於いての勝ち負けは結果であり、何が大切だったかと思うと、毎日の練習と継続であったと思う。その過程が厳しければ厳しいほど、必ず結果だけでない喜びがあることを後になって思う。練習の後、バイクで帰宅途中、仲間と宮床の売

店でペプシコーラの一気飲みしたあの何ともいえない爽快感が今でも忘れられない。そして、私の高校生活は今でも毎年恩師を囲み当時の仲間と一杯やりながら続いている。ありがたいことである。

春夏秋冬季節感がある大自然の中で高校生活を送れたことは、私にとっで本当は幸せであったと思う。また地元の方々の暖かいご支援があったことにこの場をかりて、感謝申し上げます。今後も母校がますますの発展を成し、多くの後輩が、それぞれすばらしい思い出をつくり、社会に飛び立つことを心より祈念する次第である。



創立五十周年に寄せて

普通科二八回卒（S56）

星 哲也



南会津高等学校創立五十周年、本当におめでとうございます。一口に五十年と言っても自分達が生まれる前から創立されていたわけですから、その半世紀に渡る歴史の長さからも、地域、先生方、OB等多くの人々の大変な苦勞があったものと思われま

す。さて、自分達が南会津高校に入学した頃は、新築工事の真最中で、まだ校舎の半分位しかできあがっていませんでした。しかし、自分としては小・中学校と木造校舎でしたので、コンクリート造りの真新しい校舎は、まぶしく光輝く校舎に思われました。

当時は、現在の半分位の手狭な所に、生徒三百六十名近く、教職員二十数名併せて四百余名の人間が入っていたのですから、今思えばよく入っていられたものだと感じてしまいます。

新しい高校生活は、今までの中学校生活と違って近隣中学校（伊南、富田、明和、朝日）との広範囲な同級生ができ、実り多きな学校生活ができたものと思っています。自分は、入学当初剣道部に所属していましたが、その年はインターハイ全国大会が本県で開催されまして、補欠ながら先輩達と一緒にいわき市まで遠征した思い出がありました。残念ながら剣道部はその後退部しましたが、今となっても高校時代の良き思い出です。

二年、三年生と過ぎると共に、校舎も完成に近づき、高校時代最後の思い出は、最終工事であった体育館での卒業式でした。卒業式直前まで工事中で、自分達の卒業式が初めての体育館使用だった事と記憶しています。

それから二十年近くたった理由で

すが、昨年五年振りの同級会を開催しました。高校卒業後十六年が過ぎ、昔のままの人、変わった人それぞれに楽しい同級会ができました。それも南会津高校で一緒に過ごしてきたからだと思います。高校時代の思い出は、たとえ五十・六十・年をとっても永遠に残るものでしょう。

最後になりますが、今後は少子時代となり生徒数確保も大変でしょうが、南会津高校の校名と歴史は二十世紀になっても、六十周年、七十周年、百周年と存続し、地域の発展のため貢献できることを祈念いたします。お祝いのことばといたします。



出版委員会

じゅうくのころ

普通科三一回卒 (S59)

増田 功



一九八四年春、東京・中野坂上が高校卒業後、初めての住まいだった。六畳の部屋に段ボールが五、六個、バラツと置かれ、両親が田舎に帰るとひとりになった。窓から見える新宿の高層ビルとしだいに濃くなっていく夕暮れは、不安と寂寥の色をにじませていたように思えた。

中野坂上は環状6号線と青梅街道の交差点ということもあり、車の往来も多く凄まじい喧騒の中ではあったが、ひとつ路地を入ると下町情緒が残っていて、定食屋、八百屋、銭湯、居酒屋、雑貨屋、文房具屋、本屋などがウナギの寝床のように並ん

でいた。店の前には植木や草花の鉢植えが置かれ、通りによく感じる人もあったかもしれないが、それはそれで田舎にはない緑への愛情を匂わせた。

住んでいたのは寮(自炊)で、年上の栃木県と会津若松出身の人が隣の部屋だったので親切にしてもらい、都会の暮らしにもしだいに慣れ、中野坂上の街にもなじんだが、仕事にはいま一つ情熱を注ぐことができなかった。

そんな時、高校の同級生と連絡を取り合って、週末に新宿の居酒屋やカラオケスナックにくりだし、お互いの状況を交換していると「僕もがんばらなくちゃ」と思った。また僕の郵便受けにはいつも新潟や仙台や他の街にいった同級生からの手紙が入っていたし、首都圏に住むおじさん達にも食事や泊まりに誘ってもらった。そんな形で周囲に支えられているうちに仕事にも楽しさを見いだすことを覚えたように思う。たぶん同級生の中にも、このような経験をして「都会と田舎」「学生と社会人」のギャップを乗り越えていった方も

多いと思うがどうなのだろう。

一九九〇年春、ふるさとにUターンした僕は、一九九七年冬、久しぶりに中野坂上に行ってみた。すると環状6号線の拡幅、都営12号線の開通などにより、街が完全に変わっていた。綺麗な高層ビルが交差点の二画にでき、もう一画は広い更地になっていて下町情緒は完全に消えていた。ただ、寮の住人としてよく行った寮隣の寿司屋は残っており、安く飲ませてくれたマスターとおかみさんは健在

で、僕との再会を喜んで昔ばなしに花が咲いた。僕もうれしくて楽しくて、そこにおいてある喜多方大和川酒造「弥右衛門・純米はつしぼり」の美味しさに酔っぱらってしまった。三十路を過ぎて、昔のことを懐かしく思うこの頃、歳をとったのかなあと感じる。

最後に馬場英樹君、近藤功一君、近藤厚君、今夏の同級会幹事、ご苦労さまです。同級生一同、往復はがきが届くのを楽しみに待っています。



県立南会津高等学校!!

普通科三四回卒 (S62)

五十嵐 哲



私が県立南会津高等学校に入学したのは、今から十四年前の事である。南郷中学校を卒業したばかりのイガ伊ガ頭の純粋な瞳をもった入学生だった。

その頃の南会津高校では、とりあえず先輩方に「あいさつ」の仕方を教えられた。通学時、学校内、帰宅時には必ず「オース!!」というあいさつを、バイクや自転車ですれ違う先輩方のでっかい声で言っていた。それは「おはようございます」をただ短縮した伝統的なあいさつの仕方だったのだろう。今思えば、それは最高の発声練習になっていたのでは

ないかと思う。

そして応援団が主催の校歌練習もあった。放課後、旧体育館に一年生、二年生が集められ全員で校歌を唄う。応援団の人達が周りをグルグルと聞いて周り、声が小さい人や歌詞を間違えば、ポンツと肩をたたいて、一番前につれてかれる。女生徒の中には、泣いている人もいた位、その頃は恐怖感があった。前に出された人は終わった後も練習しなければならなかった。今思えば、早く校歌を覚えて、学校に慣れてほしいという先輩のあたたかい気持ちがあったのだろう。

これも、伝統というべきか、「教室周り」という行事もあった。授業の休み時間などに、先輩方が、竹刀をもって一年生の各教室のドアをたたいたり、足でけつたりするものだ。その為、教室の戸は、割れたりつぶれたり穴が開いたりしていた。今でもなぜそんな事をしていたり、されていたりしたのかはわからないが、今思うにそれも先輩かわいさの先輩方の愛情表現だったに違いない。

まあこんな事から始まり一年生の

頃は、あっという間に過ぎた。もうこういった体験はきっとできないだろう。本当に貴重な体験である。

まあ今、高校三年間総体的に振り返ってみると「楽しかった」というべきだろう。一番は、そういう体験を一緒にしてきた、貴重な友が数多

くできた事!それは何にも変えられない事である。高校で新しくできた友、そして中学校の延長でますます交流を深めた友、どっちも私には、今もこれからも宝物です。だから改めて今思う。本当に南会津高校に入学してよかった。と



体育祭「ムカデ競争」

昭和61年10月28日

親愛なる友へ

普通科三五回卒 (S63)

馬場 夏江

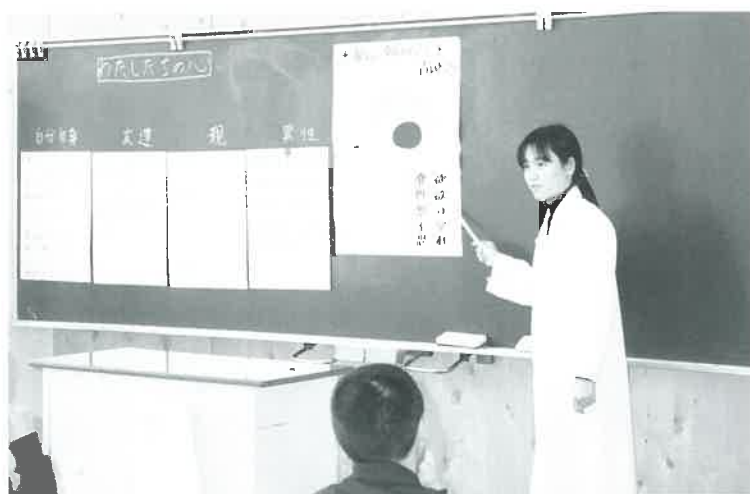


ねえ、覚えていますか？私たちが高校生だった時のこと。南郷・伊南・松枝岐・只見から集まった仲間で、クラスを三つに分けて、毎日が新鮮だったよね。

最近、こんな事を思い出します。入学して間もなく、応援歌練習がありました。応援団の怖いお兄さんがたくさんいて、私たちの周りをグルグル周りながら、「ちっちゃー。」なんて怒鳴られたよね。私はあの時初めて「胃痛」を体験しました。ところが、あんなに怖かった先輩も、話をしてみると以外にやさしかったり、おもしろかったりしたよね。や

がて、一年生の時はあんなに小さくなって怒鳴られていたあなたが、応援団員になって、今度は後輩に恐れられる存在になっていました。今思うと、あんな体験も悪くなかったなと思います。でも、今の南会津高校には応援団はなくなって、生徒会で応援歌練習をしているそうですよ。

部活動。剣道部。最初の一年半はあんまり頑張れなかったな。腰を悪くしていたのを理由に、かなりさぼっていました。でも、構えを上段に変えてから急に楽しくなって、それからは自分でも精一杯やったと思います。その頃の頑張りが今の自分を支えているようにも思えます。心から楽しんで、求めて何かに打ち込めることって、一生のうちいくつも出会うることではないと思うから、私は本当に幸せだったと思います。そんな環境を与えて下さった人たちに感謝しなくちゃね。全員が部活動に燃えていたわけじゃないと思うけれど、あの頃、どの部も結構頑張っていたよね。ソフト部が、夏休みに、炎天下で練習し、Tシャツを着ているにもかかわらず、肩が日焼けを通り越



して、水ぶくれになっていたこと、忘れられません。

三年生になると、進路でみんな悩んだよね。私はずっと美容師になるつもりだったのに、周りの勧めなどもあり短大に進学しました。そして今は、母校の南郷中学校で保健の先生です。あの頃みんながみんな、早く独り立ちしたい、家を離れたい、南郷を離れたいと思っていたよね。私もそうでした。そしてほとんどの

人が都会に出ていきました。でも十数年たった今、南郷にUターンしてきた同級生の多いこと多いこと。やっぱり田舎はいいのかな。生活に余裕ができるよね。心にも余裕を持てるよね。どんな場所にいたって、結局は自分自身がどれだけ活力のある生活ができる人間かってことだものね。

中学生が言うんです。「ああ、早く大人になりたい。つまらない。南郷から出たい。」って。私たちもそう思っていた時期もあったよね。でも今はそれが、現実からの逃避だったこと、わかっていきます。だから教えてあげたくありません。「どんな場所でもどんな時でも楽しむことはできるんだよ。自分自身が一生懸命になることなんだよ。そしたら毎日がもっと楽しくなるよ。未来の自分をもっと楽しみにするよ。つまらないのは今の自分のせいなんだよ。」って。自分に言い聞かせながら、中学生にも負けない希望を持って生きていきます。未来の自分を楽しみにしながら。

今度、会いましょう。

十年がたち

普通科三六回卒（H元）

梁 取 博



この度は、南会津高校創立五十周年を迎えられ、おめでとうございませす。早いもので私たちが南会津高校の校門を後にして十年がたちました。ひと口に十年といっても就職・結婚など、いろいろな人生の転機があったと思われます。

今思えば十年前は歴史的な年で、昭和天皇が崩御し平成という新しい年号となり、経済でも「バブル」の全盛期時代、今のような、金融機関の破綻、不祥事、大不況、就職難などはまったく考えられず、希望と夢に満ちあふれ、大部分の人が都会に憧れ旅立っていきました。それから

あっという間に十年がたち、卒業アルバムを見ると懐かしい顔ぶれ、高校生活三年間の思い出が正に走馬燈のように脳裏を駆け巡り、どれを思い出しても本当に楽しい、幸せな日々だったと改めて皆様に感謝致します。全国各地で活躍されている百十人のクラスメイトの皆さんお元気ですか。たまには故郷を南会津高校を思い出して遊びに来て下さい。そして高校生活の思い出話に花を咲かせましよう。また、都会からUターンしてきたクラスメイトもだんだん増えてきました。現在、過疎化が進み南会津高校の生徒も昔とくらべて減りましたが、いつまでも、母校・南会津高等学校が存続できればと思います。

最後にこの記念誌を作成するにあたってご苦労された方々また関係者の方々、私にとっては思い出の記念誌になることと思います。どうかこれを讀んだ皆さんがいつまでも、健康で幸せでありますように。私たち母校もいつまでも立派で元気であるように願いながらペンを置きます。本当にありがとうございます。



南会津高等学校 創立五十周年

普通科三九回卒（H4）

五十嵐 和也



平成三年度卒業生の一人として大変嬉しく思います。又、この様な記念誌に載せて頂いてとても光栄に思っております。

私は現在、大東銀行に勤務し営業を担当しています。そして、様々な方と接する中、必ずと言っていい程、「出身地はどこ？」と聞かれますが、只見と聞いて知らない人はもちろんいません。そしてお客様に仕事の話だけではなく私の故郷のすばらしさを知ってもらっています。

今思えば、高校生活の中で現在の私にとっても必要な事を学んだと思います。それは、仕事をしている中で

感じたことですが、何かを成し遂げる為が一番大切な「熱意」です。

知恵や才能が同じ様にあっても、熱意の有・無が事の成否を分けるカギになると思います。へこうしたらどうだろう、へこの次はこんな方法どうやってみよう、という前向きさが、効果的な方法を生み出すのではないのでしょうか。

このような話を聞いたことがあります。通算七百五十六号のホームランを放って、大リーグのハンク・アーロンが持っていたホームラン記録を塗り替えた元巨人軍の王貞治は、入団当初、ヒットが出ずに苦悩したそうです。

しかし、その苦悩の中から、誰も考えつかなかった一本足打法を編み出し、特訓に特訓を重ね、偉大な記録を残すことができたそうです。

その裏には、人知れぬ厳しい練習があったと思いますが、それを支えたのは王貞治の野球に対する情熱ではないでしょうか。

私も、スキー部に入学してしまいましたが、一つでも多くの大会で勝つ為に、毎日の厳しい練習にも耐えてき



スキー部

ました。これもスキーに対する情熱があったからです。

情熱のみなきぎっているとこには、必ず新しい道が拓けると思いました。そして、この事を忘れず、何事にも熱意を持って前進して行きたいと思

います。

高校生活とは、三年間という短い期間ですが、いろいろな事を学んだ様な気がします。そして南会津高校卒業生として、誇りに思います。

高校時代の思い出

普通科四〇回卒（H5）

五十嵐 智 美



高校生活は、みんなといろんな話
しができ楽しかったです。悩みがあつ
たり、勉強につまっていたら、一緒にな
って、真剣に考えてくれたし、最
初から最後まで親身になって聞いて
くれました。

部活は、ソフト部に入りました。
ソフト部の同級生五人は、一人一人
の性格が全然違うけれど、一人一人
と楽しく接する事ができました。そ
の中で部活も一緒、通学も一緒だつ
た友達は、今もすごく仲が良く、手
紙や電話のやりとりも続けています。
私は高校の時、初めてソフト部に
入り、一年生の頃は、まだ慣れない

部分もあって、初めてボールをにぎ
りバットを持ち、夢中で練習した記
憶を覚えています。先輩方に、端から
端までじっくりと教えていただいた
のが、印象強かったです。上達した
方だと思います。

二年生になってからは、同級生の

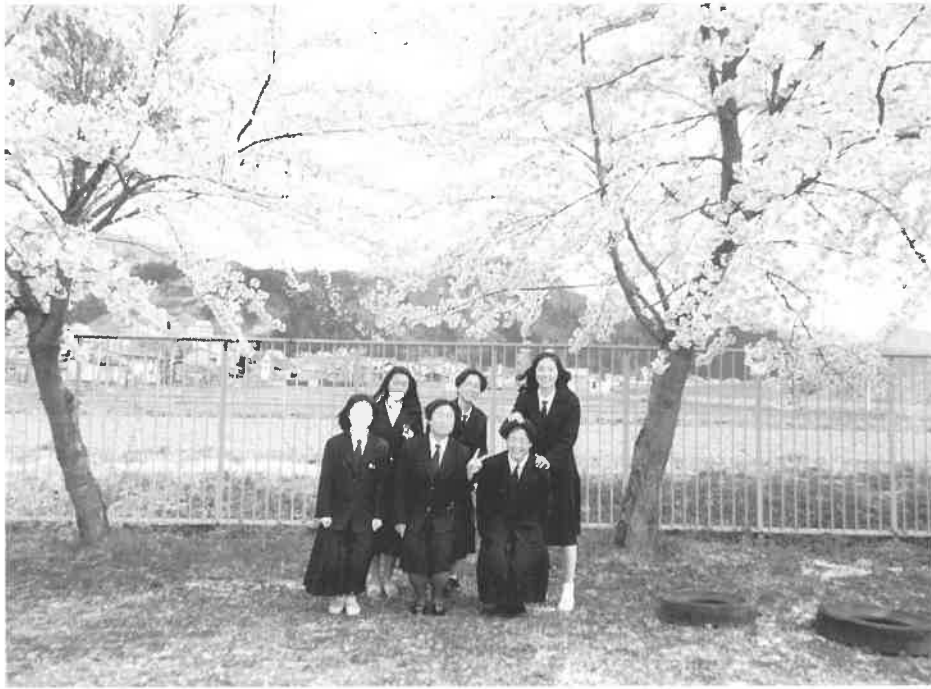
仲の良い友達同士が集まり、それが
グループとなっていました。私もそ
の間のグループに入っていてすごく
楽しくできました。部活も二年生の
時に、友達二人が入部してくれてと
ても嬉しかったです。この年に行っ
た修学旅行は、夜いっぱいさわぎま

くり、食べて遊んで、先生にしかれ
れながらも、楽しい思い出がいっぱ
い作れました。

三年生になった時は、すごく嬉し
かったです。上級生というのもあり
ましたが、先輩、特に部活に先輩達
には、いろんな事を教えてきたつも
りです。そして「もう卒業」「あと
一年」という寂しさがありません。
ソフトもせっかく覚えてこままで来
たのに、「満足にできたのかな?。」
とかいろんな事を考えるようになって
しまい、遊ぶというより真剣に就
職活動を考えるようになっていたよ
うな気がします。

ソフトの方を、少ない人数ながら
も、毎日遅くまで練習をし、汗だく
になって、先輩後輩関係なく一生懸
命に活動できたと思います。引退試
合では、三年間やって良かったとい
う実感が湧いてきました。この時
私は、二度もランニングホームラン
で得点を重ねる事ができ、とても嬉
しかったです。引退するには、良い
結果だったと思うし、先輩達にも、
いい見本成果が残せたと思います。





それは、社会人になった今でもきこの事のよりに覚えていてます。

地元の会社に就職してまる四年が過ぎ、今高校生活をふりかえってみれば、あっという間に過ぎてしまったんだなと思います。その中に、楽しい思い出がいっぱいありました。最初から最後まで見直してみれば、懐かしい思いがあふれてきます。もう一度、あの頃の楽しい時間に戻れたら、こんなに嬉しい事はないでしょう。

今、高校生活を送られている高校生のみなさんには、楽しい思い出をたくさんつくってほしいと思います。社会に出て、大人になれば、きっとこんなふうに高校時代を思い出す事があると思います。その時には、いつも目標をもって、がんばっていったらいいなと、今、思ってみつけて行きたいものです。本当に、高校時代はいろんな事がいっぱいあって、良い経験をしたと、私は思います。

これからも、いろんな体験をして、自分自身が成長していけたら、とても嬉しいし、その倍の楽しさがあれば良いと思います。

思い出とともに

普通科四一回卒 (H6)

馬場 一 禎



夢と希望を持ち、南会津高等学校に入学しました。一番の思い出は、入学式終了後先輩の方に「一年、廊下でろ」と、怒鳴られたのが歓迎の言葉だったと今でも記憶しています。新入生に対する言葉にしては、ちよつと乱暴だと思っていました。それから、挨拶は「押忍」、ボタンは締めると父母よりも厳しく、また、細かく指導され花の高校生活がスタートしたことを思い出します。

私の高校生活で思い出に残ることは、青春時代野球に専念したことです。練習は、早朝から晩までではありません。土、日曜日や夏休みなど

休むことがありませんでした。練習ですり傷、切り傷、打ち身等は絶えることがなく、今でもその傷跡は数多く残っています。野球の練習中、一番辛かったのは、南会津高校から昭和村との境にある鳥居峠を真夏に

往復二時間かけて走ったことが、苦しい思い出として残っています。でも、その思い出は私にとって、三年間野球生活を貫き通したことが大きな自信と財産になりました。当時、ご指導いただきました仲川監督や先

輩、そして共に汗を流しあった友人に感謝しています。

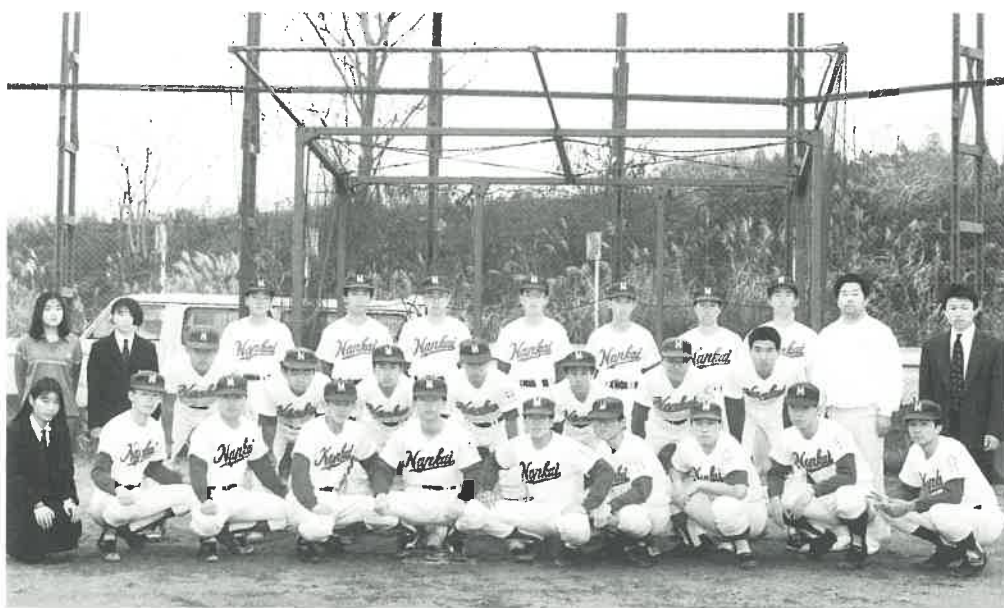
南会津高等学校創立五十周年にあたりまして、この記念事業に参加できますことは、平成六年卒業生といたしましても大変喜ばしく、また、名誉なことでもあります。

ひとえに、五十周年と言いましても、戦後困難な社会情勢の中で創立され、これまで幾人もの卒業生を生み、社会への貢献をされてきたことに対し深く感謝する次第です。

今日、高齢化や少子化社会の進行、また核家族化等、社会の多様化が進む中で、生徒数が毎年減少し、南会津高校もその影響を受けていると思いますが、今後益々の発展を期待しています。

また、今回の記念誌に寄稿させていただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。今後も記念誌を発行する機会を与えられましたら是非寄稿したいと思います。

最後に、南会津高等学校の益々の発展と関係者皆様方のご活躍を期待しまして寄稿文といたします。



野 球 部

私は ”井の中の蛙“だ!!

普通科四二回卒（H7）

梁 取 美 智



南会津高校の記念誌に私はあえて、短大での思い出を記そうと思う。

私は高校卒業後、医療関係の短大に進学した。決して楽な選択ではないだろうと、それなりの意志を持ち三年前の四月、新しい生活を始めた。私自身、高校時代は自分なりに勉強してきたつもりだ。高校時代に身に付けた学力は、私の基盤になっているものとふんでいた。南会津高校のレベルは決して高いとは言えない。しかし、小さな学校でもある程度のプライドを持ち、勉強してきた。それらが、短大入学後「何とかなるだろう」という気持ちを私の中に育て

ていた。私だけは、”井の中の蛙“ではないとすっかり思い込んでいた。入学して短大での講義を受けてみると、何のことはない、私こそが”井の中の蛙“だった。基盤と書いていたものは、単に私の自己満足にすぎなかった。こんなことを思うのは私だけかもしれないが、しよせん南会津高校は田舎の小さな学校だ。刺激の少ない環境での生活には、やはり限界があると思った。私の中には何もないんだと思った時、周りから一人とり残された気になった。また周りの人間に比べると私は、ずっと下の人間なのかなあとも思えた。このような気持ちを持ったのは、私だけだろうか。

短大の卒業を間近にした今、私の考えも変わった。私は、井の中に蛙がいるのはあたりまえだし、井の中の蛙でもかまわないと思っている。私がこの三年間で身に付けたものは、井の中でどれだけ大きな声で鳴けるかが一番のポイントだということ。つまり、周りの人と競争するのではなく、自分の最高を求められるのが大切だということ。誰が一番で誰に

負けたなんて、それ程重要ではないと思う。やりたいと思うこと、そしてやらなければならぬことを、最大の努力をもってやること。そう私はいつも心掛けています。

田舎の小さな学校出身でも十分にやっていける。クラスが二クラスしかなかったって、卒業アルバムが薄っ

べらだって、私は何も恥しくはない。かえって、田舎の小さな学校で高校生活を送れたことに感謝している。私はこれからもずっと、”井の中の蛙“であり続けたいと思っている。最後に、記念誌に第四回卒業生を代表して文を記せたことに感謝する。



進路情報委員会

高校生活について

普通科四四回卒（H9）

近藤 康



南会津高校が創立五十周年を迎えるわけですが、それまでに積み重なる出来事は計り知れないことでしょう。私は平成九年の三月に卒業しましたが、それまで三年間にわたる高校生活で、心に残る出来事は沢山ありました。

さて、私達の年代の学校生活の風景ですが、朝からずっと、生徒の声が絶えず回りから聞こえていき、人に会ったら「お早うございます。」という、元気な挨拶も忘れずに行っているようで、気持ちよく学校生活を毎日送ることが出来ました。同級生の友達同士の会話が早いのは言う

までもありませんが、男女同士での異性との会話も少なくありません。それだけでなく、学年の違う先輩と後輩との会話もいつも聞こえてきました。先輩と後輩との関係は、学校生活に大きく影響するわけなんです。先輩が後輩に対して「いじめ」を無くすことによって、後輩は先輩ということを気にせずに気軽に話しかけられて、一緒に触れ合うことが出来ます。その触れ合いが多かったことは、とても良いことだと思います。

また、私達の年代の頃は、「情報処理室」が新設され、そこではパソコンが設置されており、パソコンによる授業を行うわけですが、それだけでなく、清陵情報高校と情報交換が出来る新しいシステムも導入されました。実際に学校同士が、パソコンを使って、互いに情報交換することとは、全国でも数少なく、東北地方では初めて実施するものを私達の学校に取り入れてしまったわけです。そのシステムを使つての簿記の授業に私も出るようになったわけですが、いざ体験してみると、映像を通して

の授業でありまして、相手側の先生がこちらの生徒に教えていきます。私達だけでなく、画面の中にいる先生もこちら側を見たり聞いたりすることが出来るわけですから、本来の授業と大差がありません。テレビに映っている人と話をするわけですから、違和感を感じましたし、普通の授業よりも慣れていないせいか緊張の連続でした。でも、この授業は、お互いの交流をよりいっそう深められますし、情報収集にも便利です。だから、これからもその授業をフル活用することが大切だと思います。

他にも思い出に残る出来事はありますが、高校生活三年間の中で一番印象に残つたのは、先生も生徒も一体となって協力しあい大成功に終わった「文化祭」ですね。文化祭は、三年に一度しかない大イベントです。従つてその時は当日まで毎日遅くまで残り、全員が連携しあつて、大成功に終わった時の感動は忘れられません。そうなったのもお互いを信頼して、一生懸命に頑張れたからだと思います。

南会津高校には、そういった数々

の歴史と伝統が刻まれているでしょう。そのことを忘れず大切にしてください。創立五十周年にあたり。私はさらなる発展が出来るように願っています。



卓球部

回想

元PTA会長

月田 和行



本校創立五十周年、誠におめでとう御座います。振りかえりみれば私は平成になって初代のPTA会長でありました。昭和六十三年四月から平成五年の三月まで五年間、父母はもとより多人の知人友人、地域の方々にささえられ本校発展のために微力ながら頑張ってきました。当時創立四十周年事業として「南会津高校を考える会」を設立しました。当時の在籍生徒数は約三百名程で、現在の倍位の生徒はいたように思います。しかしながら過疎化の進行や生活環境の変容等により高校進学都市部指向等、生徒数がこの頃から年々減

少が避けられない状況となり、部活動等の大会の遠征経費が他校に比べて多く、保護者の負担が生徒数の減少により年々大きくなるのは必至であること云うことで保護者の負担の軽減と学校行事等広範に活用を図り教育効果増進のため長期的展望に立つてマイクロバスを購入しようとするところでPTA湧雲会同窓会が一丸となって取りくみ念願の高校バスが購入出来たのです。平成元年四月から運行され生徒達が部活の遠征に各種

大会に利用されて来ました。今思えば大変な苦労がありました。寄付の集め方から所有権者の問題等予期しない難問をかかえ今考えれば大事業でありました。又一方楽しい思い出として本校PTAが全国PTA連合大会（青森県）で開催され全会津の高校から五校が割振りされその中の一校として本校が選ばれ当時の校長渡部光明先生と二人で参加出来「遠くねぶたの里」青森まで行って来ま

した。今でも忘れることの出来ない思い出としてなつかしく想います。全国大会では順番で平成十一年度に又本校が当番になって居るようです。当時を振りかえれば数限りない思い出が大山ありますが、紙面のつこうでこの辺でペンを止めます。何は共あれ本校では地域住民にとってかけがえのない教育の殿堂であります。五十周年を迎え益々の発展を心からお祈りいたします。



野球部後援会 発足から二十年

野球部後援会長

普通科六回卒 (S34)

五十嵐 勝 司



見健高会南勝必

福島県立南会津高等学校応援団



関魂 南会津高校健児

伊南地区PTA協議会



昭和53年硬式野球へ切替第1期生となった部員たち

三寒四温、この南会津西部にも春のいぶきがいっぱいに感じられる候となりました。……。本校は、創立三十周年を迎えるとともに、鉄筋コンクリートの新校舎が完成しますが、これを機に本校の名声を知らしめるため一つの試みとして、硬式野球への切替えを行います。

昭和五十三年三月後援会発足に当たっての趣意書の冒頭の言葉です。

会員数、寄付者数合計二八九名、会費、寄付金合計一、〇三九千円。本校同窓会よりの多額の補助もあり、ユニホームや防球ネットをはじめバット、ボール等の援助をし、ここに本校野球部も甲子園に通じる第一歩が印されたのであります。

後援会発足に当たっては、当時の同窓会長平野修治氏や同副会長五十嵐廣氏をはじめ同窓会員の絶大な支援と、学校側の積極的な対応があって現在の後援会が組織され、以来地域の方々との継続的な援助により存続しているのです。

硬式切替え当時五、六年は、硬球に慣れていないせいかケガ人が続出していたことを思い出します。

明和中野球部員が「南会津高校で野球をやるんだ」とこぞって入学してきたこともあり、野球という目標を持って入学する生徒たちに、後援会としても大変うれしく、意を強くしたものです。

県立南会津高校は、当地域の最高学府としてとらえられており、地域の人たちも自分達の高校として、惜しみない応援をしてくれているのがすばらしいところでもあります。

平成五年我が校野球部は、夏の福島県大会において四回戦に初めて駒をすすめ、県下で最強の学法石川とベスト8をかけ、熱戦を展開したのであります。選手達のすばらしい一打、一投足に魅せられ二時間余の間これだけ感動し、熱中させてくれる野球、そして選手たち、「スポーツとは本当にすばらしいものだ。」といまでも思い出されます。

勝負は勝たなければ、ということでありますが、後援会としては、選手たちが野球を通して協調性、我慢、機敏性を養うことによって、長い人生で何ものにも負けない精神力を培ってほしい。これが後援会の精神であ



ります。

学法石川の選手も、PL学園の選手もみんな同級生なんだ。身体も力もかわりはないのだ。高校生活はたった三年間。練習の厳しさに負けない、自分からすすんで目標にトライする精神を養ってくれば、大変うれしく、又おのずと好結果を生んでくれるはずです。

初代会長に快く就任いただいた、

本校第一期卒業生伊南村の岡本廣一氏には、平成八年三月まで、十八年余の永きにわたり物心両面で先頭になって尽くしていただいたことに対し、会員一同感謝しているところがあります。

硬式切替え後二十年が経過し、本校野球部もOBも数多く社会人となり、南郷村役場をはじめ地元に残り後援会員として活躍してくれていることは大変心強く、地域のスポーツ振興はもとより、青少年の健全育成にも貢献しているものと自負しているところでもあります。

本校創立五十周年を迎え、多くの卒業生諸君にも、我が母校南会津高校がますます発展していくために、このように地域と一体となって進んでいる一端をお知らせいたしますので、さらなる応援をお願いいたします。

野球部後援会事務局

南郷村役場内

(〇二四―七二―二二二)

馬場 正博
斎藤 成
渡部 洋三
馬場 信行
星 克之
馬場 一禎(村社協)

故 渡部次郎先生を偲んで

南会津高校が誕生してから現在まで、ずっと諸先生方、生徒たちを愛しみ
学校の変遷を見つめ続けてこられた渡部次郎先生は、平成十年一月十九日安
らかに永眠されました。心からご冥福をお祈りいたします。

橋	菅	佐	鈴	加	五十
本	野	藤	木	藤	嵐
忠	正	英	康	岳	
広	行	紀	弘	郎	廣

《故 渡部次郎先生の略歴》

昭和二十四年四月一日

～ 南会津高等学校校医

平成十年一月十九日

昭和五十六年十一月三日 福島県教育委員会表彰

(へき地教育功労)

昭和六十三年十一月十日 文部大臣表彰

(学校保健功労)

平成八年四月二十九日 勲五等雙光旭日章叙勲

平成十年一月十九日 南会津高等学校校長感謝状

平成十年一月十九日 叙位從六位

從六位勲五等雙光旭日章

(学校関係のみ)



愛妻トキ医者と共に（日光にて）



有りし日の次郎先生

同窓会名誉顧問

次郎医者

同窓会顧問

普通科六回卒 (S34)

五十嵐 廣



平成十年三月三十日、同窓会名誉顧問次郎医者（南郷村片貝渡部病院名誉院長渡部次郎先生）の葬儀告別式が南郷体育館でしめやかに行われた。会場には「津軽海峡冬景色」「名月赤城山」等、次郎医者が大好きだったメロディーが静かに流れ、祭壇の中央に大きく掲げられた柔らかな「次郎医者」の遺影を前に、在りし日の想い出を胸に別れを惜しむ多くの人々の姿が在った。

わが母校、南会津高等学校同窓会名誉顧問渡部次郎先生は、一月十九日未明七十六歳で急逝された。三月三十日は次郎医者 of 七十七歳の誕生日であり、「本当は盛大に喜寿のお祝いをする予定であった」と、妻のトキ医者が言っておられたのが心に残っている。「生者必滅」、「会者定離」と申しますが、この世の無常を感じると共にご冥福を心からお祈りするものであります。

同窓会の関係で、次郎先生からご

指導を受けたのは、一九七三年版

「同窓会会員名簿」（昭和四十八年）

の編集発刊を担当したときからである。その時の「編集後記」に、「去

年の十月末頃であったろうか、次郎

医者から電話があり『高校の同窓会

名簿のことで相談したいから十一月

二日に高校へ来てみないか』と言わ

れ、『次郎医者のお呼びとあらば：』

と思いつつ出席した。」と記してい

る。その時から母校の同窓会をして

次郎医者との長いお付き合いが始ま

りました。次郎医者は母校が誕生し

た昭和二十三年の翌年一月に来村、

トキ医者と結婚され、同年四月には

母校の学校医として、現在までの同

窓生全員と教職員の健康管理に当た

られた。加えてPTA会長、湧雲

（後援）会長を永く務められるなど、

正に南会津高校の今日を築いて下さっ

た偉大な恩人であります。また、同

窓会発足当初から顧問を務めて頂き

総会には常に出席され、我々の良き

アドバイザーとして、母校のこと、

そして〇〇先生と〇〇先生のロマン

スなどなど、思い出一杯の機知に富

んだお話を聞かせて頂きました。地

酒「花泉」の酔い心と共に「リンゴッ

コーノキノシッターデー：」「上野

発の夜行列車下りたトキ（ここは強

調して歌う）から：」等の十八番の

唄を披露されたことが、今もその温

顔とともに浮かんで来る。毎年三月

一日の卒業式の前日に行われる同窓

会入会式には、同窓会顧問として

「白衣姿の次郎医者」が出席され、

「美女と野獣の話」や「性病の話」

などをユーモラスにして頂いたこと

が思い起こされます。また、ある時、

こんな話を耳にしたことがあります。

「南会津高校の多くの生徒（特に女

生徒）は、いつも南郷弁で話してお

られる次郎医者が南郷のお生まれで、

素敵な女医さんのトキ先生が都会か

らお嫁に来られたと、誠にやかに思っ

ていた」という話であります。南郷

次郎先生との

思い出

加藤 岳郎

(S 38・4・1) S 41・3・31



私が南会津に赴任したのは昭和三十八年四月、結構雪の多い年だったのかと思います。かなりの残雪に驚かされたことを思い出します。

着任当初は、次郎医者の前にある辺見優さん宅に晩酌三食つきで下宿をさせていただき快適な生活をしておりました。秋には結婚をし、当時は教職員住宅も無く住まい探しに苦慮していたところ、渡部医院の車庫上の物置を空けて貸していただけることになり、家財もほとんどない状況で新婚生活をスタート。

冬を迎え、次郎医者も見兼ねて「ストーブなくて寒いべ、金は立て替えてから買っておけ」の暖かい言葉にあまえ、暖かい冬を過ごすことができたことを思い出します。

とにかく、月給一六、三〇〇円の身分で、現在のように豊かな食生活が考えられない時代、次郎医者、トキ先生にしょっちゅうお招きをいただき肉料理、魚料理、花泉をご馳走

になったのが今の健康につながっているようです。心の健康も、両先生の日頃のカウンセリングがあったればこそ維持できたものと確信しております。これを証明するかのよう、南会津高校に勤務した教員で次郎医者の門下生になった者には、ノイローゼや職場離脱の先生は出ませんでした。

次郎医者は生粋の南会津児と思えるほど南会津の気候そのものでした。野草が咲き乱れ春爛漫の季節を迎えると冬の厳しさを忘れさせてしまう所があります。

次郎医者もまったく同じで内に秘めた厳しさを温厚な人柄、素晴らしき包容力、見事な話術で包み隠し、常に私達を穏やかに正しく導いてくれたことが心に残っております。

今頃、恐らく次郎医者のことですから、天国でも沢山の仲間をつくり、リンゴっ子の歌を方言の解説つきで歌ったり、手品を披露して周囲の人々

を笑わせておられることと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げ、次郎医者の思い出といたします。

偉大なる師、

渡部次郎先生を悼む

鈴木 康 弘

(S 40・4・1) (S 44・3・31)



私と次郎先生との出会いは、私が南会津高等学校に着任した三十数年前の雪まだ二m近く残る四月の初旬、着任してまもないある日、南会津高校のある部屋で当時の角田校長先生に誘われてお会いしたのが初めてでした。先生はだれもが知っているように、よく飲み、よく働き、そして麻雀の好きな、だから好感を持たれ、われわれ職員仲間から「次郎先生」（以下、次郎先生と呼びさせてもらいます）と親しまれ、南会津高校の職員・生徒の面倒をよく見て下さいました。その「次郎先生」の人となりのいくつかを披露させてもらおうと。

一 メイ医次郎医者

私が南会津高等学校に着任したころは私もまだ陸上競技「ハンマー投げ」選手として現役選手で活躍していました。ある時東北大会出場のため、バスで山口まで出かけたところ急に目まいがして激しい頭痛がして我慢ができません。試合に行かずにつきつぐ次郎先生のところまでとんぼ帰りをして診察してもらいました。しかし、原因不明のまま即刻入院、結



局病名もわからず二・三日で頭痛も直りましたが一週間程お世話になりました。その時の次郎先生曰く「おまえの薬は酒しかない」とトキ先生には内緒で（あるいはトキ先生知っていたのかな）夜な夜な特効薬持参で見舞いしてもらいました。お陰様で現在でも元気に毎夜この特効薬を愛飲しております。

二 美女と野獣と次郎先生

私は南会津高等学校ではバレーボールの顧問をしていましたが、その部員が皆美人揃いで先生や遠征先で美女と野獣と冷やかされました。

その美女たちも、毎日のつらい練習中に受ける次郎先生の適切なアドバースと軽いジョウクで日ごとに技術も向上し、会津地区最下位チームが常に優勝に絡むチームに育ったのも次郎先生のおかげであったと感謝しております。

その美女たちも今ではみんな中年の良きお母さんとなり、子供があの時代の彼女たちと同年代の年ごろになっ

三 麻雀好きな次郎先生

当時次郎先生は放課後（午後五時

ころ）になると生徒の健康指導と称して、よく南会津高校のクラブ活動の練習を見に学校においてになるのが日課のようでした。その次郎先生の姿を見つけると校長先生は即座に我々を別室に呼びご開帳となるわけです。

われわれ南会津高校の職員は常づね校長先生から「麻雀もできないものは仕事も遅い」とおだてられながら（この校長先生も無類の麻雀好きでした）八〜九時ころまで楽しんでものでした。

当時まだ安月給の我々のことを思っ

四 宴会好きな次郎先生

次郎先生はよく我々職員を自宅に招いてはいろいろと酒宴を開いてくれました。酔うほどにいろいろと芸が出てきて、当時和泉田郵便局の二階にあった電話局の交換士の慰安の夕べと称し、よく先生は「りんごの歌」を解釈入りで電話にむかって歌って我々と騒いでおりました。

ある時、レストラン営家で例によって酒宴を開いていた時、誰かが只見のバーに行こうと言うことになり次郎先生自慢の愛車「ブルーバード」（初代ブルーバード、当時次郎先生は免許なし、免許所持者は1人）で繰り出したのは良いけれど飲むほどに酔うほどに、時のたつのもついでに気がついた時は真夜中十二時過ぎ、表に出てみれば雪が五十センチ以上積もっており一面の銀世界。さて誰が運転して帰るのかと言うことになったがみんな酔っ払っており、結局「ヤスお前やって行け」と言うことで「ブルーバード」に確か八人ぐらい詰め込み、無免許・飲酒・定員オーバーで雪野原を一路南郷まで無事帰って来たこともありました。あとから皆正気になって昨夜のことを思い返して、よく無事帰り着いたとゾーとしたことを今もって当時の連中が集まると話題に上がります。（これも今では時効となることでしょう）

まとまりのない、ダジャレ話になっ

てしまいましたが、こんな次郎先生を私たち「悪がき連」は心から尊敬し感謝しております。ご冥福をお祈り申し上げます。

そして、最後になりましたがこんな「悪がき連」いつも「にこにこ」と笑顔を絶やさずに見守って養って下さったトキ先生に心より感謝申し上げて筆を置きます。

次郎先生の思い出

佐藤英紀

(S 49・4・1 } S 53・3・31)



昭和四十九年三月下旬のある日。

期待と不安の混じった気持ちで初めて南郷村の土を踏んだ。道路には雪は無かったが、下宿となった渡部さんの家までの道には二メートル近い雪がまだ残っていた。スキーの経験が全く無かった私には、このような雪を見るのは生まれて初めてであったが、迎えてくれた教頭先生と引越しを手伝ってくれた野球部員たちの笑顔を見て「なんとかここでやっていけそうだ。」と思ったものだった。

大学を卒業してすぐで、何もわからない私にいろいろと教えてくれる人は多かった。次郎医者はその中でも飛び抜けて印象に残っている。「ズロウイシャ」とご自分でも発音していたし、そう呼んでくれということだった。

新採用が数人ずついるのは今も同じようであるが、次郎医者はそういういわば「若造」たちを一人前の大

人として扱ってくれ、私たちはしばしば自宅に招待されたものであった。

そういう時は、当時はなかなか手に入らなかった牛肉を使ったすぎやきで、次郎医者は自ら「鍋奉行」となつてずっと年下（私の誕生日はご子息の大成氏の誕生日と数日しか違わなかった）の私たちをもてなしてくださった。酒が回ってくるとトキ医者との出会いを含めた恋愛論・スポーツ論・人生論が次から次へと飛び出し、その博識さと考え方の柔軟さに皆が驚いたものだった。

どんなきっかけであったか忘れてしまったが、駒田信二（中国艶笑文学の研究家）の話で大いに盛り上がり、それ以来次郎先生にとっては私は中国艶笑文学の大家ということになり、事あるごとにその話が話題になったのも忘れられない思い出である。

次郎先生には人間としての生き方の原点のようなものを教えていただ

いたと言えらると思う。心からご冥福をお祈りしたい。

次郎先生のこと

菅野正行

(S50・4・1) S54・3・31



いまさら若輩の私が次郎先生のことを話すまでもなく、多くの先輩たちが「次郎医者」の人なり、エピソードについて山ほど語っており、私の出る幕などないはずですが、多分、私たちよりも先輩の時代とは違った「次郎医者」との関わりを持った年代の一人として、思い出を綴らせていただきます。

昭和五十年三月末、着任のために教職員住宅に引っ越した時が、私と眼鏡の奥の眼光が鋭く、頭が少し禿あがった小太りの体に白衣をまとった「次郎医者」との初めての出会いでありました。その印象は、「只者ではない」と強く感じたのを今だに憶えています。

私たちの年代からか、先輩たちの話から察するに昔ほど「渡部医院」へ入り浸りということはなくなっただけです。これは年齢の差もあつたでしょうし、「次郎医者」は私たちにとって畏れ多い存在としてとらえられていたのかも知れません。しかし、これは飽くまでも私たちの一方的なとらえ方で、「次郎医者」がなんら変わった訳ではなく、これま

で先輩たちから聞いたとおりの「次郎医者」であったことは申すまでもありません。

さて、南郷村での生活にも慣れ、これまで人伝てに描いていた「次郎医者」について、自分の目で確かめられる機会が増えるにつれ、まさしく人間味溢れる魅力的な人であり、「只者ではない」ことを改めて確信し、私にとってはとても「次郎医者」

「トキ医者」などと呼ぶことはできないと考え、今後、「次郎先生」「トキ先生」として接し、自然体の中で自分なりの関わりを持って行こうと決めたのでありました。そして、酒を飲みながら次郎先生より聞いた先輩たちのように、自分も後々まで次郎先生の記憶にとどまる一人でありたいものだと思います。

四年間の南会津高校での勤務は、あつという間に過ぎ去りました。私にとって次郎先生との思い出は数限りなく、いろいろなことが脳裏を駆け巡ります。また、私の転勤の際には福島まで送っていただきましたが、別れはとても寂しいものでした。

平成八年の叙勲祝賀会の折、久し

ぶりに次郎先生にお会いしました。当の本人でさえ忘れていた昔の些細な出来事を楽しくお話いただき、驚くと同時に大変嬉しく思いました。元気なうちはいつでも会えると思っていました。今となっては、これまでのご無沙汰が悔やまれて仕方ありません。もう二度と「林檎っ子の木の下で……」は聞くことができません。

親孝行したいときは親はなし。次郎先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

次郎先生へ

感謝を込めて

橋本忠広

(S60・4・1〜H2・3・31)



次郎先生の突然の訃報に接し、深い哀悼の意を抱くと共に、私は自分の南会津高校在職時の様々な場面、その時々々の印象や映像を鮮明に思い出していた。それらは私が教員として初めて教壇に立った若き時代であり、大学時代から一続きとなる青春の時代でもある。そしてその節々に次郎先生のおおらかな笑顔が必ず結びついていくように思われる。

着任した最初の頃、毎日が戸惑いの連続であり、理想と現実とが全くかみ合わない苦悩の日々であった。青臭い大学生から少しの修養もなくそのまま教員となった私は社会的には全く未熟であり、四月当初から失敗のしつづけで簡単に精神的にも肉体的にも参ってしまい、ふらふらとなったあげくに、次郎先生のもとへ担ぎ込まれ、何らかの処置をしていた。ただいてそのまま布団に寝かされたことがあった。そのとき朦朧とした意識の中で何とも言えないような深

い安心感を感じていたことを今も忘れることはできない。そうした安心感とはたぶんそのまま次郎先生の鷹揚な笑顔であり、トキ先生の暖かい励ましであったのであろう。それから後は、次郎先生の存在が私にとって心の安らぎとなり、支えとなっていたようである。少々のことにはゆるがされなくなり、毎日一步一步着実に歩み出すことができるようになっていった。おそらくこうした次郎先生のような存在に支えられることがなければ、私は教員として続けていくことができなかつたのではないだろうか。そうしたことから考えると私にとって次郎先生はいくら感謝してもし尽くすことはできない。そしてもしかするとそれは他の多くの南会津の先生方におかれても同様であったのではないだろうか。

南会津高校時代を懐しむと自然と思い出される、次郎先生を囲んでの酒宴。何ということもなく皆で馳せ

参じ、なごやかに飲み歌い、語り騒いだ日がとても懐かしい。そんなときに次郎先生がお歌いになるのは必ず「津軽海峡冬景色」であった。

合掌

南会津高校五十年の記録

学 校 長



初代 玉川春雄
(昭和23. 7. 31~昭和28. 3. 31)
若松市立第二中学校長に転出



5代 目黒嘉祐
(昭和36. 4. 1~昭和38. 3. 31)
県立須賀川女子高等学校長に転出



4代 近藤金弥
(昭和33. 4. 1~昭和36. 3. 31)
県立埴高等学校長に転出



3代 後藤次郎
(昭和31. 4. 1~昭和33. 3. 31)
湯野中学校長に転出



11代 佐川昇
(昭和52. 4. 1~昭和55. 3. 31)
県立棚倉高等学校長に転出



10代 太田宏
(昭和50. 4. 1~昭和52. 3. 31)
休職



9代 船田元喜
(昭和47. 4. 1~昭和50. 3. 31)
県立船引高等学校長に転出



17代 鴨原長三郎
(平成 3. 4. 1~平成 5. 3. 31)
県立田村高等学校長に転出



16代 渡部光明
(昭和63. 4. 1~平成 3. 3. 31)
県立原町高等学校長に転出



15代 遠藤孝
(昭和61. 4. 1~昭和63. 3. 31)
県立若松女子高等学校長に転出



2代 西間木 正 己
 (昭和28. 4. 1~昭和31. 3.31)
 県立耶麻高等学校長に転出

歴 代



8代 橋 本 年 雄
 (昭和44. 4. 1~昭和47. 3.31)
 県立本宮高等学校長に転出



7代 橋 本 秀 夫
 (昭和42. 4. 1~昭和44. 3.31)
 県立飯坂高等学校長に転出



6代 角 田 祥 治
 (昭和38. 4. 1~昭和42. 3.31)
 退職



14代 鈴 木 茂
 (昭和59. 4. 1~昭和61. 3.31)
 県立白河女子高等学校長に転出



13代 遠 藤 勝 美
 (昭和57. 4. 1~昭和59. 3.31)
 県立相馬女子高等学校長に転出



12代 星 野 俊 一
 (昭和55. 4. 1~昭和57. 3.31)
 県立坂下高等学校長に転出



20代 山 田 和 彦
 (平成 9. 4. 1~現在)



19代 須 田 敬
 (平成 7. 4. 1~平成 9. 3.31)
 県立田島高等学校長に転出



18代 鈴 木 圭 介
 (平成 5. 4. 1~平成 7. 3.31)
 県立田島高等学校長に転出

歴代同窓会長



2代 山内久男
(昭和30. 8~昭和32. 7)
農業科第3回卒



初代 山内太郎
(昭和27. 4~昭和30. 7)
農業科第1回卒



5代 平野修治
(昭和52. 8~昭和56. 4)
普通科第4回卒



4代 斎藤脩
(昭和37. 8~昭和52. 7)
普通科第1回卒



3代 山内太郎
(昭和32. 8~昭和37. 7)
農業科第1回卒



8代 辺見賢
(平成7. 7~現在)
普通科第8回卒



7代 目黒幸雄
(平成3. 7~平成7. 6)
普通科第6回卒



6代 五十嵐廣
(昭和56. 5~平成3. 6)
普通科第6回卒



初代 近藤正智
(昭和23. 7~昭和25. 3)

歴代PTA会長



5代 近藤正智
(昭和37. 4~昭和40. 3)



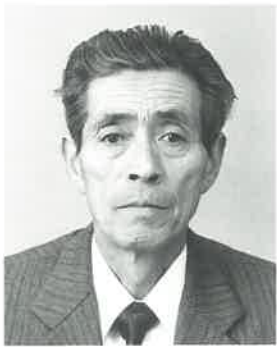
4代 星 博
(昭和35. 4~昭和37. 3)



3代 近藤正智
(昭和28. 4~昭和35. 3)



2代 渡部安彦
(昭和25. 4~昭和28. 3)



9代 馬場文夫
(昭和56. 4~昭和58. 3)



8代 渡部次郎
(昭和48. 4~昭和56. 3)



7代 五十嵐友彰
(昭和45. 4~昭和48. 3)



6代 山内正司
(昭和40. 4~昭和45. 3)



13代 森 豊喜
(平成 9. 4~現在)



12代 馬場清雄
(平成 5. 4~平成 9. 3)



11代 月田和行
(昭和63. 4~平成 5. 3)



10代 馬場太一
(昭和58. 4~昭和63. 3)

歴代湧雲会長



2代 五十嵐 友彰
(昭和48. 4～昭和53. 3)
後援会長



初代 辺見 文助
(昭和38. 5～昭和48. 3)
後援会長



5代 山内 太郎
(平成8. 4～現在)



4代 渡部 次郎
(昭和56. 4～平成8. 3)

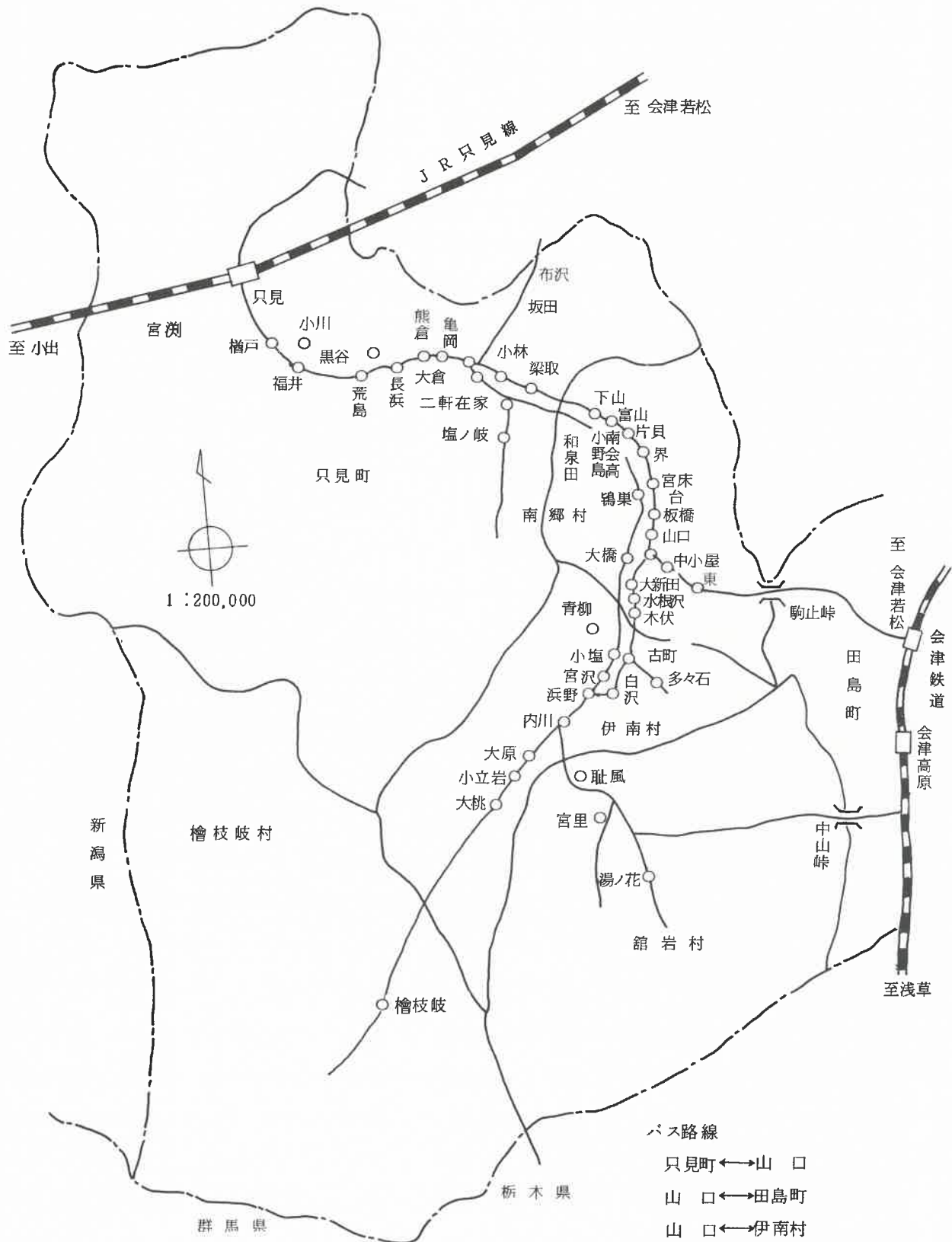


3代 斎藤 良三
(昭和53. 4～昭和56. 3)

※ 昭和53年、後援会を湧雲会と改称

学校施設の概要

通学区域図

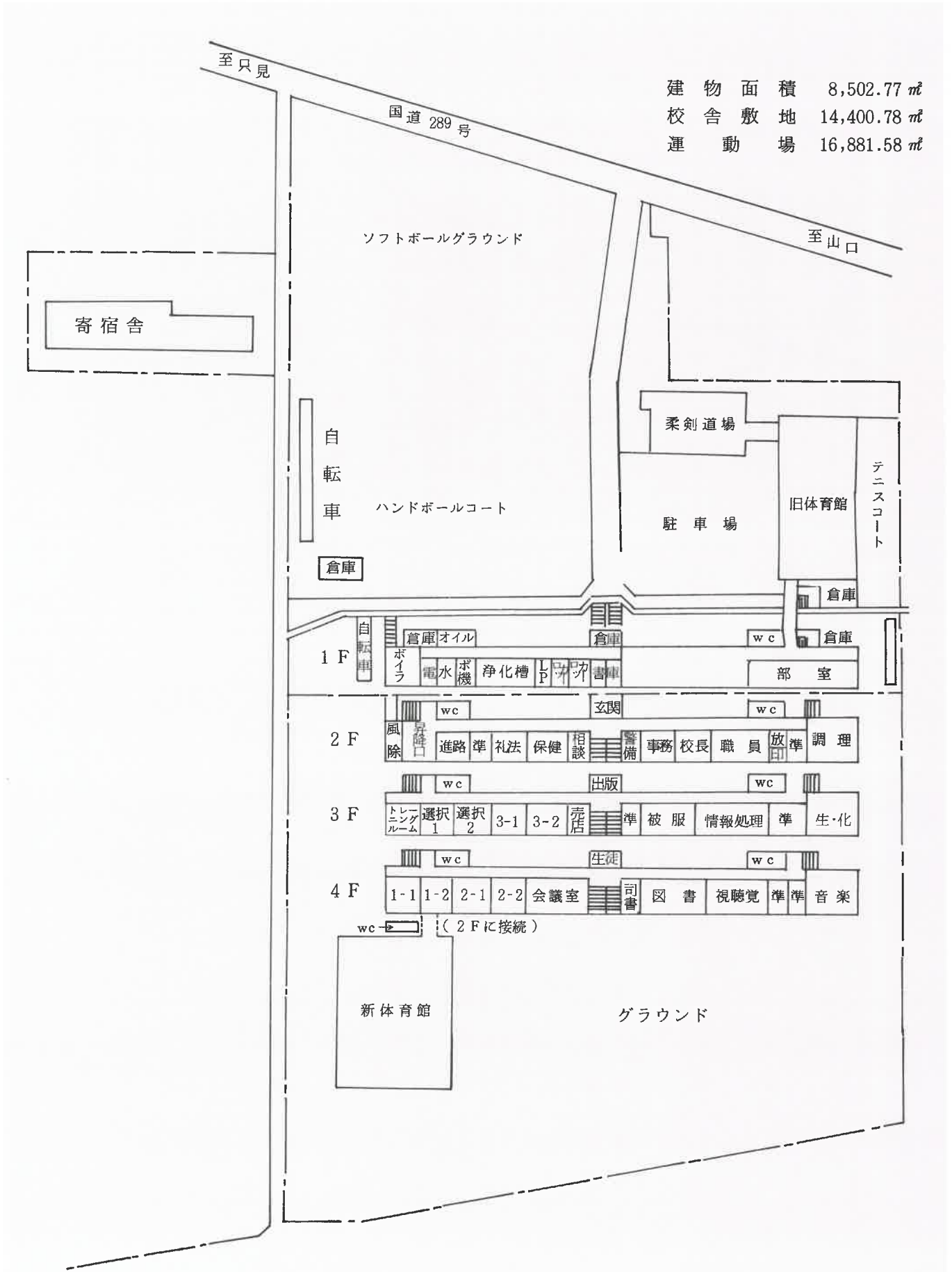


新校舎平面図

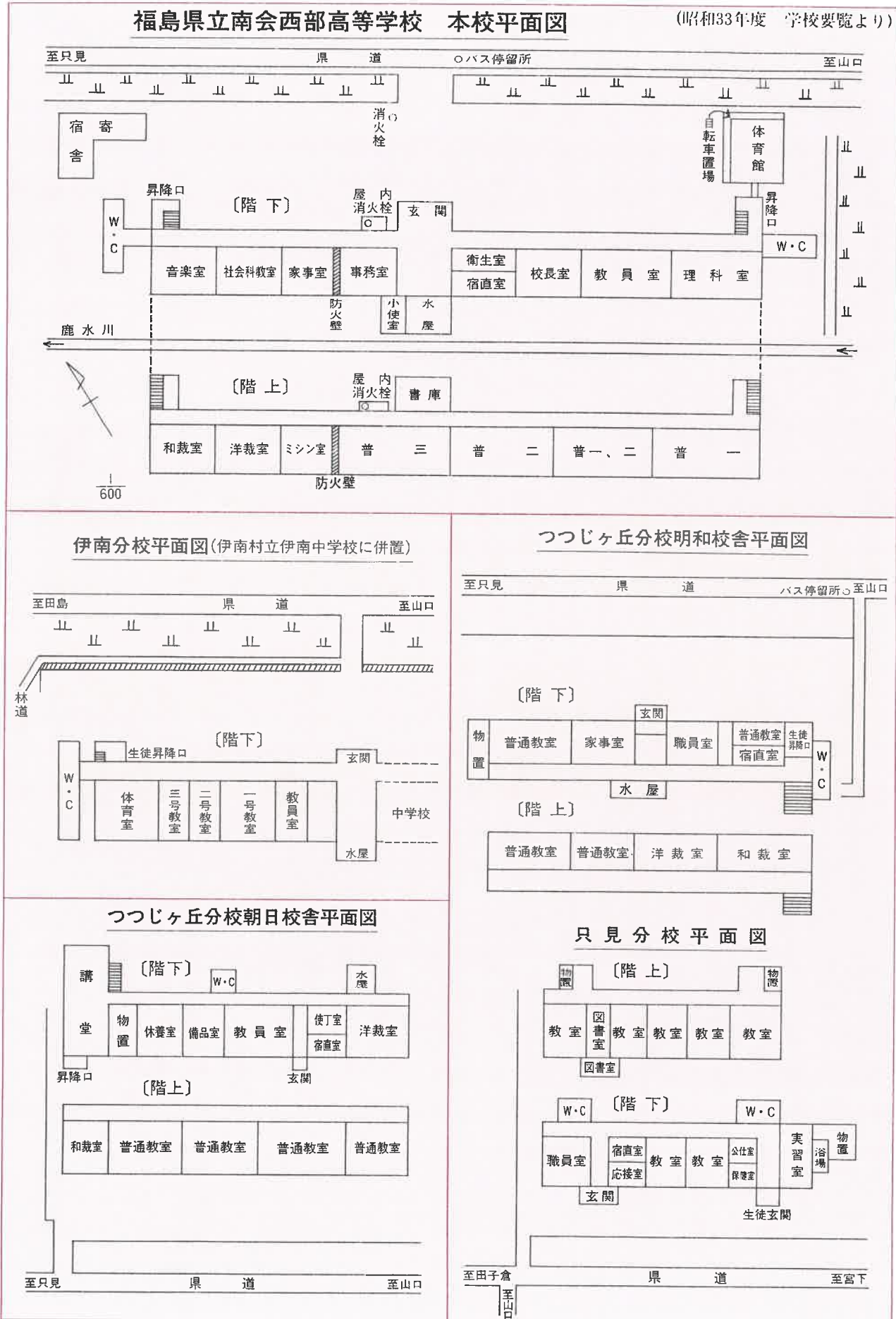
所在地

福島県南会津郡南郷村大字界字向川原 2000番地

建物面積 8,502.77 m²
 校舎敷地 14,400.78 m²
 運動場 16,881.58 m²



旧校舎・分校平面図





校 舎



新 体 育 館



武道場



旧体育館とテニスコート



寄宿舍

校歌のおいたち

校歌

梁取三義 作詞
古関裕而 作曲

明るく、力強く *mf* *mf*

やまなみの はだきよく はれ

mf

ゆくあしーた いなのせせらぎみず

すむところ ひらけゆくさとあら

f

たなぶんか なんかい なんかい なん

f

かいせいぶ 高等学一校

校歌

梁取 三義 作詞
古関 裕而 作曲

一、山脈の肌清く 晴れゆく朝

伊南のせせらぎ 水澄むところ

展けゆく郷 新たな文化

南会 南会 南会西部高等学校

二、幸多き大自然 尾瀬の高原

燧岳に湧き出する雲

かかげる理想 花咲く文化

南会 南会 南会西部高等学校

三、春の花 若き歌 希望あふれて

錦繡の秋 しろがねの冬

正しき法を 貫く文化

南会 南会 南会西部高等学校

校歌の生い立ち

斎藤賢(故人)氏が、創立三十周年記念誌に寄稿された回想記「校歌の生い立ち」の一部を抜粋し、校歌ができた当時のエピソードを紹介させていただきま

ある日、南郷村役場企画観光課長で敏腕をふるっている五十嵐廣君が私のところへ来て、「校歌の生い立ち」について一筆書いてくれとの依頼を受けたのである。

たぶんPTA会長は、今は亡き近藤正智氏だった。玉川校長と私との3人の酒席で、私は酒に酔った勢いで毒づいたのが「くされ縁」だったと思う。「あなたの高校には校歌がない。校歌とはその学校の魂である。入魂のない南会西部高校は、形骸化したセミのヌケガラに等しいものだ。」と……。君の言う通りだよ。開設して歴史も浅く、校歌まで手のまわらないのが実態なんだ。高校には校歌を作る予算もないし、PTAにも金がない。心意のままにならずで

念なんだ。」校長とPTA会長が二人してホロリと本音をはかれたときは、私は悪い事を言ってしまったと思っただけである。

ある日、私は私用で上京した。当時、ある程度は作詞家として、又文筆家として有名になりつつあった梁取三義氏（只見町布沢出身）に、さりげなく校歌の実情を話してみたら、案外たやすく引き受けてくれたのである。しかも作曲は友達の古関裕而とまで約束してくれた。私は東京から帰って玉川校長と近藤PTA会長に一応の報告はしたが、確約はできないと言っておいた。作詞・作曲料の相談は契約もしないし私の権利でもないが、ある程度頭痛の種でもあったから。

そして、忘れかけて一年余の歳月が流れたある日、梁取三義氏から「上京して来い。」の連絡が届いた。早速上京すると、梁取三義氏の神田の事務所、古関裕而氏と歌手の松原操さんが来ておられ、私は初めて二人の紹介に浴した。そこで私は南会西部高校の校歌を受け取ったのである。松原操さんがきれいな声で何度も何回もうたいつづけてくれた。作詞家と作曲家は目と目でうなづき

合った。これでOKのサインでもあった。それだけは私の脳裏に焼きつけられている気がする。

最後に作詞・作曲料についてちょっとふれておきたい。当時、全校生徒が山菜取りをしてその代金全部と、若干のPTAの寄付金をかき集めて、後から謝礼として届けた記憶があるが、その額は残念ながら定かでない。もちろん私が何回か上京しているが、費用はもらっていない。そんな費用は作りたくても作れなかった時代だし、自分の善意で思っただけの事だから「心の中の喜び」が残ればそれでいいと思うのである。

梁取三義氏、古関裕而氏共に健在で東京で活躍されているが、本当にありがとう。極安でできあがった校歌ではあるが、今ではもう伝統ある校歌として入魂しているのですから。私は毎年卒業して学窓を去る諸君と、毎年入学して南会高校の一員となる諸君とが、常に高らかに校歌をうたいつづけて、永遠に忘れ去られない校歌であってほしいと思う。それが作詞、作曲してくれた両氏への無言の返礼でもあると思う。そして私は、南会津高校から巣立って一人一人が激動する日本のよき社会人としての一員たる事を願うや切なりである。

作詩・作曲家の略歴

作詩・梁取三義



梁取三義（本名 梁取光義）明治四十五年六月南会津郡明和村に生まれる。新聞・雑誌記者を経て、作家活動に入る。

デビュー作「伊南川のほとり」に始まり、「二等兵物語」「七転び人生」「小説 石川啄木」「会津鶴ヶ城」

「日本酒大辞典」「日本酒入門」のほか詩集・随筆等多数。

日本酒の会を主宰し日本酒の品質の向上に努める。

日本作家協会々長・雑誌「採光」主宰・日本酒教室々長・会津啄木会々長・

日本音楽著作権協会々員・日本詩人協会々員。

平成五年十月死去（八十一歳）

作曲・古関裕而



古関裕而（本名、古関勇治）明治四十二年八月福島市大町に生まれる。昭和五年十月に日本コロムビア（株）に作曲家として入社。

「暁に祈る」「露宮の歌」「長崎の鐘」「とんがり帽子」

「鐘の鳴る丘」「さくらんぼ大将」「君の名は」

「オリンピック・マーチ」等。

昭和二十八年にNHK放送文化賞を受賞。作曲作品総数は、約五、〇〇〇曲にもおよび、スポーツ・ラジオドラマ・歌謡曲・演劇・校歌・社歌等を作曲しました。昭和四十四年には紫綬褒章を受賞。

昭和五十四年四月には福島市名誉市民第一号となり、その功績と栄誉をたたえられています。

平成元年八月死去（八十歳）

第二応援歌

わかばしげれるおせのもと いなのせーりやーみにうけて
 きたえぬかれしわれろこそ つきぬちからを いたくもの
 いまぞ ためさん は 之あるうでを あーあーわれらのちがもゆる

第二応援歌

一、若葉茂れる尾瀬のもと
 伊南の清流身に受けて
 鍛えぬかれし我等こそ
 尽きぬ力を抱くもの
 今ぞためさん榮ある腕を
 ああ我等の血が燃ゆる

二、けがれぬ雪の校風に
 猛き伝統背おいつつ
 自身にみちた心意気
 四方の山にこだまする
 今ぞ答えん母校の友に
 ああ我等の血が燃ゆる

三、浅草岳の峰はるか
 沈む夕日に誓いつつ
 いばらの果ての花園に
 一つに咲いた若い花
 今ぞ抱かん勝利の旗を
 ああ我等の血が燃ゆる

第三応援歌

きたにあさくさにしにおせ" ふーこーめいびなだ"いしせん
 ぞだっかくとは なんがいし たかきしほーこーりえ
 いーかけ てー きすくわれらのちがもゆる

第三応援歌

一、北に浅草西に尾瀬
 風光明媚な大自然
 育つ学徒は南会に
 高きし誇り榮かけて
 築く我等の血が燃ゆる

二、山肌険し明神を
 仰ぐ強者 南会に
 団結堅く実を結ぶ
 我等の前に黒雲も
 光をもらし雲さける

三、学舎映す伊南川に
 必ず勝つの意を決し
 輝く誉れ築かんと
 堅い誓いに意気高く
 あすをにらんだ健男士

時習寮歌

Legato

あさくさおろしのゆききてて しんりはくもゆるいながわ
 のかわべにたてるまなびやにまことのみちを
 もとめつわこびとつにむみあうじしゅうりはぞわがすみか

時習寮歌

一、浅草おろしの雪消えて
 新緑萌ゆる伊南川の
 川辺に立てる学舎に
 真理の道を求めつつ
 若人ひとつに睦み合う
 時習寮ぞ我が住みか

二、尾瀬高原の白樺の
 木の間に仰ぐ燧岳
 朝霧晴るる広き野に
 清明の気を身にうけて
 一筋の道友達と
 たどりて行かん旅路かな

時習寮分散歌

con anima

きよけくながれるいながわのみずがさましてかわやぎの
 つぼみふくれるほろのみにじしゅうのりょうにむつみまし
 みどりのかみのわこどにわかれをうぐるときぞきぬ

時習寮分散歌

一、清けく流れる伊南川の
 水かさ満して川柳の
 つぼみ含れる春の日に
 時習の寮に睦み来し
 緑の髪 of 若人に
 別れを告ぐる時ぞ来ぬ

二、北風窓をたたくとき
 団炉のふちにまどりして
 語り明かしし夜もありき
 前途に幸の多かれと
 想い出深き時習寮
 友垣今宵別れゆく

特色ある学習活動

マルチメディア活用方法研究開発事業

七十五キロメートルの距離を超えて

マルチメディア活用方法研究開発事業（文部省委嘱事業）を受け、平成9年4月から、遠隔地間を光通信で結ぶ「テレビ会議システム」を利用した授業を実施している。

一、事業の概要

文字・音声・動画などの大容量の情報を高速かつ高品位に伝達できるNTT光通信網による「テレビ会議システム」を利用して普通科高校と専門高校との間で遠隔授業を行い、より幅広い教育の機会を多くの生徒に提供する。

二、事業実践高校

普通科高校（本校）と専門高校（福島県立清陵情報高等学校）

（両校間の距離は約75キロメートル）

三、目的

- ① マルチメディア時代に対応した新しい教育システムの研究開発を図る。
- ② 生徒の教科選択の機会を拡大する等、教育環境の整備を図る。
- ③ 他校との交流により、互いの学校の特徴、個性を再認識する。
- ④ こねつと・プランとの併用により、インターネットの教育利用を図る。

四、委嘱期間

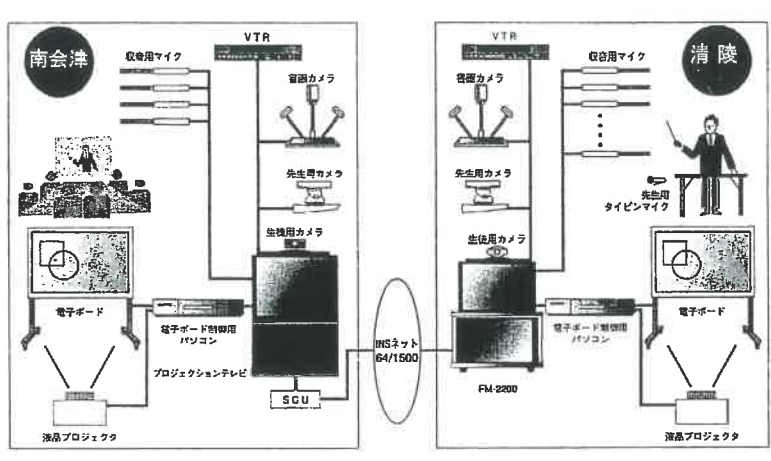
平成8年度～平成10年度（3年間）

五、経過

平成8年度 事業内容（主なもの）
 12月10日 マルチメディア開通式
 1月～2月 マルチメディアを用いた試行授業
 2月 合同LHR 本校2年 ↑マルチメディア ↓清陵情報高校2年

「地域を知る・学校を知る」

*システム構成



平成9年度 事業内容(主なもの)

① 情報処理技術の授業

授業者 ↑マルチメディア ↓ 受講者
清陵情報高校木船教諭ほか3名 本校3年生 10名

4月～7月 ワードプロセッサソフト(一太郎7)の実習
8月～11月 表計算ソフト(ロータス123)の実習
12月～1月 画像の取り込みと編集・年賀状の作成
ワープロ検定・情報処理検定 全員合格
② 簿記の授業

授業者 ↑マルチメディア ↓ 受講者
清陵情報高校岡谷教諭ほか3名 本校2年生 8名

4月～11月 4級の内容 12月～ 3級の内容

全経簿記検定(11月) 4級 6名合格

③ 合同LHR

本校2年 ↑マルチメディア ↓ 清陵情報高校2年1組

「修学旅行について」

④ 生徒会交流

本校生徒会 ↑マルチメディア ↓ 清陵情報高校生徒会

↑マルチメディア ↓ 群馬県立長野原高校生徒会

清陵情報高校創立10周年記念式典への参加

⑤ 合同講演会

清陵情報高校生徒・本校1年生

講演者 鈴木敏恵氏 「夢の叶え方!教えます」

(建築家・文部省教育助成僻地マルチメディア活用委員他)

六、平成10年度 事業内容

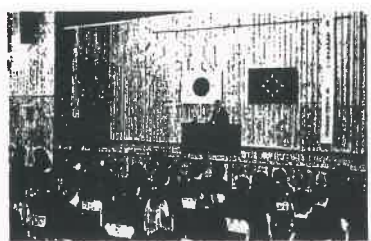
科目	情報処理技術(2単位)	簿記(2単位)
授業時間	木曜日5・6校時	火曜日3・4校時
対象生徒	第3学年商系(15名)	第3学年商系選択(8名)

その他、合同「LHR」や生徒会等の交流など
平成10年10月に研究発表大会を予定



郷土理解のための講演会

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	回
H 9・7・17	H 8・7・18	H 7・10・31	H 7・7・12	H 6・10・29	H 5・11・20	H 5・7・19	H 4・11・18	H 3・11・26	H 2・12・12	H 1・11・4	S 63・11・7	S 62・11・6	S 61・11・10	年月日
岡本光正	玉川春雄	岡本広一	斎藤賢	小野孝	大桃博	月田茂	高石寛治	五十嵐廣	関博之	山内太郎	安藤紫香	目黒鷹雄	五十嵐昭元	講師
福島在住	初代南会津高校長	伊南村前村長	南会西部農業協同組合組合長	川崎市より南郷村へ転入	伊南村元教育長	月田農園	南郷中学校長	南郷村役場総務課長 同窓会顧問	県教育センター 教育研究係係長	村会議員	南郷村史編纂室長	弁護士	南郷村村長	役職名
いま、思うこと	今の南会津高校生に求めるもの	高校時代の思い出	明るい南会西部地区の農業	南郷村に移り住んで	私の高校生活	私の歩んだ人生 〜ヒメサユリとともに35年〜	自分づくり	石の文化と木の文化	私の高校時代	私の体験談	高倉宮以仁王会津紀行	私の高校時代		演題
普通科第五回(S33)卒		農業科第一回(S27)卒			農業科第一回(S27)卒			普通科第六回(S34)卒	普通科第十三回(S41)卒	農業科第一回(S27)卒		普通科第二回(S30)卒		卒業年



卒業生を講師に招いて開かれた郷土理解のための講話

先輩の講話で郷土理解

南会津高会
津高会 岡本元伊南村長迎える

南郷村の南会津高は、今年度の講演会は元伊南村長の岡本元一さん(73)を講師に迎えて十月三十一日に同校体育館で開かれた。

岡本さんは、昭和二十七年に創立された第一回卒業生。「高校時代の思い出」と題して話し、友人たちとすむした青春時代の輝き、校舎をデザインした喜びなどについて語った。

約百六十人の生徒たちも、一つの岡本さんの話に興味深そうに聞き入っていた。

福島民報

H 7・11・6 付

職場体験学習

― 職場体験学習ノートより ―

一、ねらい

- 1 企業の活動、職場の生活にふれ、自分の職業に関する適性、能力などを具体的に検討させる機会とする。
- 2 勤労の厳しき、楽しさを体験し、望ましい職業観、勤労観の育成を図る。
- 3 社会生活における規律やマナーを具体的に学び、社会の一員としての望ましいあり方を学ばせる。
- 4 産業界の現状や、職場生活の実際に触れることにより、これからの学業生活における課題を明らかにさせる。

二、心構えと注意

- 1 担当者の指示に従い、自分の判断で行動しないこと。
- 2 課題や疑問をもってあたり、進んで職場の様子や仕事の内容を理解すること。
- 3 他の人の迷惑にならないように努め、勝手に話しかけたり私語をしないこと。
- 4 与えられた仕事には誠意と工夫をもってあたること。
- 5 身だしなみをきちんとする。
- 6 職場の人に対しきちんといさつをすること。
- 7 目上の人に対する言葉づかいと礼儀に留意すること。

11月11日（火）～13日（木）に行われた職場体験学習のノートから各生徒の成果をひろって見た。（事業所様の敬称は略させていただきます。）

一、働く事に対して、どのような感想を持ったか。

- ・車の仕組みがメーカーによって全然違うので、おもしろかった。（学・丸正自動車）
- ・看護婦は人の命をあずかっているということに責任のある仕事だけれども、その分やりがいがあると思った。（安奈・渡部病院）
- ・ほんとに働くことになったらいろいろ苦労があると思った。車全部に興味を持った。オイル系を交換するとき苦労した。（貴之・酒井自工）
- ・今の時代の仕事にはパソコンが出来るということが必要だと思った。（加奈子・山口郵便局）
- ・お客さんに「〇〇はどこにありますか？」と聞かれたとき、（ほとんどある場所がわからないので）すぐ答えることが出来ず、お客さんを少しの時間待たせてしまった。（真里・サンドリーム）
- ・自分の作ったものが人様へ行くと考えるととてもやりがいがあった。（龍馬・渡会製菓）
- ・中途半端な気持ちじゃ仕事は続



さゆり荘 (H9.11.11～11.13)

かないし、責任感が必要だと思った。(智子・南郷荘)
・ふとんカバーかけが苦勞した。(歩・さゆり荘)

二、自分の個性・適性や進路希望との関係で、どのような感想を持ったか。

・工事など、物を作り出す仕事は自分にあっていると思った。作る時は大変だが完成した時の喜びはすばらしいものだった。(建也・吉野建設)
・利用者の方が心も体も健康で過ごせるようにいろいろと工夫してあることがたくさんあり、勉強になりました。(あや・みさわ荘)
・リハビリの時、一緒に手や足を動かして運動することが、何かはずかしくて、ちゃんとできなかった。(佳代・伊南ホーム)
・職場体験学習は3日だけでは足りないと思った。せめて1週間は欲しかった。(一樹・伊南村教育委員会)

・新しく知った点は、回収車が意外と少ないこととガソリンを入れている際にはエンジンを切らなければいけないことだった。(貴次・西部環境衛生組合)

・事務の仕事がほとんどだったけど、そういう仕事かけっこう自分にあっていると思った。(まゆ・南郷村商工会)
・子供って思っていたより頭がよいと思いました。(隆志・山口保育所)

三、社会人として大切であると思ったことは？

・素直さ・内面の人柄・誠実さ(健・南郷給油所)
・時間厳守・あいさつの声は大きく・自分の仕事は責任を持ってやりとす(高友・伊南郵便局)
・はつきり物事を言う(返事など)・時間を守る・気くばり(美樹・新藤歯科医院)
・けじめのある行動が一番大切(千恵・伊南保育所)

四、これから、自分の進路希望実現に向けて努力しなければならないことは？

・責任を持って一生懸命働けるよう自覚を持ちたい(史紹・小林郵便局)
・暗記力・筋力体力・持久力をつける(貞典・マサヤ)
・他人とよく話すようにする・自分のからにとじこもらない(永治・南郷村役場)
・職場体験をやってみて、「どうしてもこの職業に就きたい!」と思ったので、がんばらなきゃと感じ始めています(梨乃・富田保育所)
・もう少し社会的知識をつける(進也・マドリード58)



南郷村商工会 (H9.11.11~11.13)

部活動 栄光の記録

昭和50年11月13日 インターハイ新人戦剣道女子団体優勝、バレー優勝

昭和54年11月6日 インターハイ新人戦剣道男子団体優勝

インターハイ新人戦剣道女子団体優勝、バレー会津制覇、
県二位

昭和55年 インターハイ新人戦剣道女子団体優勝 三年連続出場

男子剣道 栃の葉国体出場

卓球部 新人戦会津総体で三位 県大会四名出場

昭和56年 陸上、バレー、剣道の個人が全国大会

新人戦女子剣道団体、個人優勝

バレー選抜優勝大会で初優勝

昭和57年 バレーEIV杯優勝、インターハイ二位

音楽部合唱コンクール金賞

ハンド 総体三位

昭和61年

〈柔道部〉

インターハイ会津地区大会軽々量級二位五十嵐邦夫

〈陸上部〉

インターハイ会津地区大会走高跳二位梁取勇

インターハイ会津地区大会走幅跳三位平野昭伸

会津総体走高跳二位月田勇

〈ソフトボール〉

春季選抜地区大会二位

〈バレーボール〉

インターハイ会津地区大会県大会出場三位

会津総体県総体出場三位

〈剣道部〉

インターハイ会津地区大会男子個人二位

インターハイ会津地区大会男子団体三位

第36回全会津総合体育大会男子団体二位

第36回全会津総合体育大会男子個人一位平野知則

第36回全会津総合体育大会女子個人一位馬場夏江

第36回全会津総合体育大会女子個人三位山内曉美

61年度県高校新人戦体育大会会津地区大会男子団体二位

61年度県高校新人戦体育大会会津地区大会女子団体二位

61年度県高校新人戦体育大会会津地区大会男子個人二位

菅家安志

61年度県高校新人戦体育大会会津地区大会男子個人三位

武田公夫

ハンドボール部、インターハイ二位 東北大会出場

〈剣道部〉

インターハイ会津地区大会女子個人一位 馬場夏江

インターハイ東北大会女子個人出場馬場夏江

県総体女子個人三位馬場夏江

東北総体ミニ国体女子団体三位馬場夏江(副将)

県高校新人大会会津地区予選男子団体一位

〃

男子個人一位芳賀誠

県選抜剣道優勝大会男子個人三位芳賀一伸

昭和63年

〈剣道部〉

インターハイ会津地区大会男子個人一位芳賀一伸

全会津総体男子個人一位芳賀誠

県総体男子団体三位

県選抜剣道優勝大会男子個人優勝芳賀誠

〈陸上部〉

インターハイ会津地区大会男子やり投げ優勝中丸広康

〃 男子走り高跳び優勝馬場悟

インターハイ県大会男子やり投げ二位中丸広康

〃 男子走り高跳び三位馬場悟

〈スキー部〉

県大会男子総合距離・飛躍二位五十嵐和也

〈剣道部〉

インターハイ会津地区大会男子個人優勝芳賀誠

東北総体男子個人選抜出場芳賀誠

〈陸上部〉

会津総体少年女子B走り幅跳び一位目黒由美

〈スキー部〉

県大会ジャンプ二位五十嵐和也

〃 コンバインド優勝五十嵐和也

〈自然科学部〉

第9回県高等学校総合文化祭科学専門部会優秀賞

〈自然科学部〉

第10回県高等学校総合文化祭科学専門部会優秀賞

〈剣道部〉

全会津総体男子団体優勝、女子団体優勝

平成4年

平成3年

平成2年

平成5年

〈スキー部〉

インターハイ県大会

アルペン競技男子回転東北選手権出場平野秀樹

クロスカントリー女子リレー二位

コンバインド二位馬場康友

高校総体、コンバインド二位馬場康友

〈自然科学部〉

第11回県高等学校総合文化祭科学専門部会優秀賞

〈剣道部〉

一年生大会地区大会男子個人優勝平野伯典

〈スキー部〉

インターハイ県大会

アルペン競技男子回転五位猪股俊伸

〃 〃 七位辺見新一

〃 〃 男子大回転五位星慎太郎

〃 〃 〃 八位平野昌志

〃 〃 〃 十一位平野公紀

〃 〃 女子大回転八位渡部恵己

クロスカントリー女子二位馬場純子

〃 〃 八位馬場由美子

コンバインド三位大東一臣

〃 〃 五位平野純

以上8名東北選手権出場

以上7名全国大会出場

〈放送〉

第40回NHK杯全国放送コンテスト

会津地区大会朗読部門第一位菊地聖子

会津地区大会朗読部門第四位栗城久美

県大会朗読部門最優秀賞栗城久美

全国大会朗読部門出場栗城久美

〈弁論〉

第6回国際理解のための弁論大会

県予選最優秀賞「日本人として」森美奈子

第40回国際理解のための高校生の主張コンクール

安達峰一郎記念館賞「日本人として」森美奈子

平成6年

〈スキー部〉

インターハイ県大会

アルペン競技男子回転三位猪股俊伸

ジャンプ三位大東一臣

複合二位大東一臣

〃 三位平野純

学校対抗男子二位南会津高校

〈放送〉

第41回NHK杯全国放送コンテスト

会津地区大会朗読部門第一位栗城久美

〃 第二位菊地聖子

県大会最優秀賞栗城久美

〃 優秀賞菊地聖子

以上二名全国大会出場

第18回全国高等学校総合文化祭

放送・朗読部門奨励賞栗城久美

〈スキー部〉

インターハイ県大会

平成7年

アルペン競技男子回転二位星慎太郎

〃 三位平野昌志

クロスカントリー男子リレー三位

ジャンプ二位平野純

複合総合二位平野純

学校対抗男子三位南会津高校

〃 女子三位南会津高校

県総体

アルペン競技男子大回転一位猪股俊伸

〃 三位星慎太郎

アルペン男子回転一位猪股俊伸

コンパインド総合三位大東一臣

〈スキー部〉

インターハイ県大会

アルペン競技男子大回転十五位渡部博文

〃 女子大回転五位酒井美和（全国大会出場）

〃 十一位酒井理恵

〃 十三位渡部百子

〃 男子回転五位星勝行（全国大会出場）

〃 十二位馬場貞典

〃 女子回転八位馬場美和

〃 十位酒井理恵

クロスカントリー男子10Kクラシカル九位芳賀浩隆

〃 女子5Kクラシカル七位山内美織

（全国大会出場）

（全国大会出場）

平成9年

クロスカントリー男子15Kフリー十一位角田歩

(全国大会出場)

〃 〃 十二位角田誠

(全国大会出場)

〃 〃 十五位芳賀浩隆

〃 〃 十六位渡部朝範

〃 〃 十九位星博幸

〃 〃 二十位酒井豊

〃 〃 女子10Kフリー七位山内美織(全国大会出場)

〃 〃 男子リレー三位南会津高校

以上東北大会出場

〈論文〉

「野口英世賞」(中学校・高等学校科学研究論文)

高等学校共同研究の部優秀賞大塚秀俊・本名哲也

〈剣道部〉

県高校新人大会会津地区大会女子団体優勝

県選抜剣道大会地区大会女子団体優勝

〈スキー部〉

インターハイ県大会

アルペン競技男子大回転二位星勝行(全国大会出場)

〃 〃 十二位田部井進也

〃 〃 十四位馬場貞典

〃 〃 十五位平野智

以上東北大会出場

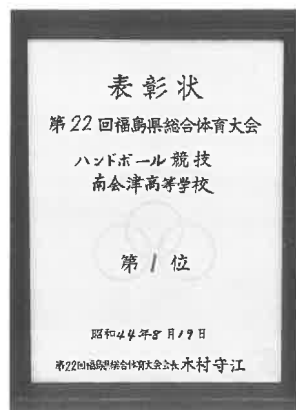
クロスカントリー十二位角田歩(全国大会出場)

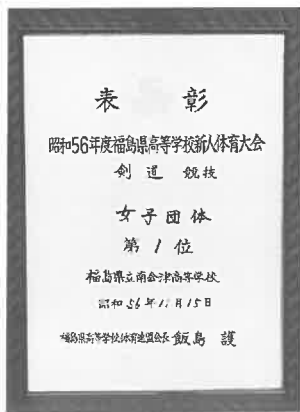
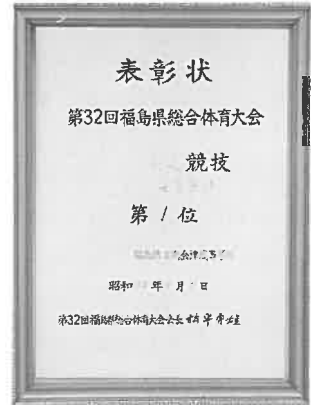
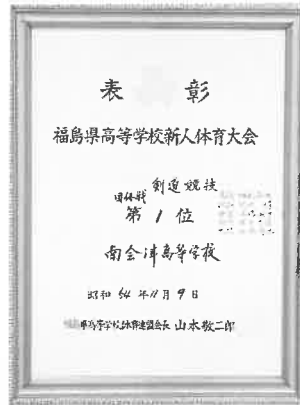
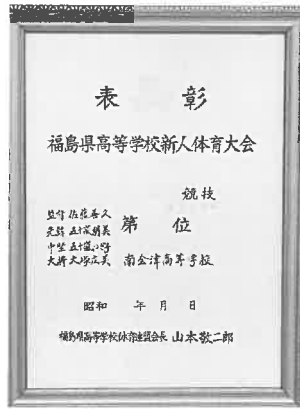
〃 〃 十八位芳賀浩隆

クロスカントリー二十二位平野智広

〃 〃 男子リレー三位南会津高校

以上東北大会出場





在校生徒数・卒業状況・進路状況

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	年度			
17	14	18	18	20	19	24	19														男	一組	一 年	
21	18	21	24	19	20	21	23														女	二組		
18	14	19	17	20	18	24	19														男	三組		
21	19	20	25	18	20	21	22														女	一組		
18	15	19	17	21	20	22	19														男	二組		
20	18	20	26	18	19	22	22														女	三組		
115	98	117	127	116	116	134	124														合計	男女	一年	
15	17	18	21	16	22	17	21														男	一組	二 年	
18	22	25	19	22	23	24	24														女	二組		
14	17	17	20	15	23	17	19														男	三組		
18	21	25	20	21	22	25	20														女	一組		
15	20	17	20	27	26	22	18														男	二組		
17	17	26	16	17	19	17	21														女	三組		
97	114	128	116	118	135	122	123														合計	男女	二年	
17	17	20	16	23	17	21	18														男	一組	三 年	
22	25	19	22	22	24	24	26														女	二組		
17	17	19	15	23	17	18	18														男	三組		
21	25	20	21	22	25	20	25														女	一組		
20	17	20	27	26	21	19															男	二組		
17	26	17	17	20	16	21															女	三組		
114	127	115	118	136	120	123	87														合計	男女	三年	
326	339	360	361	370	371	379	334														合計	生徒	在籍	
19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			回	卒業生	卒業 状況	
114	126	115	118	136	120	123	87	108	143	150	98	109	84	65	62	66	42	43			人数	普通科		
								(49)	(87)	(83)	(28)	(33)	(32)	(18)	(19)	(20)						家庭科		
								13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		回数		農学科
								14	15	29	28	42	39	32	45	45	82	60	41	54		回数		短期産業科
												7	6	5	4	3	2	1				回数		別科
												7	18	20	19	60	26	28				回数		家庭科
							12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				回数	家庭科	
							13	8	13	25	18	39	40	8	11	35	17	3				回数	家庭科	
114	126	115	118	136	120	123	100	130	171	204	144	197	181	125	137	206	167	134	41	54	合計	合計	進 路 状 況	
								(49)	(87)	(83)	(28)	(33)	(32)	(18)	(19)	(20)								計
3																						国立		大 学
	9	7																				公立		
4																						私立		
7	8	9																				短期		
20	18	20																				各種		
34	35	36																				計		
67	78	57																				就職		
13	13	22																				その他		
114	126	115																				計		

(注) 普通科卒業生のうち () 内の数は、只見分校の卒業生数であり、内数である。

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	
	15	10	16	15	15	21	16	22	13	19	20	20	17	14	18	17	15	25	16	24	14	20	22	22	19	23	20	
	11	10	13	15	11	13	17	17	19	22	21	16	21	19	19	23	18	19	24	20	24	20	18	18	21	17	19	
	14	10	16	14	15	21	16	23	14	20	20	20	17	14	18	17	15	25	16	24	15	19	22	22	18	23	21	
	12	10	13	16	11	13	16	16	19	22	21	15	21	19	19	23	19	18	23	20	24	21	18	18	22	17	19	
												20	17	14	18	16	16		15	25	15	19	22	21	18	23	21	
												15	20	18	19	23	17		24	19	24	21	18	19	22	17	17	
	52	40	58	60	52	68	65	78	65	83	82	106	113	98	111	119	100	87	118	132	116	120	120	120	120	120	117	
	10	17	14	14	19	15	21	12	19	20	20	17	13	18	16	16	25	15	24	14	19	22	22	18	23	20	17	
	10	12	15	11	13	15	17	19	22	20	15	21	19	19	23	17	19	24	20	24	20	18	18	22	17	19	21	
	10	16	15	15	20	15	21	12	20	20	20	16	14	18	16	15	25	16	25	15	19	22	22	18	23	21	18	
	10	13	15	11	13	16	16	19	22	21	15	21	18	19	23	17	18	23	19	24	21	18	18	22	17	19	21	
											20	17	14	19	16	15		16	25	15	19	22	21	19	23	19	16	
											16	20	18	18	23	18		24	20	24	20	18	19	21	17	17	20	
	40	58	59	51	65	61	75	62	83	81	106	112	96	111	117	98	87	118	133	116	118	120	120	120	120	115	113	
	17	14	14	19	15	21	12	19	20	20	17	13	18	15	16	24	15	24	14	19	22	22	18	22	19	17	15	
	12	15	11	13	15	17	19	21	21	14	20	19	19	23	17	19	24	19	24	20	18	18	22	17	19	21	18	
	16	15	15	19	15	21	12	20	20	20	16	14	18	16	15	25	16	25	15	19	22	22	18	23	21	16	14	
	13	15	11	13	16	16	19	22	21	15	21	18	19	22	17	18	23	19	24	21	17	18	22	17	19	21	18	
										19	17	14	19	16	15		16	25	15	19	22	21	20	23	19	16	15	
										16	20	18	18	22	18		23	20	23	20	17	19	21	17	17	19	17	
	58	59	51	64	61	75	62	82	82	104	111	96	111	114	98	86	117	132	115	118	118	120	121	119	114	110	97	
	150	157	168	175	178	204	202	222	230	268	299	314	320	323	326	303	304	337	366	366	352	360	361	359	354	345	327	
計	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	
4,440 (369)		59	51	64	61	75	61	82	81	103	111	96	111	114	98	85	117	132	115	119	118	119	120	118	114	110	97	
526																												
178																												
230																												
5,374 (369)	0	59	51	64	61	75	61	82	81	103	111	96	111	114	98	85	117	132	115	119	118	119	120	118	114	110	97	
		2	2	1						1		1			1	4	2	1	3	1	1			1	2	4	3	
		1			1											1												
		7	7	4	1	6	2	2	2	6	3	7	5	2	4	4	5	5	4	4	6	10	5	9	3	3	10	
		10	3	7	6	8	9	9	6	12	11	5	16	11	4	1	12	10	11	12	8	9	8	6	5	6	10	
		21	11	27	19	28	20	25	22	22	30	20	28	26	18	31	25	52	21	38	26	28	23	33	19	30	23	
		41	23	39	27	42	31	36	30	41	44	33	49	39	27	41	44	68	39	55	41	47	36	49	29	43	46	
		20	28	26	34	33	30	46	49	61	67	63	62	70	71	43	67	65	73	60	68	61	63	49	58	59	49	
									2	1					5		1	6	1	3	4	9	11	21	20	27	8	2
		*61	51	65	61	75	61	82	81	103	111	96	111	114	98	85	117	132	115	119	118	119	120	118	114	110	97	

※は、2名就職進学分を含む。

出身中学校・保護者職業

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	年度	出身中学校別調査	
						2	2																			檜枝岐
			3	7	12	14	13																			大川
2	2	3	1	1	1	3	3																			館岩
70	75	83	78	73	75	76	72																			伊南
149	150	164	167	167	173	174	142																			大宮
47	56	52	62	70	73	68	64																			富田
																										南郷
44	43	46	44	47	35	39	38																			明和
13	11	9	3	3	2	2																				朝日
1	2	3	3	2		1																			その他	
326	339	360	361	370	371	379	334																		計	
232	240	258	263	268	262	264	237																		農業	
17	20	18	16	20	21	26	27																		商業	
23	23	30	22	14	21	12	31																		公務員	
16	20	20	21	29	14	25	5																		会社員	
		11	20	26	24	9	16																		自営業	
38	36		19	13	29	43	18																		その他	
326	339	337	361	370	371	379	334																		計	

(注) 昭和23年度から昭和38年度までは、資料の確認ができないため記載しておりません。

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	年度
			2	2	8	7	11	10	18	19	21	11	9	5	4												檜枝岐
																											大川
			3	4	5	4	5	4	1			1	1	1		1	1	1									館岩
44	42	47	39	46	40	53	56	64	66	62	61	60	68	67	70	77	79	70	73	83	78	64	59	68	67	伊南	
																		51	107	161	170	164	172	162	167	145	大宮
																		13	25	35	30	38	41	51	48	53	富田
82	87	84	90	100	111	105	116	125	145	150	159	160	166	150	153	166	125	68									南郷
27	37	37	41	43	39	44	39	50	52	50	52	47	48	46	52	58	63	57	55	49	54	56	55	47	47		明和
			1	1	1		3	3	8	16	30	31	37	30	32	21	58	28	37	27	26	27	26	26	16	16	朝日
4	2	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	5	9	8	4	7	29	6	2	1	2		1	1	1		その他
157	168	175	178	204	202	222	230	268	299	314	320	323	326	303	304	337	366	366	352	360	361	360	354	347	328		計
19	20	18	21	27	31	23	49	67	69	70	84	111	114	124	143	149	180	172	190	198	213	220	221	229		農業	
14	13	9	7	12	20	21	18	26	25	35	29	20	18	16	15	27	18	23	27	23	24	24	28	24		商業	
22	23	26	25	30	26	30	39	42	45	42	37	38	43	39	44	43	45	46	42	43	36	30	28	28		公務員	
58	62	73	62	61	63	69	61	66	94	94	93	82	75	53	41	36	47	62	41	43	36	32	30	24		会社員	
32	39	33	43	44	35	35	48	46	35	50	49	47	37	40	37	45	38										木工・建築
12	11	16	20	30	27	44	15	21	31	23	28	25	39	31	24	37	38	63	52	53	52	54	47	42		その他	
157	168	175	178	204	202	222	230	268	299	314	320	323	326	303	304	337	366	366	352	360	361	360	354	347	328		計

出身中学校別調査

保護者職業別

通学状況

47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	年度				
84	79	58	44	24	33	29	57	48																		バス	通 学 方 法		
102	112	118	104	91	43	39	16	239																				バイク	
110	99	134	174	217	251	267	252	8																				自転車	
32	36	29	38	29	43	36	54	39																				徒歩	
																													寮
																													下宿
328	326	339	360	361	370	371	379	334																				計	
30	24	28	37	28	37	36	57																				以 1 内 km	通 学 距 離	
37	38	39	46	44	43	55	32																				1 3		
55	64	74	73	87	96	100	100																				3 5		
62	59	54	53	63	52	64	89																				5 7		
50	63	56	64	59	58	36	31																				7 10		
94	78	88	87	80	84	80	70																				以 10 上 km		
328	326	339	360	361	370	371	379	334																			計		
			134	149	132	138	129	128																				以 20 内 分	通 学 時 間
			127	136	140	143	163	117																				以 40 内 分	
			78	64	77	70	65	72																				以 1 内 時間	
			21	12	21	20	22	17																				以 2 内 時間	
																												寮	
328	326	339	360	361	370	371	379	334																				計	

(注) 昭和23年度から昭和38年度までは、資料の確認ができないため記載しておりません。

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	年度			
											3	6	10	7	13	2	9	14	18	16	20	22	37	47	48	バス	通 学 方 法		
	52	51	49	49	53	53	66	78	78	103	100	97	109	102	106	127	165	176	169	172	175	133	146	157	149	バイク			
	98	110	119	119	132	134	136	125	161	163	173	184	175	191	166	161	151	157	156	139	138	184	133	112	118	自転車			
	4	5	6	7	5	7	5	14	29	33	38	33	29	26	18	14	12	19	23	25	27	22	44	38	32	徒歩			
					12	8	13	12																				寮	
	3	2	1	3	2																							下宿	
	157	168	175	178	204	202	220	229	268	299	314	320	323	326	303	304	337	366	366	352	360	361	360	354	347	計			
																							35	35	34	以 内	通 学 距 離		
																							45	48	44	1 3			
																							60	56	62	3 5			
																							56	55	57	5 7			
																							65	67	58	7 10			
																							99	93	92	以 上		通 学 時 間	
	157	168	175	178	204	202	220	229	268	299	314	320	323	326	303	304	337	366	366	352	360	361	360	354	347	計			
	55	47	48	55	64	72	64	66	82	98	96	95	84	88	76	78	95	106	146								以 内		通 学 時 間
	70	93	76	75	87	82	102	137	126	150	158	154	164	137	133	142	150	182	135								以 内		
	32	28	49	48	38	40	41	14	58	49	60	69	73	100	88	82	88	74	84								以 内		
			2		3	8	13	12	2	2		2	2	1	6	2	4	4	1								以 内		
					12																						寮		
	157	168	175	178	204	202	220	229	268	299	314	320	323	326	303	304	337	366	366	352	360	361	360	354	347	計			

出身集落別生徒数

界	宮	鶉	台	山	中	東	大	大	水	木	青	古	多	小	白	宮	浜	恥	内	大	小	大	館	檜	年度	
	床	巢	板	口	小屋		橋	新	根	伏	柳	町	々	石	塩	沢	沢	野	風	川	原	立	桃	岩		枝
																									23	
																										24
																										25
																										26
																										27
																										28
																										29
																										30
																										31
																										32
																										33
																										34
																										35
																										36
																										37
																										38
15	13	20		36	0	4	11	13	4	9	5	21	8	4	8	17	9	2	5		3	3	3	2	39	
17	13	19		43	2	6	15	11	3	11	6	21	8	5	12	14	10	1	5	2	4	2	3	2	40	
17	12	19	2	41	4	6	17	9	4	9	7	20	9	4	14	11	8	1	5	1	3		2		41	
20	9	14	4	43	3	8	12	6	5	10	8	10	10	9	16	9	5		5	1	5	1	1		42	
21	6	14	11	36	5	7	8	3	5	11	6	18	8	11	11	11	6		4	1	2	2	1		43	
23	6	13	9	34	6	3	7	7	2	16	9	22	6	12	10	9	4		5	1	2	3	2		44	
																										45
																										46
																										47
																										48
																										49
																										50
26	8	20		50	2	4	8	14	4	17	5	21	3	8	11	13	5	1			1				51	
26	9	20	4	38	1	4	8	13	4	22	4	26	3	7	11	13	5	2	2		2	8	1		52	
21	9	21	6	42	3	5	9	8	3	15	3	22	2	5	9	15	5	1	1	2		8			53	
25	9	27	7	37	3	6	5	5	5	20	2	23	1	5	6	9	6	1	2	3	2	8			54	
20	10	27	11	38	4	5	6	2	4	16	3	27	1	8	8	9	5		3	3	2	8	1		55	
18	10	18	9	33	1	6	5	4	2	13	3	29	1	9	8	7	7		3	1	2	6	1		56	
19	6	15	7	28		5	8	8		11	6	24	2	10	10	4	4		4		3	2	1	1	57	
18	8	13	10	27	1	5	8	6	2	9	4	23	4	9	5	8	3		3	1	3	4		4	58	
15	8	18	7	30	2	6	8	6	3	12	4	20	4	8	9	4	3	1	5	1	3	5	1	4	59	
16	9	15	9	35	3	5	5	3	4	9		21	4	8	6	4	3		6	1	1	5	1	9	60	
17	6	18	7	36	3	4	3	4	2	14	1	21	3	8	6	3	4		8	2	1	3	1	11	61	
17	5	14	8	35	2	2	2	4	3	10	1	21	3	7	3	5	3		7	3	3	5		21	62	
16	7	11	8	26	3	3	5	4	2	9	1	24	2	4	3	4	7	1	7	4	4	5		19	63	
14	7	11	9	19	2	4	6	2	2	4	3	23	1	4	5	5	6	1	8	2	3	5	1	18	1	
19	5	12	2	23		3	5	1	2	4	3	23	1	2	4	7	4	2	6	1	1	4	4	10	2	
13	4	15	5	10		3	2	6	1	6	4	19	1	4	4	6	1	2	8		2	2	5	11	3	
11	3	13	5	10		2	3	5	2	5	2	12	2	3	2	6	1	2	4	1	2	2	3	9	4	
5	3	12		16	3	2	2	6		5	5	14	1	3	6	4	1	2	4	2	2	2	5	8	5	
7	2	13	3	12	1	3	3	3	1	4	4	9	2	4	6	4	1	2	2	2	1	2	4	2	6	
7	4	13	2	10	1	4	2	2		6	4	14	1	4	7	2	3	2	4	2	3	1	2	2	7	
12	4	9	6	8	1	3	2	5		7	2	11	1	5	4	3	4	1	3	3	3	2			8	
12	4	7	6	8		1	5	4		7	3	14	1	2	4	3	4	1	2	4	4	2			9	
9	3	7	3	10			4	7		6	1	10	1	3	4	3	2	3		2		4	1		10	

合	田	そ	宮	只	荒	坂	檜	福	小	黒	長	八	熊	亀	大	布	小	九	塩	二	梁	小	和	下	富	片
計	島	の	渕	見	島	田	戸	井	川	谷	浜	木	倉	岡	倉	沢	林	々	之	軒	取	野	泉	山	山	貝

県立高等学校授業料の年度別推移

(通信制は受講料)

県教育庁資料 (単位・円)

年度	全 日 制	定 時 制	別 科	専 攻 科	通 信 制	摘 要
23	月額 100	月額 30 夜間 月額 60			国語 年額 45 数学 // 75 西洋史 // 75 理科 // 75 家庭 // 150 // (// 225)	
24	月額 200	月額 70 夜間 月額 120			//	
25	年額 2,400	修業年限 3 年 年額 2,400 修業年限 4 年 年額 1,200 修業年限 5 年 年額 840	年額 2,400	全日制に含まれる	//	
26	年額 3,600	修業年限 4 年 年額 1,800 修業年限 4 年 6 ヶ月以上 年額 1,200 通信教育受講生 年額 600	通常の課程 年額 3,600 定時制の課程 年額 1,800	//	国語 年額 150 漢文 // 100 一般社会 // 200 人文地理 // 200 解析 // 200 地理 // 200	
27	年額 4,200	修業年限 4 年 年額 2,400 修業年限 4 年 6 ヶ月以上 年額 1,440 通信教育受講生 年額 600	通常の課程 年額 4,200 定時制の課程 年額 2,400	//	//	
28	年額 5,100	修業年限 4 年 年額 2,880 年間13単位以上 20単位未満 年額 900 年間7 単位以上 13単位未満 年額 600 年間7 単位未満 年額 200	通常の課程 年額 5,100 定時制の課程 年額 2,880	//	//	

年度	全 日 制	定 時 制	別 科	専 攻 科	通 信 制	摘 要
29	年額 6,000	修業年限4年 年額 3,000 年間13単位以上 20単位未満 年額 1,000 年間7単位以上 13単位未満 年額 700 年間7単位未満 年額 230	通常の課程 年額 6,000 定時制の課程 年額 3,000	〃	〃	
30	年額 6,600	修業年限4年 年額 3,300 年間13単位以上 20単位未満 年額 1,100 年間7単位以上 13単位未満 年額 780 年間7単位未満 年額 250	通常の課程 年額 6,600 定時制の課程 年額 3,300	〃	〃	
31 } 32	年額 7,200	修業年限4年 年額 3,500 年間13単位以上 20単位未満 年額 1,200 年間7単位以上 13単位未満 年額 800 年間7単位未満 年額 260	通常の課程 年額 7,200 定時制の課程 年額 3,500	年額 7,200	〃	32年 専攻科 改正
33 } 39	年額 7,200	修業年限4年 年額 3,500 年間13単位以上 20単位未満 年額 1,200 年間7単位以上 13単位未満 年額 800 年間7単位未満 年額 260	年額 3,500	年額 7,200	1科目当りの単 位数が 2単位の場合 1科目につき 100 3単位の場合 1科目につき 150 4単位の場合 1科目につき 200	33年 通信教育 制受講料 改正

年度	全 日 制	定 時 制	別 科	専 攻 科	通 信 制	摘 要
40 ～ 47	月額 900	年間21単位以上 月額 300 年間21単位未満 月額 100	年間21単位以上 月額 300 年間14単位以上 21単位未満 月額 100 年間14単位未満 開校期間のみ 年間 200	月額 900	〃	40年 授業料条例 の大幅改正 及び通信教 育 条例の統合、 月額300円 の場合の3 月分は200 円となる
48 ～ 51	月額 1,200	月額 300	月額 300	月額 1,200	〃	月額300円 の場合の3 月分は200 円となる
52 ～ 53	月額 3,200	月額 600		月額 3,200	〃	
54 ～ 55	月額 4,800	月額 900		月額 4,800	〃	
56 ～ 57	月額 5,600	月額 1,050		月額 5,600	〃	
58 ～ 60	月額 6,200	月額 1,200		月額 6,200	1科目当りの単 位数が 2単位の場合 1科目につき 160 3単位の場合 1科目につき 240 4単位の場合 1科目につき 320	

年度	全 日 制	定 時 制	別 科	専 攻 科	通 信 制	摘 要
61 ～ 63	月額 6,900	月額 1,400		月額 6,900	1科目当りの単位数が 2単位の場合 1科目につき 180 3単位の場合 1科目につき 270 4単位の場合 1科目につき 360	
元 ～ 3	月額 7,400	月額 1,500		月額 7,400	1科目当りの単位数が 2単位の場合 1科目につき 200 3単位の場合 1科目につき 300 4単位の場合 1科目につき 400	
4 ～ 6	月額 8,200	月額 1,650		月額 8,200	1科目当りの単位数が 2単位の場合 1科目につき 220 3単位の場合 1科目につき 330 4単位の場合 1科目につき 440	
7 ～ 9	月額 8,700	月額 1,750		月額 8,700	1科目当りの単位数が 2単位の場合 1科目につき 240 3単位の場合 1科目につき 360 4単位の場合 1科目につき 480	

県立高等学校入学料の年度別推移

県教育庁資料（単位・円）

年度	全 日 制	定 時 制	別 科	専 攻 科	通 信 制	摘 要
23 ～ 27					20	
28 ～ 29					30	
30 ～ 31	200	100	通常の課程 200 定時制の課程 100	全日制に含まれる	30	通信制以外の課程は30年度より入学料徴収
32 ～ 47	200	100	100	200	30	
48 ～ 51	400	100	100	400	30	
52 ～ 53	1,000	400		1,000	100	
54 ～ 55	1,200	500		1,200	100	
56 ～ 57	1,600	650		1,600	100	
58 ～ 60	2,500	1,000		2,500	150	
61 ～ 63	3,000	1,200		3,000	200	
元 ～ 3	4,000	1,600		4,000	270	
4 ～ 6	4,600	1,700		4,600	270	
7 ～ 9	5,400	2,000		5,400	320	

歴代学校長・教頭・PTA会長・同窓会長・湧雲会長・生徒会長一覽

昭和四七	昭和四六	昭和四五	昭和四四	昭和四三	昭和四二	昭和四一	昭和四〇	昭和三九	昭和三八	昭和三七	昭和三六	昭和三五	昭和三四	昭和三三	昭和三二	昭和三一	昭和三〇	昭和二九	昭和二八	昭和二七	昭和二六	昭和二五	昭和二四	昭和二三	和曆
一九七二	一九七一	一九七〇	一九六九	一九六八	一九六七	一九六六	一九六五	一九六四	一九六三	一九六二	一九六一	一九六〇	一九五九	一九五八	一九五七	一九五六	一九五五	一九五四	一九五三	一九五二	一九五一	一九五〇	一九四九	一九四八	西曆
9	"	"	8	"	7	"	"	"	6	"	5	"	"	4	"	3	"	"	2	"	"	"	"	初	代
船田元喜	"	"	橋本年雄	"	橋本秀夫	"	"	"	角田祥治	"	目黒嘉祐	"	"	近藤金弥	"	後藤次郎	"	"	西間木正巳	"	"	"	"	玉川春雄	学 校 長
"	山口利助	"	井上正道	"	金川孝	"	"	"	"	"	菊地憲	"	"	大久保善一	"	"	"	"	"	"	"	"	"	不 在	教 頭
"	"	五十嵐友彰	"	"	"	山内正司	"	"	近藤正智	"	星博	"	"	"	"	"	"	"	近藤正智	"	"	渡部安彦	"	近藤正智	P T A 会 長
"	"	"	"	"	"	"	"	"	斎藤脩	"	"	"	"	山内太郎	"	山内久男	"	"	山内太郎	"	"	"	"	"	同 窓 会 長
"	"	"	"	"	"	"	"	"	辺見文助	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	湧 雲 会 長
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1						回 卒
羽染盛夫	小椋秀人	川原田友新	菅家新樹	五十嵐正樹	渡部克行	菊地春一	関博之	馬場俊三	斎藤芳通	斎藤英三	五十嵐清美	森健樹	平野哲哉	三瓶恒雄	斎藤英二	馬場俊	山内久子	五十嵐時雄	"	酒井淳	"	"	"	坂内勝典	生 徒 会 長

平成十	平成九	平成八	平成七	平成六	平成五	平成四	平成三	平成二	平成元年	昭和六三	昭和六二	昭和六一	昭和六〇	昭和五九	昭和五八	昭和五七	昭和五六	昭和五五	昭和五四	昭和五三	昭和五二	昭和五一	昭和五〇	昭和四九	昭和四八	和曆
一九九八	一九九七	一九九六	一九九五	一九九四	一九九三	一九九二	一九九一	一九九〇	一九八九	一九八八	一九八七	一九八六	一九八五	一九八四	一九八三	一九八二	一九八一	一九八〇	一九七九	一九七八	一九七七	一九七六	一九七五	一九七四	一九七三	西曆
〃	20	〃	19	〃	18	〃	17	〃	〃	16	〃	15	〃	14	〃	13	〃	12	〃	〃	11	〃	10	〃	9	代
〃	山田和彦	須田敬	鈴木圭介	鈴木圭介	鈴木圭介	鳴原長三郎	〃	〃	渡部光明	遠藤孝	鈴木茂	〃	〃	鈴木茂	遠藤勝美	〃	星野俊一	〃	〃	佐川昇	〃	太田宏	〃	船田元喜	学 校 長	
〃	〃	〃	佐々木忠司	〃	〃	室井大和	〃	〃	小野韶芳	〃	堀金良臣	〃	〃	高澤武	〃	佐々木俊昭	〃	〃	〃	玉川真須美	〃	〃	藤田光明	〃	佐々木慶司	教 頭
〃	森豊喜	〃	〃	馬場清雄	〃	〃	〃	〃	月田和行	〃	〃	〃	〃	馬場太一	〃	馬場文夫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	渡部次郎	P T A 会 長
〃	〃	〃	辺見賢	〃	〃	〃	目黒幸雄	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五十嵐廣	〃	〃	〃	平野修治	〃	〃	〃	〃	齋藤脩	同 窓 会 長
〃	〃	山内太郎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	渡部次郎	〃	〃	齋藤良三	〃	〃	〃	〃	五十嵐友彰	湧 雲 会 長
46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	回 卒
〃	森大二郎	山内清央	菊地聖子	舟木努	平野健二	渡部愛子	森茂樹	五十嵐正幸	星健	橋川弘明	井坂剛	森徳弘	星克之	目黒智夫	津久井和人	山内昭弘	月田信三	五十嵐公士	三瓶敦史	河原田信弘	坂内史彦	馬場宗一	山崎郁生	小山正充	馬場達	生 徒 会 長

記
念
事
業
關
係

趣 意 書

初夏の候、貴殿におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育の振興につきまして深いご理解と格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、「山脈の肌清く 晴れゆく朝 伊南のせせらぎ 水澄むところ・・・」と校歌に唱われる南会津高等学校は、昭和二十三年、学制改革の方針に合わせ当南会津西部地域でも人々の高等学校開設への機運が盛り上がり、地元の皆様のご声援のもと、同七月に新制高等学校「福島県立南会津西部高等学校」として産声をあげました。

爾来半世紀、幾多の変遷と困難を経て、地元をはじめ全国で活躍する卒業生五千三百余名を有する、地域に根差した教育機関として、発展してまいりました。これひとえに、福島県並びに地元南郷村をはじめとする関係町村は勿論のこと、歴代PTA・同窓会および関係者の方々のご厚情の賜物であり、深く御礼申し上げます。現在、百五十余名の生徒が「真摯・明朗・健康」の校訓のもと、日々勉学に、部活動に努力精励しております。生徒一人ひとりの進路の実現や運動部の活動等は成果を着実に上げており、地域社会の本校に対する期待と評価は年々高まっております。

ここに、創立五十周年を迎えるにあたり、本校教育の発展にご尽力賜りました皆様に深甚なる謝意を表すとともに、在校生、同窓生、関係者共々この歴史と伝統の重さをかみしめながら、なお一層の飛躍・発展を誓い、創立五十周年記念式典並びに左記の記念事業を実施するものであります。

福島県立南会津高等学校創立五十周年記念事業実行委員会

委 員	長 (前PTA会長)	馬 場 清 雄
副 委 員	長 (湧雲会会長)	山 内 太 郎
同	(同窓会会長)	辺 見 賢 郎
同	(PTA会長)	森 豊 喜
同	(PTA副会長)	安 藤 邦 幸
同	()	山 内 政 二
同	(前PTA副会長)	川 原 田 紹 二
同	()	平 野 洋 光
同	()	山 田 和 彦
福島県立南会津高等学校長		

記

- 一 行事内容
 - (一) 記念式典・記念講演会・祝賀会 平成十年九月五日(土)
 - (二) 南高祭 平成十年九月四日(金) ～ 平成十年九月六日(日)
- 二 記念事業
 - (一) トレーニングマシンの設置
 - (二) 創立五十周年記念誌の発行
 - (三) 校歌及び校訓扁額
- 三 募金総額
 - 式千式百万円

平成十年六月吉日

福島県立南会津高等学校創立五十周年 記念事業実行委員会規約

(名称)

第一条 本会は、福島県立南会津高等学校創立五十周年記念事業実行委員会と称する。

(目的)

第二条 本会は、福島県立南会津高等学校創立五十周年記念事業を推進することを目的とする。

(構成)

第三条 本会は、本校同窓会会員・PTA会員・湧雲会会員及び本校教職員の中からそれぞれ選出された委員をもって構成する。

(事務局)

第四条 本会の事務局を福島県立南会津高等学校におく。

(役員)

第五条 本会には、次の役員・委員をおく。

実行委員長 一名、 副委員長 五名
監事 三名、 専門委員 数十名

(役員の仕事)

第六条 役員・委員の仕事は次のとおりとする。

一、実行委員長は、本会を代表して会務を統括する。
二、副委員長は、実行委員長を補佐し、委員長事故あるときはその職務を代行する。

三、監事は、本会の会計を監査する。

四、専門委員は、実行委員長の委嘱により本会の専門員会の業務を担当する。

(実行委員会の仕事)

第七条 実行委員会は、次のことを行う。

一、本会の事業全般に関すること。
二、本会の予算・決算に関すること。
三、その他必要なこと。

(役員の仕事)

第八条 役員の仕事は、創立五十周年記念事業の目的達成の時期までとする。

(顧問)

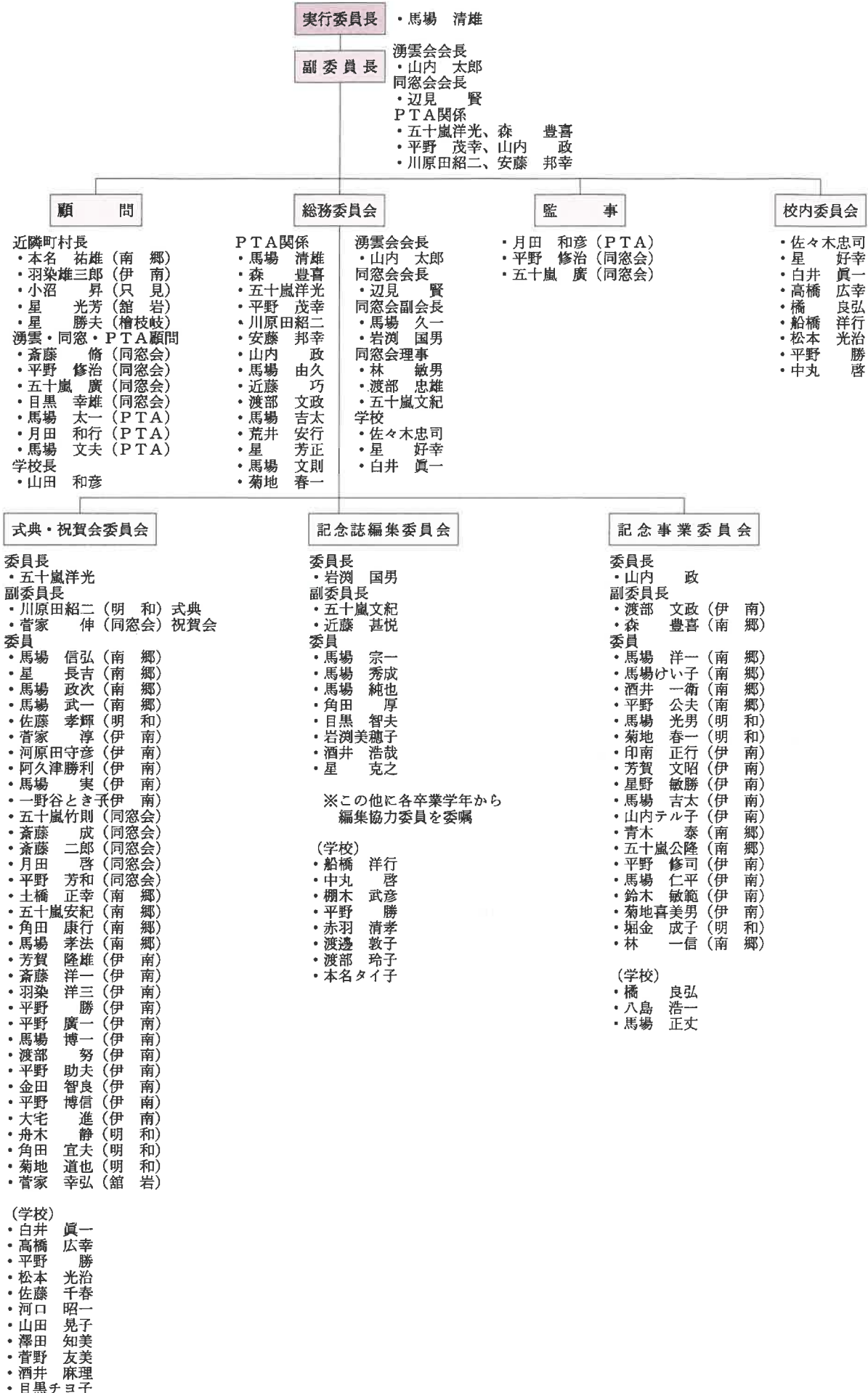
第九条 本会には顧問をおくことができる。

(経費)

第十条 本会の経費は、寄付金、協賛金その他の収入をもってこれに充てる。

付則 この規約は平成八年四月一日より施行する。

実行委員会組織図



経過報告

・平成七年十月三十一日

南会津高校を考える会

一、創立五十周年記念事業の取り組みについて

記念式典を平成十年の秋に実施

二、記念事業推進母体の設置について

実行委員会を組織

(一) 委員は、南会津高校を考える会、PTA・同窓会の役員、南郷

村長、伊南村長、本校教職員とする

三、母体代表の選定について 代表は実行委員会で決定

(一) 第一回実行委員会を平成八年一月に実施

(二) 事務局は学校とする

・平成八年一月十六日

実行委員会委員を委嘱

・平成八年一月二十九日

第一回実行委員会（準備委員会）

(一) 実行委員長の選出

委員長にPTA会長の馬場 清雄氏を選出

(二) 事業内容

記念式典、記念事業、記念誌の発行、祝賀行事等とする

(三) 組織について

原案作成の委員会を作り、今年度中に開催する

・平成八年三月一日

実行委員会の組織作りのための準備委員会

出席者 PTA会長と副会長三名、同窓会長と副会長二名、湧雲会長、

同窓会顧問二名（山内、五十嵐）、学校四名

(一) 実行委員会の組織について

案その二とする

① 副委員長は同窓会長、湧雲会長、南郷地区PTA副会長とする

る

② 顧問 南郷・伊南・館岩・檜枝岐村長、只見町長、学校長、

歴代同窓会長・PTA会長・湧雲会長とする

③ 募金活動は総務委員会で行う

④ 式典・祝賀会委員会、記念事業委員会の委員長はPTAから

選出

記念誌編集委員会の委員長は同窓会から選出する

(二) 規約について

原案通りとし、平成八年四月一日より施行

(三) 次回の実行委員会は五月下旬から六月上旬に開く

・平成八年五月十五日

第一回校内委員会

・校内委員は教頭、事務局、白井、星、橘、船橋、松本、中丸

- ・平成八年六月十二日
同窓会役員会

- ・同窓会から実行委員会に入る専門委員の選出について話し合い、役員で委員を推薦することに決定

- ・平成八年六月十四日

- PTA会長、副会長による話し合い

- ・PTA役員の役割分担について話し合い、専門委員の推薦を行なう

- ・平成八年七月十二日

- 同窓会総会

- ・同窓会からの専門委員の推薦を決定

- ・平成八年七月二十四日

- 第一回記念誌編集委員会

- ・編集委員の役割分担について話し合う

- ・平成八年七月二十九日

- 第一回総務委員会

- ・八月六日の実行委員会に向けて協議

- ・平成八年八月六日

- 第一回創立五十周年記念事業実行委員会（拡大）

- ・規約を一部改正（副委員長三名を五名とする）し、副委員長にP

- TA副会長の平野茂幸氏、川原田紹二氏の二名を追加委嘱。その他

- の件については原案とおりました承

- ・第二回創立五十周年記念事業実行委員会を十一月下旬～十二月初旬に開催する予定

- ・平成八年十一月十二日

- 第一回専門委員会（式典・祝賀会委員会、記念事業委員会）

- ・次回の総務委員会にかける案件について話し合う

- ・平成八年十二月二十日

- 第二回総務委員会

- ・専門委員会から出された案についての検討と趣意書について話し

- 合う

- ・平成九年一月二十八日

- 第三回総務委員会

- ・第二回創立五十周年記念事業実行委員会の案件について話し合う

- ・平成九年二月十二日

- 第二回創立五十周年記念事業実行委員会

- ・記念行事・事業等の確認

- ・募金（募金額、開始日、期間）及び予算案について話し合う

- ・平成九年五月十五日

- 第四回総務委員会

- ・募金の方法（一般、同窓会、篤志、教職員）について話し合う

- ・六月中に専門委員会・実行委員会を開催する方向で話し合う

・平成九年五月二十八日

総務小委員会

- ・篤志寄付者のリストアップとおおよその募金予定額について話し合う

・募金について、免税措置はしない方向で話し合う

・平成九年六月十二日

第二回専門委員会（式典・祝賀委員会、記念事業委員会）

- ・各専門委員会の今後のタイムスケジュールを話し合う
- ・記念講演者及び記念品の選定について話し合う

・平成九年六月二十日

第三回創立五十周年記念事業実行委員会

- ・募金の方法（一般、同窓会、篤志、教職員）について決定
- ・各種委員会のタイムスケジュールの決定
- ・トレーニングマシン設置場所（三階の選択教室）の決定

・平成九年九月二十五日

創立五十周年記念実行委員会懇談会

- ・募金の進捗状況の報告
- ・記念講演会講演者の決定（渡部潤一理学博士 天文台広報室長 会高卒）

・平成九年十一月五日

第五回総務委員会

- ・募金の進捗状況の報告

・校歌・校訓扁額の作成について

・式典・祝賀会諸係の検討

・平成十年一月二十六日

第四回創立五十周年記念事業実行委員会

- ・校歌・校訓扁額完成の報告
- ・募金の進捗状況の報告
- ・記念誌編集・同窓会名簿の進捗状況の報告

・平成十年二月九日

第三回専門委員会

- （式典・祝賀委員会、記念誌編集委員会、記念事業委員会）
- ・各専門委員会の現在までの取り組み状況の報告
- ・各専門委員会の今後の具体的な取り組み及びその日程について話し合う
- ・式典・記念講演会・祝賀会の日程について話し合う

・平成十年二月二十五日

第一回式典・祝賀会委員会

- ・式典・祝賀会における業務内容と役割分担について話し合う
 - ・式典・祝賀会招待者の選定について話し合う
- （平成十年三月一日の卒業式に校歌・校訓扁額の披露）

・平成十年三月二十日

第六回総務委員会

- ・式典・記念講演会・祝賀会の日程の決定

- ・式典・祝賀会の招待者の選定
- ・募金の収受状況の報告

- ・式典・祝賀会における業務内容と役割分担の決定（教職員以外）
- ・記念品は風呂敷に決定。詳細は後日話し合う

・平成十年四月十三日

第二回校内委員会

- ・平成十年年度の校内委員は教頭、事務長、白井、高橋、橋、船橋、平野、松本、中丸

- ・式典・祝賀会の各係の分担（教職員）について了承
- ・今後の進め方について話し合う

・平成十年四月二十九日

第五回創立五十周年記念事業実行委員会

- ・経過報告
- ・募金の収受状況の報告
- ・式典・記念講演会・祝賀会の日程決定

アトラクションは梁取神楽・久川城太鼓・鶴巢の早乙女の三つに決定

- ・式典・祝賀会の業務内容と役割分担（教職員）について報告
- ・記念誌編集・同窓会名簿作成の進捗状況について報告
- ・式典・祝賀会招待者及び感謝状受賞者について
- ・記念品について話し合う

- ・各種委員会・総務委員会等の今後の日程及び諸準備確認リスト
- ・マイクロバス・トレーニングマシンの選定は5月中旬

・平成十年六月八日

第六回総務委員会

- ・トレーニングマシンの選定の方法及び業者決定
- ・協賛金収受の進捗状況について
- ・記念品（感謝状贈呈者）の選定について
- 三、〇〇〇円程度の木工製品に決定

- ・記念品（風呂敷）のデザインと配布先及び発注方法について

配布先は式典招待者・実行委員・生徒・五、〇〇〇円以上の寄付者

五、〇〇〇円未満寄付者にも手拭いを配布する
業者は村内で入札し決定

- ・祝賀会の時間について調整
- ・アトラクションについて
- ・予定表について
- ・式典・祝賀会の係分担について
- ・RTA新役員の実行委員委嘱について

・平成十年七月六日

祝賀会アトラクション打合せ会

- ・アトラクションの内容等について話し合う
- 時間・出演人数・準備・その他についての詳細決定

・平成十年七月十三日

式典・祝賀会委員会打合せ

- ・式典及び祝賀会の出席状況を報告
- ・祝賀会アトラクションについて報告

・式典及び祝賀会の送迎バスの運転について

・高校から南郷体育館まで会津バスで短時間に輸送する

・祝賀会料理の準備について

・ダーダラに依頼 オードブル形式の立食に決定

・受付場所と受付用テントの準備さらに控室の準備について

・祝賀会での受付はなし

・式典、記念講演会、祝賀会等の準備状況について報告

・今後の日程と準備活動について

・式典当日の委員会の業務内容について

・平成十年七月十三日

第七回総務委員会

・各専門委員会事業の進捗状況について報告

・トレーニングマシンの納品は八月二十一日

・式典及び祝賀会の出席状況について報告

・欠席される招待者への贈呈品について話し合う

・受賞者の感謝状は筒に入れて送る

・祝賀会の料理について

・式典、記念講演会、祝賀会準備の進捗状況について報告

・今後の日程と準備活動について

・平成十年七月二十八日

第六回創立五十周年記念事業実行委員会

・式典及び祝賀会の出席状況について報告

・各専門委員会事業の進捗状況について報告

・式典・記念講演会・祝賀会準備の進捗状況について報告

・今後の日程と準備活動について

(記念誌編集の都合上七月末までの報告となります。)



トレーニング マシンの一部

創立五十周年記念式典等の日程

〔記念式典〕

日	時	平成十年九月五日（土）
場	所	本校体育館
時	間	午前九時三十分～午前十時四十五分
		黙とう
	一、	開式のことば
	二、	国歌斉唱
	三、	学校長式辞
	四、	創立五十周年記念事業実行委員会委員 長あいさつ
	五、	福島県教育委員会教育長あいさつ
	六、	記念事業目録贈呈並びに校歌・校訓扁 額除幕
	七、	マイクロバス披露
	八、	感謝状・表彰状贈呈
	九、	来賓祝辞
	十、	来賓紹介
	十一、	受賞者代表あいさつ
	十二、	生徒代表あいさつ
	十三、	校歌斉唱
	十四、	閉式のことば

〔記念講演会〕

日	時	平成十年九月五日（土）
場	所	本校体育館
時	間	午前十一時〇〇分～十二時〇〇分
	一、	開会のことば
	二、	講師紹介
	三、	講演
	四、	御礼のことば
	五、	花束贈呈
	六、	閉会のことば

〔祝賀会〕

日	時	平成十年九月五日（土）
場	所	南郷体育館
時	間	午後〇時五十分～午後二時二十分
	一、	開会のことば
	二、	学校長あいさつ
	三、	創立五十周年記念事業実行委員会委員 長あいさつ
	四、	来賓祝辞
	五、	乾杯
	六、	祝宴 (アトラクションを含む)
	七、	万歳三唱
	八、	閉会のことば

編集後記

創立五十周年記念事業の一環として記念誌が発行されることになり、記念誌編集委員は、今まで記念誌・名簿等作成経験のある者を要し、南郷村役場職員の同窓生（六名）と、学校教職員（八名）のメンバーで編集にあたることになりました。記念誌の内容打合せは平成九年三月に行い、基本方針を決定し、一つには前回の「三十三周年記念誌」の内容と同様に「目で見ると沿革誌」を中心にするため、写真を多くして、二色刷でサイズをA4版と大きく、少し豪華版にすること。二つには各年度卒業生から一名づつ寄稿文と出し出の写真等の提出をお願いし、さらに校内の資料（卒業アルバム、学校要覧、学校新聞等）を使ってなるべく手間をかけず、堅苦しくなく、見やすく、読みやすいものに工夫することにしました。

同窓生各位に寄稿及び写真・資料提供のお願いをしたのが平成九年十月で、締切を十一月末日にしました。少しでも多くの人の温もりをこの記念誌に込めたいと思い、期間まで提出できない人には二カ月前、三カ月前と、気長に待つことにし、平成十年三月ごろにはなんとかまともめる予定でしたが、半分位しか集まらず、焦りがでてきました。

なかには半年近くたって提出されたものもあり、寄稿文等提出の遅れが記念誌の内容に影響し、実質編集作業開始は四月に入ってしまった、いろんな角度からの資料集めに見直しを行いました。新しい企画を考える時間的余裕もなくなり、編集作業を大幅に遅らせる結果になってしまいました。

母校の細かな歩みを要覧等からできるだけ掘りおこし、後世に残そうと思いましたが当時の資料は度重なる水害で紛失し、また資料内容が統一されてなく、統計的に全部をまとめることができず、やむなく分校をのぞき、本校分からの資料になってしまったのが少し残念でした。思いつきのように閃いたアイデアがでるたび、学校側の編集委員にあれこれと資料を頼み、本当に負担をかけてしまいました。あれだけあった時間が、いつの間にか一夜づけの編集に似たものになってしまい完璧さに欠けた思いがしました。校正は委員が仕事の合間をみての作業なので、全員そろっての打合せはできず、それぞれに手分けをして行いました。

教職員による「故渡部次郎先生を偲んで」の特集と、学校長から提案された斎藤昌己先生の夫婦愛についての特集ができたことが、内容に厚みを加えてくれました。皆さんに記念式典の理解を深めていただくため、実行委員会の進行状況などできるだけ網羅しました。

七月末、最終校正の段階に入り、形が見えてきたころはなんとか責任全うの思いで、安堵の気持ちに変わってきました。

記念誌ができあがったのは快くご寄稿くださいました皆様のご協力の賜であり、厚く感謝申し上げます。また、校内でも教職員全員に惜しみない協力をいただき、編集委員一同感謝の意を表します。

今回も安藤紫香さんには貴重な新聞記事等の資料提供の協力、また会津写真商会の大竹吉夫さんには、学校の資料等の写真撮り、写真を無料提供していただき誠に感謝申し上げます。

佐島屋印刷所の浜崎さんには、こまめに足を運んで、親切にアドバイスをいただき、心よりお礼申し上げます。

この記念誌が将来の発展への資料として、わずかでも礎石として役立てば幸いと思ひ、最後に本校の限らない発展を祈念し、ご協力いただいた方々に対し、心よりお礼申し上げ編集後記とさせていただきます。

一九九八年八月

編集委員代表 五十嵐 文 紀

記念誌発行編集委員会

同 窓 生



左から
後列
前列

目黒 智夫、馬場 宗一、酒井 浩哉
五十嵐文紀、岩淵 国男、角田 厚

教 職 員



左から
後列
前列

棚木 武彦、中丸 啓、赤羽 清孝
船橋 洋行、平野 勝、渡邊 敦子
本名タイ子、渡部 玲子、渡邊 敦子

発行日 平成十年九月五日

編集者 創立五十周年記念事業実行委員会

記念誌編集委員会

発行者 福島県立南会津高等学校

南会津郡南郷村大字界字向川原二〇〇〇番地

電話 〇二四一(七三)二二二一

印刷 会津若松市中央一丁目二番五号
佐佐木印刷所 〇二四二(二四)四〇五



SINCE 1948